

令和 7 年度

シラバス

学校法人 福岡医療学院
福岡医療専門学校

理学療法科

令和 7 年度 福岡医療専門学校 理学療法科 シラバス 目次

教育理念		P 3
教育課程編成・実施の方針		P 3
1 年生履修科目		P 4
2 年生履修科目		P41
3 年生履修科目		P80
4 年生履修科目		P92

教育理念

親が子に残せる唯一の財産は教育である

養成人材像

豊かな人間性をもち、多職種と連携して基本的理学療法を实践できるとともに、生涯にわたり学び続ける理学療法士を養成する。

教育課程編成・実施の方針

1. 他者との良好な関係を築き、主体的な判断と行動ができる能力を養う「基礎分野」の科目を設置する。
2. 人体の構造と機能、疾病と障がいに関する知識を習得し、多職種と連携できる能力を養う「専門基礎分野」の科目を設置する。
3. 系統的な理学療法プログラムを立案し、基本的技能を実施する能力を養う「専門分野」の科目を設置する。

令和7年度1年生 履修科目

No.	科目名	単位数	時間
1	キャリアデザイン	2単位	30時間
2	スポーツ健康科学	2単位	60時間
3	社会学	2単位	30時間
4	生物	2単位	30時間
5	表現法	2単位	30時間
6	解剖学Ⅰ	2単位	60時間
7	解剖学Ⅱ	2単位	60時間
8	生理学Ⅰ	2単位	60時間
9	生理学Ⅱ	2単位	60時間
10	運動学Ⅰ	2単位	60時間
11	人間発達学	1単位	30時間
12	リハビリテーション概論	1単位	30時間
13	リハビリテーション医学	1単位	30時間
14	理学療法概論	2単位	60時間
15	早期実践演習	1単位	30時間
16	理学療法評価学Ⅰ	1単位	30時間
17	理学療法評価学Ⅱ	1単位	30時間
18	理学療法評価学Ⅲ	1単位	30時間
19	地域リハビリテーション	1単位	30時間
20	見学実習Ⅰ（早期）	1単位	40時間

科目名	キャリアデザイン						理学療法科			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位		時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	滝沢 哲也				科 目 担当者	滝沢 哲也、荒木 康浩、藤井 和彦				
科目 概要	本科目では、自分の強みを知り、キャリアとは何かを理解し、キャリアをデザインすることの必要性について考える。グループディスカッションや先輩・卒業生の話を通して、様々な理学療法士のキャリアの在り方を知ることにより、キャリアデザインを能動的に考える機会を提供する。 アクティブラーニングの核となる「協同学習」により、チーム医療に資する人間性（協同の精神）と、科学的探究力およびコミュニケーション能力などを体得し、仲間と切磋琢磨し、共に高め合う機会を提供する。 グループディスカッションや先輩・卒業生の話を通して、様々なキャリアの在り方を知ることにより、キャリアデザインを能動的に考える機会を提供する。卒業後の仕事生活を見据えて、協同的な学習方法を身につけ、学生生活の過ごし方などを自ら考えて自ら考え、選択し、判断して仲間と共に行動ができるようになることを目標とする。									
到達 目標	①キャリアとは何か、キャリアデザインとは何かについて理解する。 ②日本型雇用の特徴と今後の変化について理解する。 ③実現したいキャリアデザインを踏まえて、協同的な学習方法を身につけ、仲間と共に学生生活をの過ごす姿し方を自ら描くことができる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	自己を理解する 1			仲間の中で自分を知る①（レク）				演習	滝沢、荒木、 藤井	
2	自己を理解する 2			仲間の中で自分を知る②（レク）				演習	荒木、藤井	
3	自己を理解する 3			仲間の中で自分の強みを知る①（レク）				演習	滝沢、荒木、 藤井	
4	自己を理解する 4			仲間の中で自分の強みを知る②（レク）				演習	荒木、藤井	
5	協同的な学習 1			協同学習とは（解剖・生理復習）				講義	滝沢、荒木、 藤井	
6	協同的な学習 2			協働学習の実践①（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
7	協同的な学習 3			協同学習の実践②（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
8	協同的な学習 4			協同的な学習のまとめ（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
9	仲間との課題解決 1			仲間と課題を共有する（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
10	仲間との課題解決 2			仲間と課題解決方法を考える（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
11	仲間との課題解決 3			仲間と課題解決を進める（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
12	仲間との課題解決 4			「仲間との課題解決」のまとめ（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
13	学校生活の過ごし方 1			共に高め合う学校生活の過ごし方とは（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
14	学校生活の過ごし方 2			共に高め合う学校生活の過ごし方を考える①（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
15	学校生活の過ごし方 3			共に高め合う学校生活の過ごし方を考える②（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
16	学校生活の過ごし方 4			「学校生活の過ごし方」のまとめ（解剖・生理復習）				講義	荒木、藤井	
17	「チーム医療」を考える 1			医療従事者とは（実習準備）				演習	荒木、藤井	
18	「チーム医療」を考える 2			理学療法士の仕事の実際（実習準備）				演習	荒木、藤井	

19	「チーム医療」を考える 3	患者とのコミュニケーション（実習準備）	演習	荒木、藤井			
20	「チーム医療」を考える 4	多職種連携とは（実習準備）	演習	荒木、藤井			
21	キャリアを考える 1	先輩を知る①	講義・演習	滝沢			
22	キャリアを考える 2	先輩を知る②	演習	滝沢			
23	キャリアを考える 3	先輩を知る③	講義・演習	滝沢			
24	キャリアを考える 4	卒業生を知る	演習	滝沢			
25	キャリアを考える 5	「キャリアを考える」のまとめ	講義	滝沢			
26	就職とキャリア 1	日本型雇用、就職活動を知る	講義・演習	滝沢			
27	就職とキャリア 2	履歴書・自己紹介書①	講義	滝沢			
28	就職とキャリア 3	履歴書・自己紹介書②	講義・演習	滝沢			
29	就職とキャリア 4	履歴書・自己紹介書③、キャリア・トラジッ ション・モデル	講義・演習	滝沢			
30	キャリアを考える	キャリアデザインのまとめ	講義・演習	滝沢			
評価方法							
評価指標	課題	小テスト	演習への 参加状況	-	-	-	合計
評価割合 (%)	50	40	10	-	-	-	100
教科書	なし						
教材・参考図書	講義毎に必要な教材を紹介・配付する。講義毎に必要な教材を紹介・配付する。						
オフィスアワー	火曜日 14：00－16：00						
履修上の 注意点	・本講義は、協同学習を中心に進めるので演習では、小人数に分かれて意見交換、ディスカッションでは、を行うので、積極的に参加することが必要となる。 ・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。						

科目名	スポーツ健康科学					理学療法科			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	石本 月洋				科 目 担当者	石本 月洋			
科目 概要	スポーツは性別や年齢、障がいの有無などに関係なく、すべての人々が運動を楽しみとして求めることによって成立してきた人類共通の文化である。また、スポーツを通じ得られる倫理観や道徳心は医療人として必須であり、他者を尊重し寄り添おうとする態度にもつながると推考される。 本講義では生涯にわたりスポーツを楽しみ、体力および健康の保持増進を図る目的で、主に生涯スポーツ種目を配置する。また、講義をとおして集団の中での個の役割を自覚すること、他者との関わりから社会性を育むことを主眼とする。								
到達 目標	健全な心身を育成し、礼節をわきまえた人格を形成する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション			授業内容、各体育施設の等			講義	石本	
2	体力づくり			持久力・スピード・筋力の 3 要素を高める			講義 実技	石本	
3	ラジオ体操 1			グループ編成・ラジオ体操 1～13 の動き			実技	石本	
4	ラジオ体操 2			グループ活動			講義 実技	石本	
5	ラジオ体操 3			グループ予備発表			講義 実技	石本	
6	ラジオ体操 4			グループ活動			講義 実技	石本	
7	実技評価			実技評価（1～13 の動きのグループ発表）			講義 実技	石本	
8	シッティングバレー1			グループ編成・ルール確認・基本パス			講義 実技	石本	
9	シッティングバレー2			サーブ・レシーブ・試しのゲーム			講義 実技	石本	
10	シッティングバレー3			リーグ戦 1			講義 実技	石本	
11	シッティングバレー4			リーグ戦 2			講義 実技	石本	
12	シッティングバレー5			トーナメント戦			講義 実技	石本	
13	実技評価			実技評価（オーバー・アンダー・サーブ）			講義 実技	石本	
14	ファミリーバドミントン 1			グループ編成・ルール確認・基本ストローク			講義 実技	石本	
15	ファミリーバドミントン 2			サーブ・試しのゲーム			講義 実技	石本	
16	ファミリーバドミントン 3			リーグ戦 1			講義 実技	石本	
17	ファミリーバドミントン 4			リーグ戦 2			講義 実技	石本	
18	ファミリーバドミントン 5			トーナメント戦			講義 実技	石本	

18	実技評価	実技評価（フォア・バック・サーブ・なわ）	講義 実技	石本			
19	インディアカ 1	グループ編成・ルール確認・基本パス	講義 実技	石本			
20	インディアカ 2	サーブ・レシーブ・試しのゲーム	講義 実技	石本			
21	インディアカ 3	リーグ戦 1	講義 実技	石本			
22	インディアカ 4	リーグ戦 2	講義 実技	石本			
23	インディアカ 5	トーナメント戦	講義 実技	石本			
24	実技評価	実技評価（オーバー・アンダー・サーブ）	講義 実技	石本			
25	アルティメット 1	グループ編成・ルール確認・基本スロー	講義 実技	石本			
26	アルティメット 2	フォア&バックスロー習得・試しのゲーム	講義 実技	石本			
27	アルティメット 3	リーグ戦	講義 実技	石本			
28	アルティメット 4	トーナメント戦	講義 実技	石本			
29	実技評価	実技評価（フォア・バック・なわ）	講義 実技	石本			
30	オリエンテーション	授業内容、各体育施設の等	講義 実技	石本			
評価方法							
評価指標	小テスト・レポート等	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	初回に実技関連資料を配布する。						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	積極的に取り組むこと。 その他注意事項は、初回授業時に説明をする。 毎回の授業で行った内容については、各自十分に復習として確認・練習をしておくこと。						

科目名	社会学					理学療法科			
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	田頭 洋一			科 目 担当者	田頭 洋一、下迫 勇夫				
科目 概要	法治国家である以上、憲法を中心とした法体系の中で国民一人ひとりの生活が成立している。自然科学領域を学ぶ皆さんの日常もこの例に洩れない。この国家の成り立ちは、一般的には「国民国家」と呼ばれている。国民国家を成立させることこそが「近代」の必須条件である。								
到達 目標	本授業では、「近代」を成立させる必須条件、すなわち①領土②国民③統治機構をそれぞれ紹介しながら、ヨーロッパで成立した近代国家の史的展開を熟考したいと考えている。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	社会学オリエンテーション			社会学オリエンテーション、哲学者アドルノからのメッセージ			講義	田頭	
2	社会集団と制度的文化			社会集団（家族・集団・組織）、政治形態の変遷			講義	田頭	
3	日本の政治			モンテスキュー以後の政治、立法府国会、内閣と行政、司法の仕組み、我が国における三権分立			講義	田頭	
4	日本国憲法			法規と社会、憲法前文の理念、我が国の法体系			講義	田頭	
5	世界の中の日本文化			大陸文化の導入、産業革命以後の文化と教育			講義	田頭	
6	我が国の産業と資源			資源の現状、工業の発展と課題、GDP と GNP			講義	田頭	
7	国際社会			貿易管理の状況、ドルとユーロ、円、国際連合の仕組みと働き、平和維持活動			講義	田頭	
8	精神的文化			世界宗教の現状、仏教、キリスト教、イスラム教と原理主義、道徳と監修			講義	田頭	
9	世界史からの教訓			民族紛争、繰り返された戦争と反省、ヨーロッパ世界とアジア・アフリカ			講義	下迫	
10	世界の紛争地域			ローマ帝国とユダヤ王国、パレスチナ問題、産業革命と植民地経済、チベット問題			講義	下迫	
11	世界史の概観			人類の誕生と進化、化石の年代、古代、ゲルマン民族の大移動、ヨーロッパ近代国家の誕生、産業革命と植民地経済			講義	下迫	
12	国際経済のしくみ			ウルグアイラウンド、WTO、絶対的買収の意味、TPP			講義	下迫	
13	日本史の概観			古代史、中世史、近・現代史			講義	下迫	
14	参政権と政治参加①			選挙の実際、政治の仕組み、年代別投票率と政策			講義	下迫	
15	参政権と政治参加②			憲法改正国民投票			講義	下迫	
評価方法									
評価指標		小テスト・レポート等	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	100	
教科書	必要に応じて資料を作成し配布する。								
教材・参考図書		適宜紹介する。							

オフィスアワー	各講義の前後。
履修上の 注意点	新聞を読む習慣を身につけること。また、講義の内容については、予習・復習を行い、授業に臨むこと。

科目名	生物					理学療法科			
学年	2	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	田淵 弘太郎			科 目 担当者	田淵 弘太郎				
科目 概要	生物学で取り扱う『生物』は動物をはじめ植物等多種多様な生物が存在している。これら生物には一見すると共通する特徴・機能などは内容に見えるが生物には共通する決まりのようなものがある。 また豊かな人間性を養うと共に、保健・医療・福祉分野の課題に対して、多職種と連携を図り協働するために、ヒトが様々な刺激に対し反応することや、各種臓器が連携するために必要な神経について知る必要があるため、それに対して詳細な講義行う。 本講義では生物としてヒトを取り扱い、科学的・論理的思考の基盤に、専門科目への理解の足掛かりとなる内容を講義する。								
到達 目標	1. 生物の定義を理解し生物か否かを判断できる。また人体の機能がホメオスタシスに集約されることを理解し説明できる。 2. 神経系の基本的特徴機能について理解し説明できる。また、神経系の種類を分類し反射について理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	人体を構成する要素			原子・分子・細胞・組織・器官など			講義	田淵	
2	ホメオスタシス			内部環境、ホメオスタシス			講義	田淵	
3	からだの科学的構成①			原子の構造			講義	田淵	
4	からだの科学的構成②			体液の分類と組成			講義	田淵	
5	からだの科学的構成③			栄養素の種類（5 大栄養素）			講義	田淵	
6	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	田淵	
7	からだの科学的構成④			糖質・蛋白質・脂質の種類と構成元素			講義	田淵	
8	からだの科学的構成⑤			栄養素の代謝			講義	田淵	
9	神経系の基本的機能①			神経細胞の形態、静止膜電位、活動電位			講義	田淵	
10	神経系の基的機能②			閾刺激、全か無かの法則、不応期、イオンチャンネル			講義	田淵	
11	神経系の基本的機能③			興奮の伝導、複合活動電位、			講義	田淵	
12	神経系の基本的機能④			複合活動電位			講義	田淵	
13	神経系の基本的機能⑤			神経系の成り立ち			講義	田淵	
14	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			講義	田淵	
15	神経系の基的機能⑥			反射と反射弓			講義	田淵	
評価方法									
評価指標		100	－	－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)		生理学テキスト， 文光堂， 大地陸男				－	－	100	
教科書	適宜紹介する。								
教材・参考図書		講義の前後。その他は講義時に確認すること。							
オフィスアワー		生物で講義する内容は生理学に通じることが多いため、講義はしっかり受講すること。神経系を学んでいく上で、授業内容を理解するには生理学・解剖学の知識も必要になる。次回の講義内容は案内するので、毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。							

定期試験

	また、教科書を用いて講義を行うが、講義内容から試験問題を作成するため、ノート作成に力を入れること。

科目名	表現法						理学療法科		
学年	1	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	前期
科 目 責任者	竹下 政雄			科 目 担当者	竹下 政雄				
科目 概要	他者に対し自分の思いを表出する唯一の手段が対話である。従って自分の思いを正確にかつ的確に表出する方法を体得していなければ、他者に誤解されるばかりか他者を傷つけることさえ考えられる。このような自己表現の唯一の手段であるコミュニケーションを体系的に学んでいく。また、より具体的に、皆さんが必ず遭遇するであろう就職活動の際に必要なとされる技法、あるいは医療施設内における対話技法など、想定されるであろう場面を設定しながらを具体的に紹介していく。								
到達 目標	1. 相互理解に基づいた人間関係の構築に関わる表現についての理解及び認識を深める。 2. 話し言葉による国語の適切な使い方や敬語の効果的な使い方ができるようになる。 3. 目的と相手に応じた書き言葉（手紙、履歴書の送り状、レポート、解説文）による表現ができるようになる。 4. 効果的な対話ができる態度や能力を身に付ける。 5. 小集団（5 人程度）による課題解決型学習をとおして、主体性および協調性を身に付ける。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	あいさつ			見学実習開始時及び終了時のあいさつの仕方			講義	竹下	
2	礼状の書き方			見学実習先への礼状作成			講義	竹下	
3	返信用はがき 1			返信用はがき作成			講義	竹下	
4	手紙の作成 1			演習の反省 近況報告の作成			講義	竹下	
5	手紙の作成 2			近況報告の作成 敬語の誤例の収集			講義	竹下	
6	公文書の書式の理解と作成			公文書の書式 履歴書送り状の作成			講義	竹下	
7	敬語 1			敬語の種類(尊敬語 謙譲語Ⅰ)			講義	竹下	
8	敬語 2			敬語の種類、敬語の語例と訂正 敬語の一覧表作成			講義	竹下	
9	レポートの作成 1			序文 欠文 丁寧語 美化語			講義	竹下	
10	レポートの作成 2			尊敬語 謙譲語Ⅰ 謙譲語Ⅱ レポートの提出			講義	竹下	
11	電話			電話のかけ方・受け方 電話のメモの取り方			講義	竹下	
12	資料収集の視点			レポート作成準備			講義	竹下	
13	おかしな日本語			日常生活上 対 上司 対 患者（良好なコミュニケーション）			講義	竹下	
14	レポート作成 3			日常生活上 対 上司			講義	竹下	
15	レポート作成 4			対 患者 対 上司			講義	竹下	
評価方法									
評価指標		小テスト・レポート等	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	教科書は配布せず、学習プリントを適宜配付する。								
教材・参考図書		講義の中で適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義の前後を活用すること							
履修上の	・課題の提出期日に遅れず提出すること。								

注意点

- ・ 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。

科目名	解剖学Ⅰ					理学療法科			
学年	1	分野	基礎医学	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	林 慶和			科 目 担当者	林 慶和				
科目 概要	本講義は、ヒトの身体の構造及び機能を体系的に学んでいく。皆さんが専門領域とする理学療法は、身体の構造及び機能を熟知することを基礎的条件としている。また一方で、「即戦力」を目指すためにも非常に重要な領域です。 対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するために、解剖の基礎となる、骨筋系、脈管系、体表解剖を身体の特徴を紹介しながら、皆さんの理解が深まるように進めていきます。								
到達 目標	1. 骨の基本構造を理解し、人体を構成する主な骨を説明できる。 2. 関節の基本構造を理解し、人体を構成する主な関節を説明できる。 3. 筋の起始停止を理解し、人体を構成する主な筋を説明できる。 4. 上肢・下肢・体幹の主な筋膜を理解し、人体を構成する主な筋膜を説明できる。 5. 上肢・下肢の主な神経・脈管を理解し、人体を構成する主な神経・脈管を説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	総論 1			身体の区分、面や方向を示す用語			講義	林	
2	総論 2			骨の構造、筋の構造			講義	林	
3	総論 3			関節の形態と可動域			講義	林	
4	運動器系（上肢）1			上肢の骨			講義	林	
5	運動器系（上肢）2			上肢の関節			講義	林	
6	運動器系（上肢）3			上肢の筋 1			講義	林	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	林	
8	運動器系（上肢）4			上肢の筋 2			講義	林	
9	運動器系（上肢）5			上肢の筋膜			講義	林	
10	運動器系（上肢）6			上肢の神経			講義	林	
11	運動器系（上肢）7			上肢の脈管			講義	林	
12	運動器系（下肢）1			下肢の骨 1			講義	林	
13	運動器系（下肢）2			下肢の骨 2			講義	林	
14	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ			講義	林	
15	運動器系（下肢）3			下肢の関節 1			講義	林	
16	運動器系（下肢）4			下肢の関節 2			講義	林	
17	運動器系（下肢）5			下肢の筋 1			講義	林	
18	運動器系（下肢）6			下肢の筋 2			講義	林	
19	運動器系（下肢）7			下肢の筋膜、下肢の神経			講義	林	
20	運動器系（下肢）8			下肢の脈管			講義	林	
21	運動器系（頭頸部・体幹）1			頭部の骨 1			講義	林	
22	まとめ 3			15～21 回の中間まとめ			講義	林	
23	運動器系（頭頸部・体幹）2			頭部の骨 2			講義	林	
24	運動器系（頭頸部・体幹）3			椎骨			講義	林	
25	運動器系（頭頸部・体幹）4			胸郭の骨			講義	林	
26	運動器系（頭頸部・体幹）5			頭頸部と体幹の関節			講義	林	

27	運動器系（頭頸部・体幹）6	頭頸部の筋	講義	林			
28	運動器系（頭頸部・体幹）7	頸部の筋膜、体幹の筋	講義	林			
29	運動器系（頭頸部・体幹）8	体幹の筋、筋膜	講義	林			
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ	講義	林			
評価方法							
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)	100	－	－	－	－	－	100
教科書	PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 解剖学（第2版），羊土社，坂井建雄他						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義では皆さんが初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	解剖学Ⅱ					理学療法科			
学年	1	分野	基礎医学	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	大谷 崇仁			科 目 担当者	大谷 崇仁				
科目 概要	解剖学Ⅱでは、人体を構成する内臓系や神経系が身体の中の部位にあるのか、各器官の形態・構造およびその機能と各器官が果たす役割について学ぶ。特に神経系は、一人ひとりが熟知すべき重要な領域である。 対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、神経・筋接合部のメカニズムを理解することは重要である。この領域に関する研究が今現在どの程度まで進められているのか、最新の情報を紹介しながら、理解を深めていく。								
到達 目標	1. 身体組織の構造と機能及び心身の発達などを系統立てて理解し、その役割を説明できる。 2. 内臓系、神経系の構造・形態およびその機能について理解し、説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	循環器系 1		肺循環と体循環、血管の構造				講義	大谷	
2	循環器系 2		心臓				講義	大谷	
3	循環器系 3		全身の動脈、全身の静脈				講義	大谷	
4	呼吸器系 1		鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管と気管支				講義	大谷	
5	呼吸器系 2		肺、縦隔、呼吸筋				講義	大谷	
6	消化器系 1		口腔、口唇、頬、口蓋、舌、歯、唾液腺、咽頭				講義	大谷	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	大谷	
8	消化器系 2		食道、胃、小腸、大腸				講義	大谷	
9	消化器系 3		肝臓、胆嚢				講義	大谷	
10	消化器系 4		膵臓、脾臓、胸腺、腹膜、嚥下				講義	大谷	
11	内分泌系 1		内分泌と外分泌、内分泌腺とホルモン、視床下部、下垂体、松果体				講義	大谷	
12	内分泌系 2		甲状腺、副甲状腺、膵臓				講義	大谷	
13	内分泌系 3		副腎、腎臓、性腺、消化管、心臓、脂肪細胞				講義	大谷	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	大谷	
15	泌尿器系 1		腎臓				講義	大谷	
16	泌尿器系 2		尿管、膀胱、尿道				講義	大谷	
17	泌尿器系 3		生殖器				講義	大谷	
18	神経系 1		神経系の区分、神経系を構成する細胞				講義	大谷	
19	神経系 2		中枢神経系の構成 1				講義	大谷	
20	神経系 3		中枢神経系の構成 2				講義	大谷	
21	神経系 5		中枢神経系の構成 3				講義	大谷	
22	まとめ 3		15～21 回の中間まとめ				講義	大谷	
23	神経系 6		中枢神経系の構成 4				講義	大谷	
24	神経系 7		末梢神経系の構成 1				講義	大谷	
25	神経系 8		末梢神経系の構成 2				講義	大谷	
26	神経系 9		自律神経				講義	大谷	
27	感覚器系 1		外皮				講義	大谷	
28	感覚器系 2		視覚器				講義	大谷	

29	感覚器系 3	平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器				講義	大谷
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ				講義	大谷
評価方法							
評価指標		定期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	100
教科書	PT・OT ビジュアルテクニスト専門基礎 解剖学（第 2 版），羊土社，坂井建雄他						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		講義前後。その他は講義時に確認すること。					
履修上の 注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名		生理学 I					理学療法科		
学年	1	分野	基礎医学	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	鍛冶屋 浩				科 目 担当者	鍛冶屋 浩			
科目 概要	人体は約 60 兆個という膨大な数の細胞を基本単位として構成されている。各器官の機能はそれぞれの組織を構成する細胞の特有な機能が基本となる。 対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、正常な生命維持を行うために必要な人体の構造と機能を細胞レベルから理解し、またその役割や組織間の連携について詳しく学習する。								
到達 目標	1. 細胞の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 2. 血球の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 3. 呼吸循環器系の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 4. 消化管の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 5. 腎臓の形態、特徴、機能について理解し説明できる。 6. 運動の生理について理解し説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	生理学の基礎 1			細胞の環境			講義	鍛冶屋	
2	生理学の基礎 2			細胞の構造と構造機能相関			講義	鍛冶屋	
3	生理学の基礎 3			細胞膜を通過する物質移動			講義	鍛冶屋	
4	生理学の基礎 4			細胞機能調節のメカニズム、遅い時間経過の調節			講義	鍛冶屋	
5	体液			血漿及び血漿タンパク質			講義	鍛冶屋	
6	血液 1			赤血球、白血球			講義	鍛冶屋	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	鍛冶屋	
8	血液 3			血液型、血小板による止血			講義	鍛冶屋	
9	血液 4			血液凝固			講義	鍛冶屋	
10	心臓・循環 1			心臓の構造、興奮伝播と自動性、自律神経による調節			講義	鍛冶屋	
11	心臓・循環 2			心臓の異常電気活動、心電図、心臓の収縮など			講義	鍛冶屋	
12	心臓・循環 3			全身各部の血流量、動脈血圧など			講義	鍛冶屋	
13	心臓・循環 4			微小循環、血管平滑筋など			講義	鍛冶屋	
14	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ			講義	鍛冶屋	
15	心臓・循環 6			特殊部位の循環・循環系の障害例			講義	鍛冶屋	
16	呼吸 1			肺の構造、呼吸運動			講義	鍛冶屋	
17	呼吸 2			呼吸力学、肺のガス交換			講義	鍛冶屋	
18	呼吸 3			換気と血流の適合、呼吸運動の調節			講義	鍛冶屋	
19	消化と吸収 1			消化管の構造と支配神経、消化管のペプチド性修飾物質			講義	鍛冶屋	
20	消化と吸収 2			消化管の運動			講義	鍛冶屋	
21	消化と吸収 3			消化液の分泌、栄養素の分解と吸収			講義	鍛冶屋	
22	まとめ 3			15～21 回の中間まとめ			講義	鍛冶屋	
23	腎機能 1			腎臓の機能的構造、糸球体濾過			講義	鍛冶屋	
24	腎機能 2			クリアランスによる腎機能評価			講義	鍛冶屋	

25	腎機能 3	尿細管再吸収等	講義	鍛冶屋			
26	腎機能 4	尿の濃縮と希釈、排尿など	講義	鍛冶屋			
27	酸・塩基平衡	緩衝作用、細胞内 pH 等	講義	鍛冶屋			
28	日常の生理学 1	栄養素の代謝、エネルギー代謝	講義	鍛冶屋			
29	日常の生理学 2	体温、サーカディアンリズム、運動と筋収縮、運動時の人体機能	講義	鍛冶屋			
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ	講義	鍛冶屋			
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	やさしい生理学, 南江堂, 彼末一之他						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。						

科目名	生理学Ⅱ					理学療法科			
学年	1	分野	基礎医学	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	岡本 順子			科 目 担当者	岡本 順子				
科目 概要	本講義では、人体の構造と機能について学ぶ。人体の約 60 兆個という膨大な数の細胞には、それぞれ個別の役割を担い、必要なタイミングで必要な分の仕事を行うことで、人（個体）の生命を維持している。 対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践していくために、正常な生命維持を行うために必要な人体の構造と機能を細胞レベルから理解し、またその役割や組織間の連携について詳しく学習する。								
到達 目標	1. 内分泌系の種類、作用機序ついて理解する。 2. 細胞機能の基礎について学び、興奮伝導について理解する。 3. 骨格筋の収縮、シナプス伝達についての特性を理解する。 4. 神経系、感覚系の機能を系統別に理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	内分泌の機能 1		ホルモン、生合成と放出、作用機序				講義	岡本	
2	内分泌の機能 2		視床下部、下垂体				講義	岡本	
3	内分泌の機能 3		松果体、副腎髄質と皮質				講義	岡本	
4	内分泌の機能 4		甲状腺、膵臓の内分泌機能				講義	岡本	
5	内分泌の機能 5		カルシウム代謝の調節、性ホルモン				講義	岡本	
6	生殖		性の分化と発達、乳汁分泌 等				講義	岡本	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	岡本	
8	細胞の興奮発生と興奮伝導 1		刺激と興奮、膜電位				講義	岡本	
9	細胞の興奮発生と興奮伝導 2		興奮発生およびイオンチャネル、興奮伝導				講義	岡本	
10	骨格筋の収縮 1		骨格筋の種類と構造、筋収縮				講義	岡本	
11	骨格筋の収縮 2		興奮収縮連関、筋収縮力学等				講義	岡本	
12	シナプス伝達 1		神経筋伝達、中枢神経系のシナプス伝達				講義	岡本	
13	シナプス伝達 2		神経伝達物質、中枢のシナプス伝達等				講義	岡本	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	岡本	
15	自律神経系		自律神経系の構成と作用、自律神経系の受容体				講義	岡本	
16	運動系 1		脊髄				講義	岡本	
17	運動系 2		脳幹、小脳、				講義	岡本	
18	運動系 3		大脳基底核、大脳皮質				講義	岡本	
19	感覚総論		感覚の強度				講義	岡本	
20	体性感覚 1		体性感覚と受容器				講義	岡本	
21	体性感覚 2		伝導路、中継核、大脳皮質の体性感覚野、痛覚等				講義	岡本	
22	まとめ 3		15～21 回の中間まとめ				講義	岡本	
23	味覚・嗅覚		それぞれの特徴及び受容体等				講義	岡本	
24	聴覚・前庭感覚		音受容、聴覚の中枢、前庭感覚				講義	岡本	
25	視覚 1		眼球の光学系、網膜の光受容				講義	岡本	

26	視覚 2	視覚の中樞神経機序、眼球運動等	講義	岡本
27	脳の統合機能 1	大脳皮質の構造と機能、	講義	岡本
28	脳の統合機能 2	大脳辺縁系と視床下部	講義	岡本
29	脳の統合機能 3	脳の情動、脳波、覚醒と睡眠、学習、記憶等	講義	岡本
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ	講義	岡本
評価方法				
評価指標	定期試験	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	100
教科書	やさしい生理学, 南江堂, 彼末一之他			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	各講義の前後。			
履修上の 注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。また、講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。			

科目名	運動学 I						理学療法科		
学年	1	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	仲濱 毅			科 目 担当者	仲濱 毅				
科目 概要	運動学は人間の運動の科学、運動を研究する学問などと定義される。運動学は解剖学、生理学、物理学、心理学、社会学などの多くの学問体系を統合した上に成り立っている。また、基礎となる科学領域の発展は目覚ましいものがある。1 年次の運動学 I ではまず、人間の身体運動を理解するために必要な人体の構造と機能、力学について学ぶ。								
到達 目標	1. 力学の基本的専門用語を理解し、説明ができる。 2. 筋骨格系の基本的構造・機能を説明できる。 3. 上肢の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。 4. 下肢の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。 5. 頸部・体幹の構造・機能と関節運動との関係が説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	運動学とは			導入・定義・歴史			講義	仲濱	
2	生体力学の基礎 1			身体運動と力学、身体運動の面と軸			講義	仲濱	
3	生体力学の基礎 2			運動学的分析、円運動			講義	仲濱	
4	生体力学の基礎 3			筋力と重力、モーメント			講義	仲濱	
5	生体力学の基礎 4			運動法則、仕事とエネルギー			講義	仲濱	
6	生体力学の基礎 5			身体とてこ			講義	仲濱	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	仲濱	
8	生体の構造と機能 1			骨・関節の構造と機能、関節の分類			講義	仲濱	
9	生体の構造と機能 2			関節の構造と機能、関節運動の表し方			講義	仲濱	
10	生体の構造と機能 3			腱および靱帯の構造と機能、骨格筋の構造			講義	仲濱	
11	生体の構造と機能 4			筋線維の種類、運動単位			講義	仲濱	
12	生体の構造と機能 5			筋収縮の様態、筋肥大と筋萎縮			講義	仲濱	
13	四肢と体幹の運動 1			上肢帯・肩関節 1			講義	仲濱	
14	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ			講義	仲濱	
15	四肢と体幹の運動 2			上肢帯・肩関節 2			講義	仲濱	
16	四肢と体幹の運動 3			肘関節・前腕 1			講義	仲濱	
17	四肢と体幹の運動 4			肘関節・前腕 2			講義	仲濱	
18	四肢と体幹の運動 5			肘関節・前腕 3			講義	仲濱	
19	四肢と体幹の運動 6			手関節・手の運動 1			講義	仲濱	
20	四肢と体幹の運動 7			手関節・手の運動 2			講義	仲濱	
21	四肢と体幹の運動 8			手関節・手の運動 3			講義	仲濱	
22	まとめ 3			15～21 回の中間まとめ			講義	仲濱	
23	四肢と体幹の運動 9			下肢帯・股関節 1			講義	仲濱	
24	四肢と体幹の運動 10			下肢帯・股関節 2			講義	仲濱	
25	四肢と体幹の運動 11			膝関節 1			講義	仲濱	
26	四肢と体幹の運動 12			膝関節 2			講義	仲濱	
27	四肢と体幹の運動 13			膝関節 3			講義	仲濱	
28	四肢と体幹の運動 14			足関節・足部 1			講義	仲濱	

29	四肢と体幹の運動 15	足関節・足部 2				講義	仲濱
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ				講義	仲濱
評価方法							
評価指標		定期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	100
教科書	基礎運動学（第 7 版）, 医歯薬出版株式会社, 中村隆一						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		月曜日の 14：00～16：00。					
履修上の 注意点		・ 中間試験は 7 回の講義終了後、期末試験後に行う。教科書上だけでなく、骨模型や人体で確認することを通してイメージしていくことを図り、常に疑問を持つことに留意する。 ・ 運動学を学習するうえで解剖学・生理学を十分理解する必要があるため、しっかり予習・復習を行い、授業に臨むこと。					

科目名	人間発達学					理学療法科			
学年	1	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	中村 正恵			科 目 担当者	中村 正恵				
科目 概要	本講義では、胎児期から老年期に至るまでの運動発達、感覚機能および上肢機能の発達、日常生活活動の発達、心理社会的な発達をそれぞれの時期に則して学習していく。発達のメカニズム及び反射・反応は、こどものリハビリテーションを熟考するうえで必須の知識となる。 臨床現場における基礎的思考を養うとともに、対象者の状態を包括的にとらえた理学療法が実践できることへの礎となることを目的とする。								
到達 目標	1. 発達に関する定義、区分、原則を理解し、説明できる。 2. 反射反応を理解し、説明ができる。 3. 全身運動、感覚機能・上肢の運動発達、ADL の発達について月齢ごとの特徴を説明できる。 4. 発達スクリーニングや新生児評価について理解し、その特徴を説明できる。 5. 心理社会的発達について理解し、説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	発達とは 1			導入、成長、成熟と発達			講義	中村	
2	発達とは 2			発達段階、発達区分			講義	中村	
3	運動発達 1			運動発達の一般的原則			講義	中村	
4	運動発達 2			中枢神経系の発達と運動発達			講義	中村	
5	胎児～幼児の運動発達 1			胎児期の運動			講義	中村	
6	胎児～幼児の運動発達 2			脊髄レベルの反射と反応①（屈筋逃避反射・交叉性伸展反射・陽性支持反射・自動歩行・手掌・足底把握反射・ガラント反射・バビンスキー反射・台のせ反射）			講義	中村	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	中村	
8	胎児～幼児の運動発達 3			脳幹下部レベルの反射と反応①（口唇探索反射・吸啜反射・モロー反射）			講義	中村	
9	胎児～幼児の運動発達 4			脳幹下部レベルの反射と反応②（ATNR・TLR・STNR）			講義	中村	
10	胎児～幼児の運動発達 5			中脳レベルの反射と反応（ランドウ反応・立ち直り反応）			講義	中村	
11	胎児～幼児の運動発達 6			大脳皮質レベルの反射と反応①（視覚性立ち直り反応・保護伸展反応）			講義	中村	
12	胎児～幼児の運動発達 7			大脳皮質レベルの反射と反応②（傾斜反応・背屈反応・ステッピング反応・ホッピング反応）			講義	中村	
13	胎児～幼児の運動発達 8			粗大運動（背臥位）新生児～7 か月			講義	中村	
14	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ			講義	中村	
15	胎児～幼児の運動発達 9			粗大運動（腹臥位）新生児～1 歳頃			講義	中村	
16	胎児～幼児の運動発達 10			粗大運動（座位）①新生児～6 ヶ月			講義	中村	
17	胎児～幼児の運動発達 11			粗大運動（座位）②6 ヶ月～1 歳頃			講義	中村	
18	胎児～幼児の運動発達 12			粗大運動（立位）①新生児～1 歳頃			講義	中村	
19	胎児～幼児の運動発達 13			小児の歩行の特徴			講義	中村	
20	胎児～幼児の運動発達 14			小児期の起き上がり立ち上がりの特徴、上肢機能の役割			講義	中村	

21	胎児～幼児の運動発達 15	上肢機能の発達（リーチ動作、握り、つまみ、操作など）	講義	中村			
22	まとめ 3	15～21 回の中間まとめ	講義	中村			
23	ADL の発達	遊び・食事・排泄・更衣・感覚・知覚・言語・社会性の発達	講義・演習	中村			
24	新生児期の評価	新生児期の評価	講義	中村			
25	発達とスクリーニング 1	遠城寺式乳幼児分析的発達検査表	講義	中村			
26	発達とスクリーニング 2	日本版デンバー式発達スクリーニング検査	講義	中村			
27	発達とスクリーニング 3	遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、日本版デンバー式発達スクリーニング検査の演習	講義・演習	中村			
28	心理社会的発達 1	乳児期～学童期の心理社会的発達	講義	中村			
29	心理社会的発達 2	成人期～成熟期の心理社会的発達	講義	中村			
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ	講義・演習	中村			
評価方法							
評価指標	定期試験	小テスト・演習	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	80	20	-	-	-	-	100
教科書	小児理学療法学，メジカルビュー，藪中良彦他						
教材・参考図書	適宜、資料を配布する。						
オフィスアワー	金曜日 14：00－15：00、講義前後						
履修上の 注意点	・ 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。 ・ 各授業の確認問題や演習課題を適宜提示するので、積極的に取り組むことが望まれる。						

科目名	リハビリテーション概論						理学療法科		
学年	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	田中 和範				科 目 担当者	田中 和範			
科目 概要	リハビリテーションとは何か？その本質を体系的に学び、医療、福祉、保健について包括的に理解することを目的とする。また、リハビリテーションの奥深さに触れ、豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、疑義を楽しみ能動的学習の礎を築く。								
到達 目標	1. リハビリテーションの歴史的背景とその基本を理解する。 2. リハビリテーションにおける理学療法士の役割について理解する。 3. 障害に対する考え方とその意義を通して、明日の理学療法士に求められる存在価値を探究し続ける力を養う。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	リハビリテーション概論概要、医療、保健、社会福祉			リハビリテーションの理念と歴史、リハビリテーション領域と医療、保険、社会福祉の関わり方			講義	田中和	
2	リハマインド、廃用症候群			リハビリテーションマインドの重要性と障害を診る心、廃用症候群と二次的合併症			講義	田中和	
3	回復期・生活期リハビリテーション			回復器リハビリテーションについて、介護保険の概要と介護予防			講義	田中和	
4	疾病と障害の関係			国際障害分類（ICIDH）・国際生活機能分類（ICF）について			講義	田中和	
5	リハビリテーション科医			リハビリテーション科医の役割			講義	田中和	
6	理学療法・作業療法・言語聴覚療法とは			理学療法と理学療法士について、作業療法と作業療法士について、言語聴覚療法と言語聴覚士について			講義	田中和	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			演習	田中和	
8	リハビリテーションと看護、チーム医療			リハビリテーション看護の役割、各種コメディカル領域の職種について			講義	田中和	
9	理学療法評価			理学療法評価の重要性と障害の帰結予測			講義	田中和	
10	機能評価、能力障害			機能評価の重要性とその進め方、障害の帰結予測、能力障害の評価意義とその進め方、ADL 評価について			講義	田中和	
11	歩行			歩行の基礎知識、歩行分析と異常歩行			講義	田中和	
12	装具、義肢、車椅子			装具の目的と各種装具・義手と義足・車椅子の選択と各種車椅子について			講義	田中和	
13	医療、社会福祉と法律			医療保険制度と各種法律			講義	田中和	
14	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ			演習	田中和	
15	地域リハビリテーション、リハビリテーション概論概要			自立支援と就労支援及び地域包括ケアシステムについて、リハビリテーションの理念と歴史			講義	田中和	
評価方法									
評価指標			定期試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			80	20	-	-	-	-	100
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論，診断と治療社，椿原彰夫								
教材・参考図書			適宜紹介する。						

オフィスアワー	火・水・木曜日 13:30-16:00 講義前後。その他は講義時に確認すること。
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。 ・毎講義ごとに30分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。

科目名	リハビリテーション医学					理学療法科			
学年	1 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	坂口 文宏			科 目 担当者	坂口 文宏				
科目 概要	臨床現場では、対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することが求められる。リハビリテーション医療を実践する上で必要なリハビリテーション医学の基本的な考え方を身に付けるために、リハビリテーション医療の流れや様々な障害に対しての医学的な基礎知識を理解すると共にリハビリテーションに必要な専門的知識を習得する。 また、変化し続ける保健・医療・福祉に貢献する能力をつけるべく、保健・医療・福祉分野の課題に対して、多職種と連携を図り協働し、専門職業人として生涯に渡り研鑽し続けるための基本的な考え方についても学ぶ。								
到達 目標	1. リハビリテーション医療の流れを説明できる。 2. 様々な障害を医学的に説明できる。 3. 疾患と障害との関連を説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	関節拘縮と関節可動域、筋力低下と筋力増強訓練		関節の構造・制限・種類・測定・訓練、筋力低下の種類・評価・筋力増強訓練の実際				講義	坂口	
2	運動麻痺とニューロリハビリテーション、運動学習理論		運動麻痺の発生機序、中枢性麻痺回復の原理、ニューロリハビリテーション、運動学習と効果的な運動学習の計画・技術				講義	坂口	
3	異常歩行と歩行訓練、失語症と言語聴覚療法		主な異常歩行、歩行の基本訓練、失語症の診断と分類、言語聴覚療法				講義	坂口	
4	高次脳機能障害		失認・失行の症状と評価、リハビリテーション、主な高次脳機能障害と原因疾患				講義	坂口	
5	摂食嚥下障害、排泄障害		摂食嚥下障害の原因、摂食嚥下障害と QOL、排泄障害の理解				講義	坂口	
6	痙縮のコントロール、老化と介護予防		痙縮の理解・評価・対応・具体的な治療法、老化の種類と悪循環・高齢化への対策				講義	坂口	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	坂口	
8	脳卒中(急性期・回復期)		疾患についての理解、急性期・回復期リハビリテーションの目的、具体的アプローチ、自宅復帰への地域連携				講義	坂口	
9	パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症		パーキンソン病とは、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション				講義	坂口	
10	神経・筋疾患		多発性硬化症、進行性筋ジストロフィー、多発性筋炎、ギランバレー症候群、筋萎縮性硬化症の臨床症状と評価				講義	坂口	
11	脊髄損傷、外傷性脳損傷		疾患の理解・症状・機能障害の評価、リハビリテーションプログラム、外傷性脳損傷に特徴的な高次脳機能障害				講義	坂口	
12	四肢切断、運動器疾患、関節リウマチ		疾患の理解、一般的治療の流れ、リハビリテーションの要点、よくみられる合併症				講義	坂口	
13	脳性麻痺、心筋梗塞と虚血性心疾患		脳性麻痺・心筋梗塞と虚血性心疾患の理解・検査、リハビリテーション治療				講義	坂口	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	坂口	
15	呼吸器疾患、悪性腫瘍、生活習慣病		呼吸器・・・がんリハビリテーションの基本的考え方、生活習慣病についての理解、糖尿				講義	坂口	

		病・脂質代謝・高血圧・虚血性心疾患と運動療法		
評価方法				
評価指標	定期試験	小テスト	-	-
評価割合 (%)	80	20	-	-
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論，診断と治療社，椿原彰夫			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火・水・木曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。			
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。 ・毎時間ごとに 30 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。			

科目名	理学療法概論					理学療法科			
学年	1	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	前期
科 目 責任者	藤井 和彦			科 目 担当者	藤井 和彦、山本 拓史				
科目 概要	リハビリテーション医療の発達に伴い、理学療法の範疇は拡大し、対象疾患、理学療法手技、職域、法律制度などといった要因が存在する。このような理学療法を取り巻く状況を理解し、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践することと多職種と連携を図り協働することが求められる。理学療法の全体像を学び、理学療法の専門的知識や実践の技能を段階的に習得し、専門職業人として生涯にわたり研さんし続ける礎を築く。								
到達 目標	1. 理学療法の歴史を理解し、理学療法を取り巻く組織、法律や制度について理解する。 2. 理学療法士を目指すうえで必要な知識やその分野に求められる倫理について理解する。 3. 理学療法発展のための教育および研究および研究等について理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	理学療法 1		理学療法の定義、日本の理学療法の定義				講義	藤井・山本	
2	リハビリテーションとハビ リテーション 1		リハビリテーション、リハビリテーションの 分野				講義	藤井・山本	
3	リハビリテーションとハビ リテーション 2		ハビリテーション、ノーマライゼーション				講義	藤井・山本	
4	理学療法士及び作業療法士 法 1		PT・OT 法における理学療法、作業療法、理学 療法士免許、業務など				講義	藤井・山本	
5	理学療法士及び作業療法士 法 2		秘密を守る義務、名称独占と業務独占				講義	藤井・山本	
6	職域と労働対価 1		理学療法士の領域				講義	藤井・山本	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	藤井・山本	
8	職域と労働対価 2		理学療法士の労働対価				講義	藤井・山本	
9	職能団体と協働職種		理学療法士の組織、理学療法士の協働職種				講義	藤井・山本	
10	理学療法士の卒前・卒後教 育		学生教育、生涯学習、研究				講義	藤井・山本	
11	世界の理学療法		世界理学療法連盟、アメリカの理学療法、各 国の理学療法				講義	藤井・山本	
12	日本の理学療法の課題		診療報酬制度における理学療法士の課題、理 学療法士の専門性、理学療法士の職域の拡大				講義	藤井・山本	
13	国際疾病分類（ICD）と国 際障害分類（ICIDH） 1		国際疾病分類（ICD）、障害、障害モデル、機 能障害、能力障害、社会的不利				講義	藤井・山本	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	藤井・山本	
15	国際疾病分類（ICD）と国 際障害分類（ICIDH） 2		機能障害、能力障害、社会的不利				講義	藤井・山本	
16	国際疾病分類（ICD）と国 際障害分類（ICIDH） 3		各障害レベルの関係性、ICIDH の功績と課題				講義	藤井・山本	
17	国際生活機能分類（ICF）		ICIDH から ICF への発展、国際生活機能分類 （ICF）				講義	藤井・山本	
18	理学療法評価と治療、理学 療法士に求められる要素 1		理学療法評価				講義	藤井・山本	
19	理学療法評価と治療、理学 療法士に求められる要素 2		評価手順				講義	藤井・山本	

20	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 3	ADL、健康生成論	講義	藤井・山本			
21	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 4	評価に基づいた治療実施、再評価と記録報告	講義	藤井・山本			
22	まとめ 3	15～21 回の中間まとめ	講義	藤井・山本			
23	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 5	現代医学におけるパラダイム、運動療法、物理療法、動作トレーニング	講義	藤井・山本			
24	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 6	物理療法、動作トレーニング	講義	藤井・山本			
25	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 7	義肢装具学、医療事故	講義	藤井・山本			
26	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 8	理学療法士に求められる 3 つの領域、理学療法士として要求される認知領域	講義	藤井・山本			
27	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 9	理学療法士として要求される情意領域、理学療法士として要求される精神運動領域	講義	藤井・山本			
28	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 10	理学療法士に要求される倫理	講義	藤井・山本			
29	理学療法評価と治療、理学療法士に求められる要素 11	理学療法士としての志、日本人に影響を与えている思想、障害受容と幸福	講義	藤井・山本			
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ	講義	藤井・山本			
評価方法							
評価指標	定期試験	小テスト	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	80	20	-	-	-	-	100
教科書	『理学療法概論』神陵文庫，千住 秀明						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	・毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。						
専任教員の 実務経験	・28 年間、病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験から、中枢疾患・神経筋疾患・整形外科疾患の理学療法に対する知識に精通している。						

科目名	早期実践演習						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	荒木 康浩				科 目 担当者	荒木 康浩、藤井 和彦			
科目 概要	臨床実習に向けた準備を行い、見学実習に備えるための知識・技術を身につける。また、医療職としての接遇・態度などコミュニケーションについて学ぶ。								
到達 目標	1. 何のための実習なのかを理解し、適切な態度や接遇を身につけることができる。 2. 実習に向け歩行介助、車いす介助等が実施できる。 3. 見学実習で学んだこと得たことを共有し、学校生活を送るうえでの目標を明確にすることができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	臨床実習に向けて			見学実習の意味、実習の目的			講義	荒木、藤井	
2	臨床実習に向けて			実習に臨む姿勢や態度、接遇			講義	荒木、藤井	
3	リハビリテーション支援機器			福祉機器と福祉用具、自助具等			講義	荒木、藤井	
4	臨床実習演習 1			実技デモンストレーション（車椅子、歩行、階段昇降介助）			演習	荒木、藤井	
5	臨床実習演習 2			実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）			演習	荒木、藤井	
6	臨床実習演習 3			実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）			演習	荒木、藤井	
7	中間まとめ			1～6 回の授業範囲			演習	荒木、藤井	
8	臨床実習演習 4			実技総復習			演習	荒木、藤井	
9	臨床実習演習 5			実技総復習			演習	荒木、藤井	
10	臨床実習演習まとめ			実技まとめ			演習	荒木、藤井	
11	臨床実習演習まとめ			実技まとめ			演習	荒木、藤井	
12	臨床実習対策			見学実習直前指導			講義	荒木、藤井	
13	臨床実習まとめ 1			見学実習提出書類整理、反省			講義	荒木、藤井	
14	臨床実習まとめ 2			見学実習についてのグループワーク、発表			演習	荒木、藤井	
15	臨床実習まとめ 3			見学実習についてのグループワーク、発表			演習	荒木、藤井	
評価方法									
評価指標		実技試験	発表	確認テスト・授業態度	－	－	－	合計	
評価割合 (%)		60	20	20	－	－	－	100	
教科書	必要プリントを適宜配布する。								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		火・水・木曜日 14：00－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点	・学習形態は、一斉指導とする。 ・毎時間ごとに 45 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。								

科目名	理学療法評価学Ⅰ						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
科 目 責任者	藤井 和彦				科 目 担当者	藤井 和彦、重松 直人			
科目 概要	対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するためには、まず対象者の身体の状態や動作能力、社会的背景などを知らなければ、適切な理学療法を行えない。ゆえに、『理学療法は評価で始まり評価で終わる』と言われるほど、的確に対象者を評価することは大変重要である。 本講義では、評価を構成する検査・測定のうち、形態測定、関節可動域測定について知識を習得し、実際に実施できるよう実技演習を行っていく。								
到達 目標	1. 理学療法評価の構成と進め方が理解できる。 2. 各検査・測定を実施できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	形態測定 1			四肢長測定（上肢）			実技	藤井・重松	
2	形態測定 2			四肢長測定（下肢）			実技	藤井・重松	
3	形態測定 3			四肢長測定（自由課題）			実技	藤井・重松	
4	形態測定 4			四肢周径測定①			実技	藤井・重松	
5	形態測定 5			四肢周径測定②			実技	藤井・重松	
6	形態測定 6			自由課題（実技試験対策）			実技	藤井・重松	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	藤井・重松	
8	関節可動域測定 1			肩関節			実技	藤井・重松	
9	関節可動域測定 2			肘関節・前腕			実技	藤井・重松	
10	関節可動域測定 3			手関節			実技	藤井・重松	
11	関節可動域測定 4			股関節			実技	藤井・重松	
12	関節可動域測定 5			膝関節・足関節・足部			実技	藤井・重松	
13	関節可動域測定 6			自由課題（実技試験対策）			実技	藤井・重松	
14	関節可動域測定 7			自由課題（実技試験対策）			実技	藤井・重松	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			実技	藤井・重松	
評価方法									
評価指標			定期試験	小テスト	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)			60	40	－	－	－	－	100
教科書	理学療法テキストⅡ 理学療法評価法（第3版），神陵文庫，千住秀明								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		火曜日 14:00～17:00 講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点		・実技のためにまずは覚えないといけない項目が多く、日頃からその学習に取り組むこと。実技は、スムーズにできるように繰り返しの練習が必要である。 ・毎時間ごとに 1.5 時間程度の予習・復習を行い、次の講義に備えること。							
専任教員の 実務経験		・28 年間、病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験から、中枢疾患・神経筋疾患・整形外科疾患の理学療法に対する知識に精通している。							

科目名		理学療法評価学Ⅱ					理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	荒巻 寛幸			科 目 担当者	荒巻 寛幸 荒木 康浩				
科目 概要	徒手筋力検査は臨床実習においても学生が経験する頻度の高い項目であり、対象者の状態を統合、解釈する上で重要な情報の1つとなる。ここでは実践的技能の段階的習得における初期段階ととらえ筋の位置・走行や作用について、さらには適切かつ再現性のある検査を習得することを目的として学んでいく。								
到達 目標	1. 筋力検査の目的・意義を理解する。 2. 筋の起始停止を理解し、触診できるようになる。 3. 徒手筋力検査の実施方法が理解でき、検査を実施できる。								
回数	単元項目		授業内容			形態	担当教員		
1	徒手筋力テストの原理		段階づけシステム、段階を定める基準について 患者がテストに及ぼす影響、臨床現場での応用			講義	荒巻・荒木		
2	上肢の筋力テスト 1		甲骨外転と上方回旋・肩甲骨挙上と内転肩甲骨 内転と下制・肩甲骨内転と下方回旋及び下制			講義	荒巻・荒木		
3	上肢の筋力テスト 2		肩関節屈曲（前方挙上を含む）、肩関節伸展、 肩関節外転、肩関節水平外転と水平内転			講義	荒巻・荒木		
4	上肢の筋力テスト 3		肩関節外旋・内旋、肘関節屈曲と伸展、前腕回 外・回外、手関節屈曲・伸展			講義	荒巻・荒木		
5	上肢の筋力テスト 4		指の中手指節関節屈曲、指の中手指節間関節お よび遠位指節関節の屈曲・伸展、指外転・内転 母指			講義	荒巻・荒木		
6	上肢の筋力テスト 5		中手指節間関節および遠位間関節の屈曲・伸展 母指外転・内転、対立運動			講義	荒巻・荒木		
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ			講義	荒巻・荒木		
8	下肢の筋力テスト 2		股関節屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋			講義	荒巻・荒木		
9	下肢の筋力テスト 3		膝関節屈曲・伸展			講義	荒巻・荒木		
10	下肢の筋力テスト 4		足関節底屈・背屈内がえし・外がえし足指の屈 曲・伸展			講義	荒巻・荒木		
11	頸筋のテスト 1		頸部伸展・複合伸展頸部屈曲・複合屈曲			講義	荒巻・荒木		
12	頸筋のテスト 2		頸部回旋体幹伸展・骨盤挙上			講義	荒巻・荒木		
13	体幹筋と骨盤底テスト 1		体幹屈曲・回旋			講義	荒巻・荒木		
14	体幹筋と骨盤底テスト 2		安静な吸気・強制呼吸運動・骨盤底			講義	荒巻・荒木		
15	まとめ 2		8～14 回の期末まとめ			講義	荒巻・荒木		
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	100	
教科書	新・徒手筋力検査法（第 10 版), 協同医書出版社, Dale Avers, Marybeth Brown								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		14:00～17:00（その他は講義後に確認しておくこと）							

履修上の 注意点	・紙面上での理解ではなく積極的に実技を実施すること。また、筋の触診も実施するため、解剖学を十分に復習しておくこと。 ・基本実習着にて実施するが、状況により半袖・半ズボンを使用することがあるので準備しておくこと。
専任教員の 実務経験	・14年間総合病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、高齢者や整形外科疾患に対する理学療法の知識に精通している。

科目名	理学療法評価学Ⅲ						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	荒木 康浩				科 目 担当者	荒木 康浩、藤井 和彦			
科目 概要	1 年次に行ってきた実技の総復習として、各種測定・検査技術を再確認する。								
到達 目標	1. 模擬患者に対し、形態測定を実施できる。 2. 模擬患者に対し、関節可動域測定を実施できる。 3. 模擬患者に対し、徒手筋力検査を実施できる。								
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員
1	形態測定			四肢長測定				実技	荒木、藤井
2	形態測定			四肢周径測定				実技	荒木、藤井
3	関節可動域測定			上肢				実技	荒木、藤井
4	関節可動域測定			上肢				実技	荒木、藤井
5	関節可動域測定			下肢				実技	荒木、藤井
6	関節可動域測定			下肢				実技	荒木、藤井
7	徒手筋力検査			上肢				実技	荒木、藤井
8	徒手筋力検査			上肢				実技	荒木、藤井
9	徒手筋力検査			下肢				実技	荒木、藤井
10	徒手筋力検査			下肢				実技	荒木、藤井
11	演習			自由課題（実技試験形式）				実技	荒木、藤井
12	演習			自由課題（実技試験形式）				実技	荒木、藤井
13	演習			自由課題（実技試験形式）				実技	荒木、藤井
14	演習			自由課題（実技試験形式）				実技	荒木、藤井
15	演習			自由課題（実技試験形式）				実技	荒木、藤井
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法テキストⅡ 理学療法評価法，神陵文庫，千住秀明 新・徒手筋力検査法（第 10 版），協同医書出版社，Dale Avers, Marybeth Brown								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		火・水・木曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点	・毎時間ごとに 90 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。								

科目名	地域リハビリテーション						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	仲濱 毅				科 目 担当者	仲濱 毅			
科目 概要	障がい児・者や高齢者が地域社会で自らの人生を主体的に生きることを支援するために医療、福祉、保健の動向を踏まえ、地域リハビリテーションに関わる諸制度を知り、地域において多職種と協働・連携できる能力、各制度上の理学療法士の役割及び業務内容を理解する。								
到達 目標	1. 社会保障制度（介護保険法、障害者総合支援法など）の理解と理学療法士の役割を知る。 2. 地域リハビリテーションの定義、活動理念、関連領域とシステム、さらに直接的サービスの現状と課題について理解する。 3. 障がい児・障がい者が自宅や地域で暮らすための環境整備方法を知る。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	地域理学療法総論①			地域リハビリテーションの背景・地域理学療法の変遷			講義	仲濱	
2	地域理学療法総論②			地域理学療法の対象・地方自治と行政理学療法士			講義	仲濱	
3	地域理学療法総論③			地域包括ケアシステム			講義	仲濱	
4	地域理学療法に関連する法制度			理学療法士をとりまく制度・高齢者を対象とした制度における各種サービス			講義	仲濱	
5	対象者を多方面からとらえる①			対象者をとりまくさまざまな職種・地域における連携			講義	仲濱	
6	対象者を多方面からとらえる②			退院支援と地域理学療法・要介護（支援）高齢者のケアマネジメント			講義	仲濱	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	仲濱	
8	生活者としての評価と理学療法①			地域全体に向けた健康支援・骨関節系疾患の障害構造の視点、中枢神経系疾患の障害構造の視点・認知症の症候をとらえる視点			講義	仲濱	
9	生活者としての評価と理学療法②			終末期の支援・生活者における障害の評価			講義	仲濱	
10	生活者としての評価と理学療法③			生活者を長期的に支援するために・身体活動量の向上			講義	仲濱	
11	地域理学療法の展開①			要介護（支援）高齢者の理学療法の展開①訪問・②通所			講義	仲濱	
12	地域理学療法の展開②			要介護（支援）高齢者の理学療法の展開③高齢者施設・ヘルスプロモーション			講義	仲濱	
13	地域理学療法の実際			脳性麻痺（小児）・難病（成人）・訪問・通所、介護予防の取り組み事例①個人事業主・②都道府県理学療法士会			講義	仲濱	
14	これからの社会と地域理学療法			これからの社会資源とデータヘルス・地域理学療法を生かす知識			講義	仲濱	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			講義	仲濱	
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学 地域理学療法学, 医学書院, 奈良勲								

教材・参考図書	その他適宜紹介する。
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。
履修上の 注意点	・講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。 ・定期試験に関しては、到達目標をクリアし、自ら意味理解を図られること。中間試験は記述問題、期末試験は選択問題を主とする。 ・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。

科目名	見学実習Ⅰ（早期）						理学療法科		
学年	1	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	40 時間	期間	後期
科目責任者	荒木 康浩				科目担当者	荒木 康浩、藤井 和彦			
科目概要	見学実習Ⅰでは、実際の医療施設での見学実習を行う。実際の理学療法士の仕事の業務や他職種との連携を目の当たりにし、チーム医療についてのイメージを身に着ける。また、社会人としてのマナーや接遇について、実際の患者様やスタッフのやり取りを通して学ぶ。これから学習していく理学療法についてのモチベーションの向上とイメージを確立させる。								
到達目標	1. 実際の医療施設における理学療法の外観を学び、理学療法士の業務について目で見て感じ学ぶ。 2. 医療の現場において様々な場面に適切な接遇で臨めるようになる。 3. 対象者様や病院スタッフの方とスムーズにコミュニケーションを取れるようになる。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において1週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、患者と直接かかわっていく。他職職種とのかかわりや理学療法士の業務における治療・評価のイメージをつける。 3. 安全管理、コミュニケーション論など学んだ知識を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。 4. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法テキストⅡ 理学療法評価法, 神陵文庫, 千住秀明								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	・各実習施設に応じて準備すること。								

令和7年度2年生 履修科目

No.	科目名	単位数	時間
1	外国語	2 単位	30 時間
2	人間関係論	2 単位	30 時間
3	運動学Ⅱ	1 単位	30 時間
4	病理学Ⅰ	2 単位	60 時間
5	一般臨床医学Ⅰ	2 単位	60 時間
6	神経内科学	1 単位	30 時間
7	整形外科学	2 単位	60 時間
8	薬理学	1 単位	30 時間
9	臨床心理学	1 単位	30 時間
10	臨床運動学Ⅰ	1 単位	30 時間
11	理学療法評価学Ⅳ	1 単位	30 時間
12	運動療法学Ⅰ	1 単位	30 時間
13	運動療法学Ⅱ	1 単位	30 時間
14	理学療法技術論Ⅰ	1 単位	30 時間
15	理学療法技術論Ⅱ	1 単位	30 時間
16	理学療法技術論Ⅲ	1 単位	30 時間
17	物理療法学	1 単位	30 時間
18	日常生活活動学	1 単位	30 時間
19	ADL 実践演習	1 単位	30 時間
20	義肢装具学	1 単位	30 時間
21	理学療法実践論Ⅰ	2 単位	60 時間
22	生活環境論	1 単位	30 時間
23	見学実習Ⅱ（ADL）	1 単位	40 時間

科目名	外国語					理学療法科			
学年	2	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	井原 恒治			科 目 担当者	井原 恒治				
科目 概要	リハビリテーションに焦点をあてて作成されたテキストを用い、主に読解を中心に学習していく。毎時間配布するワークシートに授業内容を整理する。また医療現場での会話に関しては、ネイティブによる音声を通して専門的な医療用語やフレーズを学習すると共に、活きた英語運用力を養成していく。その他、教養英語に関しては、随時、単元の中で取り入れる。								
到達 目標	① 疾患を理解したうえで、テキスト内容を理解することができる。 ② 医療用語・教養英語を学び、修得する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	授業概要説明と導入		オリエンテーション シラバス説明				講義	井原	
2	Chapter1 高次脳機能障害 (1)		Warm-up 新出単語 テキスト本文内容説明				講義・ 演習	井原	
3	Chapter1 高次脳機能障害 (2)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
4	Chapter1 高次脳機能障害 (3)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
5	Chapter1 高次脳機能障害 (4)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
6	小テスト 1		Listening、Speaking、Reading				講義 演習	井原	
7	Chapter1 dialogue		Listening、Speaking、Reading				講義 演習	井原	
8	小テスト 2 総復習		Question & Answer まとめとフレーズの復習				演習	井原	
9	Chapter4 脳卒中 (1)		Warm-up 新出単語 テキスト本文内容説明				講義 演習	井原	
10	Chapter4 脳卒中 (2)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
11	Chapter4 脳卒中 (3)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
12	Chapter4 脳卒中 (4)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
13	小テスト 1		Question & Answer 解説				講義 演習	井原	
14	Chapter 4 dialogue		Listening、Speaking、Reading				講義 演習	井原	
15	小テスト 2 総復習		Question & Answer まとめとフレーズの復習				演習	井原	
16	実用英語		英検問題等				演習	井原	
17	Chapter6 糖尿病 (1)		Warm-up 新出単語 テキスト本文内容説明				講義 演習	井原	
18	Chapter6 糖尿病 (2)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
19	Chapter6 糖尿病 (3)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
20	Chapter6 糖尿病 (4)		テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
21	小テスト 1		Question & Answer 解説				講義 演習	井原	
22	Chapter6 dialogue		Listening、Speaking、Reading				講義 演習	井原	

23	小テスト 2 総復習	Question & Answer まとめとフレーズの復習				演習	井原	
24	Chapter9 大腿骨骨折(1)	Warm-up 新出単語 テキスト本文内容説明				講義 演習	井原	
25	Chapter9 大腿骨骨折(2)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
26	Chapter9 大腿骨骨折(3)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
27	Chapter9 大腿骨骨折(4)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing				講義	井原	
28	小テスト 1	Question & Answer 解説				講義 演習	井原	
29	Chapter9 dialogue	Question & Answer まとめとフレーズの復習				講義 演習	井原	
30	小テスト 2 総復習	Femoral Neck Fracture (大腿骨頸部骨折) ④				演習	井原	
評価方法								
評価指標		ワークシート提出	小テスト	授業参加度等	-	-	-	合計
評価割合 (%)		40	50	10	-	-	-	100
教科書	The Art of Healing, 南雲堂, 荒金房子他							
教材・参考図書		そのまま使える医療英会話, 医学書院、仁木 久恵他						
オフィスアワー		各講義の前後。						
履修上の 注意点		講義ごとに、次に進む範囲の文章の中から、わからない単語を調べておく等の予習をしておくこと。英語が苦手な者は特に復習をしっかりと行うこと。 また小テストを適宜行うため、欠席した場合は、次の授業の予定（小テストの範囲）を各自責任持って他の受講者に確認するようにすること。						

科目名	人間関係論						理学療法科		
学年	2	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	前期
科 目 責任者	當眞 裕樹				科 目 担当者	當眞 裕樹			
科目 概要	本科目では、良好な人間関係の構築を目的に、人間関係の基礎的理論および人間関係をつくる理論や技法を学ぶ。さらに、演習を通して、自己理解および他者理解を深め、他者との協同について体験する。								
到達 目標	1 人間関係基礎論および人間関係をつくる理論や技法について理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	概論			人間関係論とは			講義	當眞	
2	人間関係基礎論 1			人間関係の中の自己と他者			講義	當眞	
3	人間関係基礎論 2			自己理解			講義	當眞	
4	人間関係基礎論 3			自己理解			講義	當眞	
5	人間関係基礎論 4			対人関係と役割			講義	當眞	
6	人間関係基礎論 5			集団と個人			講義	當眞	
7	人間関係基礎論 6			他者理解・他者との協同			講義	當眞	
8	人間関係基礎論 7			他者理解・他者との協同			講義	當眞	
9	理論と技法 1			コーチング			講義	當眞	
10	理論と技法 2			アサーティブ・コミュニケーション			講義	當眞	
11	保健医療の人間関係 1			保健医療チームの人間関係			講義	當眞	
12	保健医療の人間関係 2			患者を支える人間関係			講義	當眞	
13	保健医療の人間関係 3			家族を含めた人間関係			講義	當眞	
14	保健医療の人間関係 4			地域をつくる人間関係			講義	當眞	
15	まとめ			セルフケアについて			講義	當眞	
評価方法									
評価指標		小テスト・レポート等	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論, 医学書院, 石川ひろの他								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		授業の前後に確認すること。							
履修上の 注意点	演習を中心とした授業のため、評価においては授業態度を重視する。 毎回の授業内容について十分な復習を行うこと。								

科目名	運動学Ⅱ					理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
科 目 責任者	藤井 和彦			科 目 担当者	藤井 和彦				
科目 概要	1 年次の運動学Ⅰでは人間の身体運動を理解するために必要な人体の構造と機能、力学について学んできた。2 年次の運動学Ⅱでは、各関節の構造・機能や神経生理学に基づく制御といった視点から「姿勢」、「歩行」及び「走行」について学んでいく。 理学療法の目的は、基本的動作能力の改善であり、帰するところ姿勢制御、歩行能力の向上にある。日常において移動手段の獲得は、対象者の QOL を飛躍的に向上させ、日常の質を向上させる。そのため、ここでは対象者の運動を理解し、理学療法を実践するために必要な基礎知識の習得を目的とする。								
到達 目標	1. 頸部・体幹の構造・機能と関節運動との関係が理解できる。 2. 姿勢保持のメカニズムが理解できる。 3. 歩行のメカニズムが理解できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	四肢と体幹の運動 1		脊柱の骨格、頸椎の運動				講義	藤井	
2	四肢と体幹の運動 2		胸椎と胸郭の運動				講義	藤井	
3	四肢と体幹の運動 3		胸部の運動				講義	藤井	
4	四肢と体幹の運動 4		腰椎の運動				講義	藤井	
5	四肢と体幹の運動 5		顔面および頸部の運動				講義	藤井	
6	姿勢 1		重心・立位姿勢の安定性				講義	藤井	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	藤井	
8	姿勢 2		姿勢の記載と類型・立位姿勢 1				講義	藤井	
9	姿勢 3		姿勢の記載と類型・立位姿勢 2				講義	藤井	
10	姿勢 4		立位姿勢・立位姿勢の異常				講義	藤井	
11	歩行と走行 1		歩行と運動学・歩行周期				講義	藤井	
12	歩行と走行 2		運動学的分析・運動力学的分析				講義	藤井	
13	歩行と走行 3		歩行時のエネルギー代謝				講義	藤井	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	藤井	
15	歩行と走行 4		小児・高齢者の歩行・異常歩行、走行				講義	藤井	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)		80	20	－	－	－	－	100	
教科書	基礎運動学（第 6 版），医歯薬出版株式会社，中村隆一								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		各講義の前後を活用すること。							
履修上の 注意点	・毎時間ごとに 1.5 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。								

科目名	病理学Ⅰ					理学療法科			
学年	2	分野	基礎医学	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	大関 悟			科 目 担当者	大関 悟				
科目 概要	病理学は疾病の原因とその成り立ちを追求することにより、病気の本体を明らかにし、治療に直結する学問である。すなわち、医学・医療の最も基本的な学問であり、医療に携わる者の必須の学問と言える。 本講義では、卒後、リハビリテーションに携わるにあたって、疾病に直面するたびに常に病理学に立ち返り、疾病を深く理解したうえで、より良き医療の行える医療人となるようわかりやすく解説する。								
到達 目標	1. 各病因について理解できる。 2. 各病理学的変化について理解できる。 3. 理学療法と病理学との関連について理解できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	病理学の概要		導入、病理学の歴史				講義	大関	
2	病因論		外因（放射線障害）、内因				講義	大関	
3	退行性病変①		変性、委縮				講義	大関	
4	退行性病変②		壊死				講義	大関	
5	代謝異常①		蛋白質・アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常				講義	大関	
6	代謝異常②		糖質代謝異常、無機物質代謝異常、色素代謝異常				講義	大関	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	大関	
8	進行性病変①		肥大と過形成、化生、異形成				講義	大関	
9	進行性病変②		再生と創傷治癒				講義	大関	
10	循環障害①		体循環の機構				講義	大関	
11	循環障害②		全身循環障害				講義	大関	
12	循環障害③		局所循環障害				講義	大関	
13	免疫①		免疫の概念、免疫の成立				講義	大関	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	大関	
15	免疫②・（老化）		免疫反応がもたらす傷害・疾患、移植 1				講義	大関	
16	炎症・感染症①		炎症①				講義	大関	
17	炎症・感染症②		炎症②				講義	大関	
18	炎症・感染症③		炎症③				講義	大関	
19	炎症・感染症④		感染症①				講義	大関	
20	炎症・感染症⑤		感染症②				講義	大関	
21	炎症・感染症⑥		感染症③				講義	大関	
22	まとめ 3		15～21 回の中間まとめ				講義	大関	
23	腫瘍①		腫瘍とは、腫瘍の命名と分類、腫瘍の形態				講義	大関	
24	腫瘍②		悪性腫瘍の進展形式				講義	大関	
25	腫瘍③		悪性腫瘍の進行度				講義	大関	
26	腫瘍④		悪性腫瘍の統計				講義	大関	
27	腫瘍⑤		腫瘍発生の原因				講義	大関	
28	腫瘍⑥		発がんのメカニズム				講義	大関	
29	先天異常・奇形		遺伝性疾患、染色体異常、奇形、放射線障害				講義	大関	

30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ				講義	大関
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学・作業療法学 病理学，医学書院，奈良勲						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	理解するには生理学の知識が必要である。講義前にその単元の生理について予習すること。また、復習をしっかりと行うこと。						

科目名	一般臨床医学Ⅰ					理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	天野 雅文			科 目 担当者	天野 雅文				
科目 概要	理学療法士は身体障害を対象とし、近年では内部障害に対する理学療法は非常に重要度が高まっている。 また運動器の障害を抱えている高齢者は他に多くの内科疾患を併せ持つことは既知のとおりである。 本講義では、リハビリテーションに携わるにあたって必要な内部障害をわかりやすく解説する。 また、多くの臨床的な画像読影を含めることで、実践に活かせる知識としていく。								
到達 目標	1. 各疾患の原因について理解できる。 2. 各疾患の病態(症状)について理解できる。 3. 各疾患の基本的な検査・治療について理解できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	概論		内科学とは				講義	天野	
2	診断学総論 1		問診、診察				講義	天野	
3	診断学総論 2		血液検査、生化学検査・免疫学的検査				講義	天野	
4	診断学総論 3		尿検査、心電図、病理診断				講義	天野	
5	診断学総論 4		単純 X 線検査、CT・MRI、超音波検査				講義	天野	
6	治療学総論 1		薬物治療、抗がん剤治療、輸血、栄養療法、放射線治療				講義	天野	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	天野	
8	治療学総論 2		救急医療、緩和ケア、老年医療、在宅医療、予防医学				講義	天野	
9	各論 1		循環器疾患①（高血圧・低血圧、不整脈）				講義	天野	
10	各論 2		循環器疾患②（虚血性心疾患、弁膜症・心筋症）				講義	天野	
11	各論 3		循環器疾患③（心不全、動脈疾患と静脈疾患、その他）				講義	天野	
12	各論 4		呼吸器疾患①（感染症および間質性肺炎）				講義	天野	
13	各論 5		呼吸器疾患②（感染症以外の呼吸器疾患）				講義	天野	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	天野	
15	各論 6		感染症				講義	天野	
16	各論 7		消化管疾患①（食道疾患、胃疾患）				講義	天野	
17	各論 8		消化管疾患②（小腸・大腸疾患）				講義	天野	
18	各論 9		肝疾患				講義	天野	
19	各論 10		胆・膵疾患				講義	天野	
20	各論 11		アレルギー疾患				講義	天野	
21	各論 12		リウマチ・膠原病				講義	天野	
22	まとめ 3		15～21 回の中間まとめ				講義	天野	
23	各論 13		電解質異常、腎・泌尿器疾患				講義	天野	
24	各論 14		内分泌疾患				講義	天野	
25	各論 15		代謝疾患①（糖尿病）				講義	天野	
26	各論 16		代謝疾患②（糖尿病以外の代謝疾患、骨粗鬆症）				講義	天野	
27	各論 17		血液疾患①（貧血・出血傾向）				講義	天野	
28	各論 18		血液疾患②（白血病・リンパ腫）				講義	天野	
29	各論 19		婦人科疾患、中毒、熱中症など				講義	天野	
30	まとめ 4		23～29 回の期末まとめ				講義	天野	

評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	Crosslink basic リハビリテーションテキスト 内科学，メジカルビュー社，角田 亘，岡崎 史子						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認する。						
履修上の 注意点	・理解するには生理学の知識が必要であるため、講義前にその単元の生理について予習すること。 ・毎時間ごとに 90 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。						

科目名	神経内科学						理学療法科		
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	荒木 康浩			科 目 担当者	荒木 康浩				
科目 概要	理学療法士は、主として QOL に何らかの支障をきたす方々を対象としている。本講義で取り上げる神経疾患は、この QOL を大きく損なう要因の 1 つとして推考できる。それゆえ理学療法士にとって神経疾患のリハビリテーションは、十分に理解する必要がある。 ここでは、多種多様な運動障害を呈する神経疾患を 1 つ 1 つ丁寧に解説していく予定である。本講義を通して一人ひとりが、神経生理学の基礎から各神経疾患における特徴まで、ある程度深い知識を得られるように板書を中心に進めていく。 また、多くの臨床的な画像読影を含めることで、実践に活かせる知識としていく。								
到達 目標	1. 神経生理学について理解できる。 2. 各疾患の原因・病態(症状)について理解できる。 3. 各疾患の基本的な検査・治療について理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	神経系の構造と機能①			神経系の全体像と大脳の構造、ニューロンとグリア細胞			講義	荒木	
2	神経系の構造と機能②			膜電位とシナプス伝達、大脳皮質・大脳辺縁系・大脳基底核			講義	荒木	
3	神経系の構造と機能③			感応・脳幹・小脳			講義	荒木	
4	脳動脈と脳血管障害①			脳動脈、脳血管障害			講義	荒木	
5	脳動脈と脳血管障害②			脳梗塞、脳内出血			講義	荒木	
6	脳動脈と脳血管障害③			脳動脈瘤、その他の疾患			講義	荒木	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	荒木	
8	高次脳機能障害			高次脳機能障害			講義	荒木	
9	脳静脈・髄液循環とその生涯			脳静脈・内頸動脈－海面静脈洞瘻、脳せき髄液・水頭症・生常圧水頭症			講義	荒木	
10	運動・感覚・自律神経①			運動と感覚・運動、運動の異常			講義	荒木	
11	運動・感覚・自律神経②			反射・運動の調節、感覚・自律神経系			講義	荒木	
12	脳神経とその障害			脳神経、三叉神経痛・顔面神経麻痺			講義	荒木	
13	脊髄とその障害			脊髄・脊髄疾患、脊髄梗塞・脊髄動静脈奇形、脊髄空洞症			講義	荒木	
14	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ			講義	荒木	
15	代謝性神経障害、感染性疾患			代謝性神経障害・Wernicke 脳症、感染性疾患、細菌性髄膜炎・結核性髄膜炎・真菌性髄膜炎			講義	荒木	
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経（第 2 版），メディックメディア，医療情報科学研究所								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義前後。その他は講義時に確認すること。							

**履修上の
注意点**

- ・ 1 年次に履修した解剖学・生理学の内容を踏まえて講義を行うため、ある程度の理解が求められる。心配がある学生は、総復習をしておくとい。
- ・ 毎時間ごとに 30 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。

科目名	整形外科科学					理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	荒巻 寛幸			担当 教員	荒巻 寛幸				
科目 概要	整形外科領域におけるリハビリテーションは、脳卒中リハビリテーションと並んで理学療法士にとって重要な領域であり、大きな役割を担っている。 本講義では、整形外科科学的診断学と治療法の基本から、理学療法士が関わることの多い疾患・外傷をメインにじっくりそしてわかりやすく紹介していく。 また、多くの臨床的な画像読影を含めることで、実践に活かせる知識としていく。								
到達 目標	1. 整形外科科学的診断・治療について理解できる。 2. 各疾患・外傷の成因・症状について理解できる。 3. 各疾患・外傷の基本的治療について理解できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	運動器の概観		運動器の概観				講義	荒巻	
2	運動器の生理		骨、関節、筋、神経				講義	荒巻	
3	整形外科科学的診断学		症候、診察、検査法				講義	荒巻	
4	整形外科科学的治療法①		保存療法				講義	荒巻	
5	整形外科科学的治療法②		手術療法				講義	荒巻	
6	運動器の構造・整形外科①		上肢①				講義	荒巻	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	荒巻	
8	運動器の構造・整形外科②		上肢②				講義	荒巻	
9	運動器の構造・整形外科③		下肢①				講義	荒巻	
10	運動器の構造・整形外科④		下肢②				講義	荒巻	
11	運動器の構造・整形外科⑤		下肢③				講義	荒巻	
12	運動器の構造・整形外科⑥		体幹①				講義	荒巻	
13	運動器の構造・整形外科⑦		体幹②				講義	荒巻	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	荒巻	
15	運動器の構造・整形外科⑧		末梢神経障害				講義	荒巻	
16	運動器の構造・整形外科⑨		外傷①				講義	荒巻	
17	運動器の構造・整形外科⑩		外傷②				講義	荒巻	
18	運動器の構造・整形外科⑪		スポーツ外傷・障害				講義	荒巻	
18	運動器の構造・整形外科⑫		骨・軟部腫瘍、脊髄腫瘍				講義	荒巻	
19	運動器の構造・整形外科⑬		リウマチ性疾患				講義	荒巻	
20	運動器の構造・整形外科⑭		変形性関節症				講義	荒巻	
21	運動器の構造・整形外科⑮		骨系統疾患				講義	荒巻	
22	まとめ 3		15～21 回の中間まとめ				講義	荒巻	
23	運動器の構造・整形外科⑯		代謝性疾患				講義	荒巻	
24	運動器の構造・整形外科⑰		感染性疾患①				講義	荒巻	
25	運動器の構造・整形外科⑱		感染性疾患②				講義	荒巻	
26	運動器の構造・整形外科⑲		老年症候群				講義	荒巻	
27	運動器の構造・整形外科⑳		装具				講義	荒巻	
28	運動器の構造・整形外科㉑		関節可動域				講義	荒巻	

29	運動器の構造・整形外科②	徒手筋力テスト	講義	荒巻
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ	講義	荒巻
評価方法				
評価指標	定期試験		-	合計
評価割合 (%)	100		-	100
教科書	病気がみえる 第 2 版 vol.11 運動器・整形外科, MEDIC MEDIA, 松村 譲児			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	各講義の前後。			
履修上の 注意点	理解するには解剖学、特に筋・骨格系の解剖学の知識が必要である。講義ごとに簡単にはおさらいをするが、講義前に予習をすること。また、復習もしっかり行うこと。			

科目名	薬理学					理学療法科			
学年	2	分野	基礎医学	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	岡本 順子			科 目 担当者	岡本 順子				
科目 概要	薬物治療とリハビリテーションは、相互に関連していることから、薬物に対する十分な知識を必要とする。 将来理学療法士として、対象者が服用している薬物の的確な把握は、自らが進めるリハビリテーションに多きな影響を与えると予見できる。ここでは、理学療法を安全かつ確実に実践する能力を養うために必要な薬理学に関する知識を、人体の生理機能を復習しながら学んでいく。								
到達 目標	1. 薬物の投薬経路の差異、各種薬物の体内動態を説明できる。 2. 抗炎症薬、自律神経作用薬、中枢神経薬、抗高血圧薬などの作用機序、副作用を説明できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	総論 1 薬物治療		薬の基本的な役割を理解する				講義	岡本	
2	総論 2 薬物作用		薬理作用の基本的な考えを理解する				講義	岡本	
3	総論 3 薬物動態		薬物の体内での動態を理解する				講義	岡本	
4	総論 4 薬効・副作用		薬物の作用機序や副作用などを理解する				講義	岡本	
5	各論 1 抗アレルギー薬		抗アレルギー薬について理解する				講義	岡本	
6	各論 2 抗炎症薬		抗炎症薬の作用機序・副作用を理解する				講義	岡本	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	岡本	
8	各論 3 末梢神経薬		自律神経に作用する薬について理解する				講義	岡本	
9	各論 4 末梢神経薬		筋弛緩薬・局所麻酔薬について理解する				講義	岡本	
10	各論 5 抗高血圧薬		抗高血圧薬について理解する				講義	岡本	
11	各論 6 利尿薬		利尿薬について理解する				講義	岡本	
12	各論 7 抗凝固薬		抗凝固薬について理解する				講義	岡本	
13	各論 8 中枢神経作用薬		抗精神病薬・抗うつ薬などについて理解する				講義	岡本	
14	各論 9 ホルモン関連薬		各種ホルモンに対する薬物について理解する				講義	岡本	
15	まとめ 2		8～14 回の期末まとめ				講義	岡本	
評価方法									
評価指標			定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			100	-	-	-	-	-	100
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 3 薬理学, 医学書院, 吉岡充弘								
教材・参考図書			適宜紹介する。						
オフィスアワー			各講義の前後。						
履修上の 注意点	・人体の生体機能が基本となるので、1 年次に学習した生理学を復習すること。 ・毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次の講義に備えること。								

科目名	臨床心理学					理学療法科			
学年	2	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	平早水 希			科 目 担当者	平早水 希				
科目 概要	“心身一如”“心身相関”という言葉があるように、人間の心と身体は密接な関係があり、理学療法の対象者には、常に心身両面の配慮が必要である。本科目では、臨床心理学について学び、人間の心についての知識や理解を得る。								
到達 目標	1 臨床心理学の構造や歴史、基本理論についての知識を習得する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	臨床心理学とは何か 1		構造と歴史				講義	平早水	
2	臨床心理学とは何か 2		基本理論				講義	平早水	
3	問題を理解する 1		アセスメントの目的と方法				講義	平早水	
4	問題を理解する 2		データの収集技法				講義	平早水	
5	問題を理解する 3		データの分析技法				講義	平早水	
6	問題を理解する 4		異常心理学				講義	平早水	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	平早水	
8	問題を理解する 5		ライフサイクルと心理学的問題、発達過程で生じる障害や問題				講義	平早水	
9	問題に介入する 1		理論モデル				講義	平早水	
10	問題に介入する 2		個人への介入技法				講義	平早水	
11	問題に介入する 3		集団・社会への介入技法				講義	平早水	
12	問題に介入する 4		コミュニティにおける相談活動				講義	平早水	
13	臨床心理学研究		臨床心理学研究				講義	平早水	
14	社会的専門性		社会のなかでの臨床心理活動				講義	平早水	
15	まとめ 2		8～14 回の期末まとめ				講義	平早水	
評価方法									
評価指標		筆記試験	提出物・小テスト	出席・授業態度等状況	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		60	30	10	-	-	-	100	
教科書	よくわかる臨床心理学, ミネルヴァ書房, 下山晴彦								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義前後を活用すること。							
履修上の 注意点	演習を中心とした授業のため、評価においては授業態度を重視する。 毎回の授業内容について十分な復習を行うこと。								

科目名	臨床運動学Ⅰ						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
科目 責任者	荒巻 寛幸				科目 担当者	荒巻 寛幸			
科目 概要	臨床運動学Ⅰでは、1年次の基礎運動学を元に動作分析、運動処方、運動学習に焦点を絞り、運動学Ⅰ・生理学・臨床心理学の復習を加えながら学習していく。 身体運動を生理的と心理的側面が関わる事を学術的に理解するために、最新の研究をも紹介しながら紹介していく予定である。								
到達 目標	1. 姿勢・動作のメカニズムが理解でき、書字にて表現することができる。 2. 体力に関わる、エネルギー代謝や酸素消費量などの運動生理学的側面を理解し、述べることができる。 3. 運動に関する心理面の理解、パフォーマンスと動機づけなどについて理解し、述べることができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	運動と動作の分析 1			運動分析に関わる用語 1・運動学Ⅰ復習			講義	荒巻	
2	運動と動作の分析 2			作業・動作の分析 1			講義	荒巻	
3	運動と動作の分析 3			作業・動作の分析 2（分析の実施 基本動作）			講義	荒巻	
4	運動と動作の分析 4			作業・動作の分析 3（分析の実施）			講義	荒巻	
5	運動と動作の分析 5			身体運動能力の検査 1			講義	荒巻	
6	運動と動作の分析 6			身体運動能力の検査 2（検査の実施）			講義	荒巻	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	荒巻	
8	体力と運動処方 1			体力について・運動学Ⅰ・生理学の復習、身体運動とエネルギー代謝			講義	荒巻	
9	体力と運動処方 2			運動処方（代表的疾患に対する）			講義	荒巻	
10	体力と運動処方 3			運動処方の実施・まとめ			講義	荒巻	
11	運動学習 1			学習と記憶・臨床心理学の復習			講義	荒巻	
12	運動学習 2			運動技能・学習の諸理論・臨床心理の復習			講義	荒巻	
13	運動学習 3			運動学習の諸理論			講義	荒巻	
14	運動学習 4			運動学習の神経生物学、練習と訓練			講義	荒巻	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			講義	荒巻	
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	動作分析 臨床活用講座』, メジカルビュー社, 石井慎一郎 基礎運動学, 医歯薬出版, 中村隆一								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		月曜日～木曜日 16:00-18:00 講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点		・講義中のスマートフォンの使用を禁止する。 ・毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。							
専任教員の 実務経験		・14 年間、病院やクリニックで理学療法を実施してきた経験があり、運動器・評価・バイオメカニクスに対する知識に精通している。							

科目名	理学療法評価学Ⅳ						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	中村 正恵				科 目 担当者	中村 正恵、丹下 亜友美			
科目 概要	3 年次に総合臨床実習に臨むにあたって、1.2 年次に行ってきた実技の総復習として、各種測定・検査技術を再確認する。								
到達 目標	1. 模擬患者に対し、形態測定を実施できる。 2. 模擬患者に対し、関節可動域測定を実施できる。 3. 模擬患者に対し、徒手筋力検査を実施できる。 4. 模擬患者に対し、各種神経学的検査を実施できる。 5. 模擬患者に対し、バイタルサインの確認ができる。 6. 模擬患者に対し、各種検査・測定を実施する際の体動に対する介助を安全に実施できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	形態測定			四肢長測定・四肢周径測定			実技	中村、丹下	
2	関節可動域測定			上肢			実技	中村、丹下	
3	関節可動域測定			下肢			実技	中村、丹下	
4	徒手筋力検査			上肢			実技	中村、丹下	
5	徒手筋力検査			下肢			実技	中村、丹下	
6	神経学的検査			腱反射			実技	中村、丹下	
7	神経学的検査			感覚検査			実技	中村、丹下	
8	バイタルサイン			脈拍・血圧測定、経皮的動脈血酸素飽和度測定			実技	中村、丹下	
9	介助			移乗、起座			実技	中村、丹下	
10	演習			自由課題（実技試験形式）			実技	中村、丹下	
11	演習			自由課題（実技試験形式）			実技	中村、丹下	
12	演習			自由課題（実技試験形式）			実技	中村、丹下	
13	演習			自由課題（実技試験形式）			実技	中村、丹下	
14	演習			自由課題（実技試験形式）			実技	中村、丹下	
15	演習			自由課題（実技試験形式）			実技	中村、丹下	
評価方法									
評価指標			定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			100	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法テキストⅡ 理学療法評価法，神陵文庫，千住秀明 新・徒手筋力検査法（第 10 版），協同医書出版社，Dale Avers, Marybeth Brown								
教材・参考図書			適宜紹介する。						
オフィスアワー			火・水・木曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	・毎時間ごとに 90 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。								

科目名	運動療法学Ⅰ						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
科 目 責任者	坂口 文宏			科 目 担当者	坂口 文宏				
科目 概要	運動療法とは、治療の手段として用いる運動のことを意味する。運動療法は理学療法の中核であり、近年その対象範囲は拡大傾向にある。この科目は運動療法学の総論と位置付け、対象者の健康状態に応じた、科学的根拠に基づいた運動療法を、基本的な専門的知識の理解と実践的技能を段階的に養うことを目的とし、障害と運動療法との関係について、基本的な内容を中心に学修していく。								
到達 目標	1. 運動療法を学習するにあたり必要な身体の名称・構造・機能を理解する。 2. 各種運動療法について、歴史、定義を説明できる。 3. 各種運動療法について、目的、対象を説明できる。 4. 各種運動療法について、その方法を説明かつ実施できる。 5. 運動療法に必要な筋骨格の理解を深める。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	運動療法の基礎 1			オリエンテーション、骨、関節、運動の基礎			講義	坂口	
2	運動療法の基礎 2			基本的運動、分類（力源、筋収縮状態）			講義	坂口	
3	運動療法の概観			歴史、概念（定義）、位置付け			講義	坂口	
4	運動療法機器			機器の基本的考え方、目的、種類			講義	坂口	
5	関節可動域運動 1			目的、種類、制限因子、関節の遊び、凹凸の法則、関節モビライゼーション			講義	坂口	
6	関節可動域運動 2			関節可動域運動の実際と注意点（上肢・下肢・体幹）			講義	坂口	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	坂口	
8	関節可動域運動 3			筋骨格の機能解剖（触診）からのストレッチングの意義			講義	坂口	
9	関節可動域運動 5			ストレッチングの実際			講義	坂口	
10	筋力・筋持久力運動 1			目的・適応、筋力に影響する因子、一般的原則			講義	坂口	
11	筋力・筋持久力運動 2			筋持久力、全身持久力、無酸素性作業閾値			講義	坂口	
12	筋力・筋持久力運動 3			筋力・筋持久力運動の実際と注意点			講義	坂口	
13	協調性回復運動			運動の協調性、障害、目的、原則、フレンケル体操、重り負荷			講義	坂口	
14	全身調整運動、神経生理学的アプローチ			コンディショニング、目的、方法、基本概念、生理学的基礎、諸家の紹介と理論			講義	坂口	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			講義	坂口	
評価方法									
評価指標		定期試験	－	－	－	－	－	－	合計
評価割合 (%)		100	－	－	－	－	－	－	100
教科書	理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ 神陵文庫, 千住秀明								
教材・参考図書		適宜紹介する							
オフィスアワー		月・火・金曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点	・理学療法士の業務で中核をなす重要な科目となる。ただ暗記するのではなく考え方を理解する必要がある。								

	・ 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。
専任教員の 実務経験	・ 28 年間、病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験から、持続的な地域支援を行う訪問リハビリの知識に精通している。

科目名	運動療法学Ⅱ						理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	荒木 康浩				科 目 担当者	荒木 康浩				
科目 概要	運動療法学Ⅱでは、運動療法Ⅰの発展として、科学的根拠に基づいた理学療法が実践できるために必要な病態及び障害の構造を理解し、対象者の状態を統合・解釈する認知スキルや実践的技能の獲得を目的とする。その中でも神経筋疾患、脊髄損傷に着目し、疾患の理解と対応を学習していく。									
到達 目標	1. 運動療法Ⅰの発展として、疾患別、障害別の病態を知り、各病態に適した運動療法を理解する。 2. 神経筋疾患、脊髄損傷の運動療法を実技も交えて理解する。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	神経疾患の運動療法 1			パーキンソン病の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	荒木	
2	神経疾患の運動療法 2			脊髄小脳変性症の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	荒木	
3	神経疾患の運動療法 3			筋萎縮性側索硬化症の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	荒木	
4	神経疾患の運動療法 4			多発性硬化症の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	荒木	
5	神経疾患の運動療法 5			ギラン・バレー症候群の概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	荒木	
6	神経疾患の運動療法 6			筋ジストロフィーの概念と病態の理解及び運動療法の実際				講義	荒木	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ				講義	荒木	
8	脊髄の解剖			脊髄と脊髄節、脊髄損傷の原因・死亡率と死因				講義	荒木	
9	理学療法評価 1			障害評価と評価とは、情報収集と評価項目				講義	荒木	
10	理学療法評価 2			高位診断と高位診断の臨床応用				講義	荒木	
11	理学療法評価 3			脊髄不全損傷の特殊型と脊髄完全損傷、自律神経障害・痙性麻痺(痙性の評価と治療)				講義	荒木	
12	理学療法治療指導			急性期から回復期までの理学療法				講義	荒木	
13	排尿・尿路・性機能障害			排尿の整理、尿路管理、脊髄損傷者の性機能				講義	荒木	
14	脊髄損傷とスポーツ、総括			障害区分、主なスポーツ種目、まとめ				講義	荒木	
15	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ				講義	荒木	
評価方法										
評価指標			定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション, 羊土社, 潮見泰蔵 Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ, メジカルビュー社, 鈴木 俊明、中山 恭秀									
教材・参考図書			その他適宜紹介する。							
オフィスアワー			各講義の前後に質問を受ける。							
履修上の 注意点	1. 解剖学に基づいた疾患別の理学療法となるため、1 年時に履修した解剖学を十分に復習しておくこと。 2. 解剖学生理学の知識をもとに脊髄損傷について学習していくため、十分に復習をすること。 3. 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次の講義に備えること。									

専任教員の 実務経験	・ 10 年間の病院やクリニックでの臨床経験があり、脳血管障害や整形外科疾患などの急性期から回復期の専門知識に精通している。
---------------	--

科目名	理学療法技術論Ⅰ						理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	後期
評価担当	田中 和範				担当教員	田中 和範				
科目概要	専門基礎科目において、対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するために、学習した運動器疾患の病態や評価法、リスク管理についての知識を統合し、運動器疾患の理学療法を実践するための理学療法理論を学習する。									
到達目標	1. 運動器疾患の評価法を理解し述べることができる。 2. 運動器疾患に対する理学療法の治療介入方法を理解する。 3. 運動器疾患の理学療法に際しリスク管理法を理解する。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	運動器疾患の概要			運動器疾患の評価法と理学療法アプローチ				講義	田中和	
2	肩関節疾患			脱臼、上腕骨近位端・骨幹部骨折、腱板断裂				講義	田中和	
3	肩関節疾患			周囲炎、RSD、腕神経叢麻痺				講義	田中和	
4	肘関節疾患			脱臼、上腕骨顆上・外顆・内側上顆骨折、前腕骨幹部骨折				講義	田中和	
5	肘・手関節疾患			肘内障、上腕骨外側上顆炎、OA、フォルクマン拘縮、コーレス骨折、手指の骨折、腱断裂				講義	田中和	
6	上肢に関する理学療法			肩、肘、手関節に関する運動器疾患に関する理学療法				講義	田中和	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ				演習	田中和	
8	脊髄損傷と体幹外傷			脊髄損傷の概要、肋骨・鎖骨・骨盤骨折				講義	田中和	
9	頸、胸、腰部周辺疾患			頸肩腕症候群、脊椎疾患、腰痛症				講義	田中和	
10	股関節疾患			大腿骨頸部骨折、OA、大腿骨頭壊死、先股脱、ペルテス病				講義	田中和	
11	膝関節疾患			大腿骨骨幹部骨折、膝蓋骨骨折、OA、半月板・靱帯損傷				講義	田中和	
12	下腿部疾患			オスグット病、下腿骨骨折、コンパートメント症候群				講義	田中和	
13	足関節疾患			アキレス腱断裂、靱帯損傷、骨折				講義	田中和	
14	スポーツ外傷、末梢神経損傷			スポーツ障害、代表的な末梢神経損傷、骨粗鬆症				演習	田中和	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ				講義	田中和	
評価方法										
評価指標			定期試験		－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)			100		－	－	－	－	100	
教科書	理学療法テキストⅦ 運動器疾患の理学療法 神陵文庫、中山彰一 PT・OT のための画像のみかた 金原出版、山下敏彦 理学療法テキストⅡ 理学療法評価法 神陵文庫、千住秀明									
教材・参考図書			その他適宜紹介する。							
オフィスアワー			毎週木曜日の 8:50～12:00							

履修上の 注意点	・ 毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。
専任教員の 実務経験	・ 19年間病院やクリニックでの臨床経験があり、急性期から回復期・訪問等まで幅広い分野の専門知識に精通している。

科目名	理学療法技術論Ⅱ						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	中村 正恵				科 目 担当者	中村 正恵			
科目 概要	本講義では、理学療法士が多く経験する脳血管障害および頭部外傷に焦点をあてる。1 年次に学習した中枢神経系の機能や構造など基礎的分野から、専門分野である脳血管障害の病態や障害の理解、医学的評価と治療について理解を深める。また、それらの障害に対し、科学的根拠に基づいた理学療法評価と理学療法について、理解することが目的である。さらに中枢神経系の発達障害に関し、特に脳性麻痺に焦点を当て、脳性麻痺に対する理学療法の専門的知識や実践の技能を段階的に習得する。科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践できる能力を身に付けることを目標とする。								
到達 目標	1. 中枢神経系の機能や構造について理解し、説明ができる。 2. 脳血管障害・頭部外傷の病態や医学的治療、障害および理学療法評価について理解し、説明ができる。 3. 脳血管障害・頭部外傷の理学療法について理解し、説明ができる。 4. 脳性麻痺の病態や障害、理学療法評価および理学療法について理解し、説明ができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	総論 1			脳の構造と機能（大脳、間脳、脳幹、小脳、大脳基底核、皮質脊髄路）、栄養血管			講義	中村	
2	脳血管障害の病態 1			脳梗塞の分類と病態生理、脳出血とくも膜下出血の病態生理			講義	中村	
3	脳血管障害の病態 2			脳血管障害の医学的検査、画像診断、治療と合併症			講義・演習	中村	
4	脳血管障害の病態 3			脳血管障害の代表的症候（運動障害・感覚障害）			講義	中村	
5	脳血管障害の病態 4			脳血管障害の高次脳機能障害（失行・失認・失語症・その他）			講義	中村	
6	脳血管障害の理学療法 1			運動機能回復段階（Burnnstrom Stage）と連合反応、共同運動、局所障害後の代償・回復過程、再組織化、運動学習と大脳皮質の可塑性			講義・演習	中村	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	中村	
8	脳血管障害の理学療法 2			脳血管障害に対する理学療法評価、脳血管障害のリスク管理			講義	中村	
9	脳血管障害の理学療法 3			急性期・回復期・生活期の理学療法			講義・演習	中村	
10	脳血管障害の理学療法 4			脳卒中ガイドラインに基づく理学療法			講義	中村	
11	頭部外傷の病態			頭部外傷の発症と病型・障害、医学的検査と画像診断			講義・演習	中村	
12	頭部外傷の理学療法			頭部外傷の理学療法評価（意識障害・高次脳機能障害）、頭部外傷の理学療法			講義	中村	
13	脳性麻痺の病態			脳性麻痺の定義と病型・合併症と二次障害・重症度分類 GMFCS と理学療法評価			講義・演習	中村	
14	脳性麻痺の理学療			脳性麻痺（痙直型両麻痺・痙直型・アテトーゼ型）の理学療法			講義	中村	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			講義	中村	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト・演習	-	-	-	-	合計	

評価割合 (%)		80	20	-	-	-	-	100
教科書	神経障害理学療法学Ⅰ，メジカルビュー，鈴木俊明他 小児理学療法学，メジカルビュー，藪中良彦他							
教材・参考図書	適宜、資料を配布する。							
オフィスアワー	金曜日 14：00－15：00、講義前後							
履修上の 注意点	・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。 ・各授業の確認問題や演習課題を適宜提示するので、積極的に取り組むことが望まれる。							
専任教員の 実務経験	・17年間、病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床での実務経験があり、神経系の理学療法に対する知識に精通している。							

科目名	理学療法技術論Ⅲ					理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	坂口 文宏			科 目 担当者	坂口 文宏				
科目 概要	理学療法技術論Ⅲでは、主に循環器、呼吸器、代謝性疾患など、超高齢社会の日本ではなくてはならない分野を行う。現在は、心臓や呼吸器に問題があるといった器質的疾患を合併する運動器疾患患者や脳血管疾患患者も増加しており、疾患の重症度を正確に把握することが求められる。この科目では、理学療法の効果を対象者の健康状態に応じて、最大限引き出せるように科学的根拠に基づいた専門知識・実践的技術を段階的に修得する。								
到達 目標	1. 虚血性心疾患の病態を理解し、リスク管理を踏まえ理学療法プログラムを作成することができる。 2. 代謝性疾患の病態を理解し、リスク管理を踏まえた上で理学療法プログラムを作成することができる。 3. 呼吸器疾患の成因・症状を理解し、適切な評価を選択し理学療法プログラムを作成することができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション 心臓リハビリテーションの概要 虚血性心疾患の理学療法 1			心臓リハビリテーションの歴史、目的、効果、対象疾患および循環機能障害 心臓の機能解剖、の病態生理			講義	坂口	
2	虚血性心疾患の理学療法 2			医学的管理と理学療法			講義	坂口	
3	心不全の理学療法 1			心不全の分類、心不全の病態生理			講義	坂口	
4	心不全の理学療法 2			心不全の理学療法			講義	坂口	
5	代謝性疾患の理学療法 1			糖尿病の病態生理			講義	坂口	
6	腎疾患の理学療法			腎疾患の病態生理と運動療法			講義	坂口	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	坂口	
8	呼吸リハビリテーションの概要 呼吸器機能評価の意義と方法			呼吸リハビリテーションの歴史、目的、効果、対象疾患 スパイログラム、フローボリューム曲線等			講義	坂口	
9	呼吸器疾患の理学療法①			慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎等			講義	坂口	
10	呼吸器疾患の理学療法②			腹式呼吸、ロすぼめ呼吸等			講義	坂口	
11	呼吸器疾患の理学療法②			体位排痰法、ハフティング、吸引の実際			講義	坂口	
12	がんのリハビリテーションの概要			がんのリハビリテーションの目的、分類			講義	坂口	
13	末梢動脈疾患の理学療法 深部静脈血栓症			診断、治療、評価、運動療法			講義	坂口	
14	運動処方			運動負荷試験、Borg スケール、6 分間歩行試験、運動処方作成			講義	坂口	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			講義	坂口	
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	内部障害理学療法学、医歯薬出版株式会社、高橋哲也								
教材・参考図書		適宜紹介する。							

オフィスアワー	月・火・金曜日 13:30-16:00 講義前後。その他は講義時に確認すること。
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。 ・予習・復習を1時間は行い、次回の講義に備えること。学習内容の定着化を図ること。

科目名	物理療法学					理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	山本 拓史				科 目 担当者	山本 拓史			
科目 概要	我が国における物理療法の位置づけは「理学療法士法及び作業療法士法」の中にある定義として「主としてその基本動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう」と明記されているように、理学療法の治療過程の中では運動療法と同様、物理療法も大きな中核を担っている。								
到達 目標	熱、電気、光などの物理的エネルギーを人体に用いて効果を得る治療法であり、機器を用いて鎮痛、身体的、精神的リラクセーション、循環の改善などが目的としている。各種物理療法機器の種類を学び、実際に起こる生体への影響を知った上で、対象者の状態に応じた正しい機器の使用方法やリスク管理ついて講義や実技を通して理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	オリエンテーション 各種機器の紹介			物理療法の定義、意義、各種物理療法機器の紹介			講義	山本	
2	炎症・浮腫・疼痛			グループワーク：炎症・浮腫・疼痛の定義・機序について討論			講義	山本	
3	温熱療法総論			熱生理学 温熱療法の定義・分類・基礎及び生理学的作用			講義	山本	
4	温熱療法各論			ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波の適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
5	温熱療法実技			温熱療法各種機器の説明、実技指導			実技	山本	
6	寒冷療法総論			クリッカー、アイスバック、アイスマッサージの適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
7	水治療法総論			水治療法 交代浴、過流浴の適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
8	牽引療法			頸椎・腰椎牽引の基礎の適応・禁忌・説明、実技指導理学的作用			講義	山本	
9	電機療法総論			電機療法の基礎、身体に及ぼす影響についての説明 FES、TES、TENS の違い			講義	山本	
10	電機療法各論			低周波、干渉波の適応・禁忌・生理学的作用、電気診断および筋電図バイオフィードバックについて			講義	山本	
11	電機療法実技			各種機器に関する使用方法			実技	山本	
12	光線療法総論			光線療法の基礎、身体に及ぼす影響についての説明			講義	山本	
13	光線療法各論			紫外線と赤外線、レーザーの基礎、適応・禁忌・生理学的作用			講義	山本	
14	光線療法実技			各種機器に関する使用方法、適応疾患や禁忌の確認			実技	山本	
15	リスク管理			医療安全についての理解及び医療事故の事例を提示しての説明			講義	山本	
評価方法									
評価指標		筆記試験	小テスト	出席・提出物等	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		60	20	20	-	-	-	100	

教科書	標準理学療法学 物理療法学，医学書院、網本和、菅原憲一
教材・参考図書	生理学テキスト、文光堂、大地陸男
オフィスアワー	火曜日の 14 時～15 時（その他は講義後に確認すること）
履修上の 注意点	講義に際しては事例を多用し、問題提起を促すことにより、能動的かつ積極的な思考を引き出す。よって、生徒には多くの失敗を経験することを期待する。各物理療法が引き起こす身体への影響については事前に生理学を学習しておくこと。
専任教員の 実務経験	・18 年間病院やクリニックで理学療法に携わってきた経験があり、物理療法に対する知識に精通している。

科目名	日常生活活動学						理学療法科			
学年	2	分野	基礎	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	前期
科 目 責任者	荒木 康浩				科 目 担当者	荒木 康浩				
科目 概要	人の生活は、留まることなく 24 時間、365 日心身ともに常に変化するものである。また。その生活は環境によって影響を受ける。理学療法士は、疾患や身体的な側面からだけでなく、日常生活場面から問題点を把握する視点を養うことが重要である。 本講義では、日常生活活動における関わりを知り、対象者に合わせた日常生活動作指導を行う為の基礎を学ぶ。また、ADL と QOL の相互関係を明確にし、そのうえで各疾患別の一般的な特徴と ADL 及び QOL のあり方を熟考し、各疾患に合わせた生活指導を学ぶと同時に、基礎的な部分のみならず専門的知識の定着化を図る。									
到達 目標	1. 日常生活活動の定義や概念を理解し、説明できるようになる。 2. 代表的な ADL 評価方法を理解し、説明できるようになる。 3. 代表的な自助具や福祉機器について理解する。 4. 理学療法士の役割と視点から、基本的動作・日常生活活動の臨床観察ポイントを把握する。 5. 日常生活活動の基礎的な知識を踏まえ、各疾患別特有の身体機能及び日常生活活動を理解する。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	ADL の概念と範囲			リハビリテーションにおける ADL の位置づけ、ADL・QOL・IL 運動の概念				講義	荒木	
2	日常生活の評価 1			ADL 評価の目的及び留意点、日常生活活動評価				講義	荒木	
3	日常生活の評価 2			BI、FIM				講義	荒木	
4	基本動作 1			基本動作の定義、分類				講義	荒木	
5	基本動作 2			基本動作の実際 1				講義	荒木	
6	基本動作 3			基本動作の実際 2				講義	荒木	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ				講義	荒木	
8	複合動作指導			一本杖動作・松葉杖動作・車椅子介助の実際				講義	荒木	
9	リハビリテーション支援機器			福祉機器と福祉用具、移動補助具				講義	荒木	
10	中枢神経・神経筋疾患 1			片麻痺患者の特徴、ADL の実際				講義	荒木	
11	中枢神経・神経筋疾患 2			パーキンソン病、頭部外傷				講義	荒木	
12	骨関節疾患			切断、関節リウマチ、腰痛症				講義	荒木	
13	その他障害			糖尿病・五感障害患者の ADL				講義	荒木	
14	老年期障害			高齢者の障害と ADL を理解する。				講義	荒木	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ				講義	荒木	
評価方法										
評価指標			定期試験	小テスト	－	－	－	－	合計	
評価割合 (%)			80	20	－	－	－	－	100	
教科書	理学療法テキストⅤ 日常生活活動 (ADL)，神陵文庫，橋元隆									
教材・参考図書		その他適宜紹介する。								
オフィスアワー		講義前後。その他は講義時に確認すること。								
履修上の 注意点	・本講義を通して、生活の中でどのように身体を動かしているのかを思考する習慣を身につけること。 ・毎時間ごとに 90 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。									

オフィスア ワー	・14年間病院やクリニックで理学療法を行ってきた臨床経験があり、日常生活場面での評価や関わりに精通している。
---------------------	--

科目名	ADL 実践演習						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	中村 正恵				科 目 担当者	中村 正恵 丹下 亜友美			
科目 概要	臨床実習に向けた準備を行い、見学実習Ⅱ（ADL）に備えるための知識・技術を身につける。姿勢と動作の基礎知識、起居・移動・移乗・段差・階段・歩行など日常生活動作を理解し、その介助法を学ぶ。また、高齢者や身体不自由者の身体的特性を考慮し、対象者に対して適切な動作指導や介助技術を習得する。								
到達 目標	1. 見学実習Ⅱ（ADL）の目的を十分に理解し、適切な態度や接遇を身につけることができる。 2. 各疾患や高齢者に対する介助方法を模倣し、模擬患者に実践することができる。 3. 車椅子や歩行補助具の特性を理解し安全に操作できる。 4. 対象者に対して日常生活における適切な動作指導を行える。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	臨床実習に向けて 1			見学実習Ⅱ（ADL）の意味、実習の目的			講義	中村正、丹下	
2	臨床実習に向けて 2			姿勢や動作の基本知識			講義	中村正、丹下	
3	リハビリテーション支援機器			福祉機器と福祉用具、自助具等の確認			講義・演習	中村正、丹下	
4	臨床実習演習 1			高齢者の ADL			講義・演習	中村正、丹下	
5	臨床実習演習 2			起居動作の理解と介助法			講義・演習	中村正、丹下	
6	臨床実習演習 3			立ち上がり・移乗動作の理解と介助法 車椅子操作方法			講義・演習	中村正、丹下	
7	臨床実習演習 4			実技（車椅子、歩行、階段昇降介助）			講義・演習	中村正、丹下	
8	臨床実習演習 5			入浴、清拭、整容等の介助法			講義・演習	中村正、丹下	
9	臨床実習演習まとめ 1			日常生活活動の介助指導			演習	中村正、丹下	
10	臨床実習演習まとめ 2			実技まとめ			演習	中村正、丹下	
11	臨床実習対策			見学実習Ⅱ（ADL）直前指導			講義	中村正、丹下	
12	臨床実習まとめ 1			見学実習Ⅱ（ADL）提出書類整理、振り返り			講義・演習	中村正、丹下	
13	臨床実習まとめ 2			見学実習Ⅱ（ADL）に関するグループワーク、発表準備			演習	中村正、丹下	
14	臨床実習まとめ 3			見学実習Ⅱ（ADL）に関するグループワーク、発表 1			演習	中村正、丹下	
15	臨床実習まとめ 4			見学実習Ⅱ（ADL）に関するグループワーク、発表 2			演習	中村正、丹下	
評価方法									
評価指標		実技試験・演習	課題・発表等	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		50	50	-	-	-	-	100	
教科書	理学療法テキストⅤ 日常生活活動（ADL） 第 2 版，神陵文庫，橋元 隆								
教材・参考図書		適宜、資料を配布する。							
オフィスアワー		授業前後を活用すること							
履修上の 注意点	3 年次の臨床実習につながる重要な科目である。常に臨床を意識して緊張感を持って臨んでほしい。日々の講義内容については、十分な復習をすることが求められる。								

科目名	義肢装具学						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	重松 直人				科 目 担当者	重松 直人、久保田 勝徳			
科目 概要	本講義では、義肢装具学の中からまず装具に焦点を当て、理学療法士として装具を用いて適切なアプローチが出来るようになるために、装具の目的、構造、処方、適合判定の専門的知識や実践を段階的に習得するための基礎を学ぶ。次いで義肢・義足に焦点を当て、理学療法士として義肢・義足を用いて適切なアプローチが出来るようになるために、義肢・義足の目的、構造、処方、適合判定の専門的知識や実践を段階的に習得するための基礎を学ぶ。また、臨床場面において装具の適応となる代表的な疾患について理解し、適切な装具が選択できるように学ぶ。								
到達 目標	1. 装具の目的、構造、種類の概略を説明できる。 2. 装具の適合状態とアライメントのチェック方法について具体的に説明することができる。 3. 義肢・義足の適合状態とアライメントのチェック方法について具体的に説明することができる。 4. 臨床に即した装具の適応となる疾患について理解し、適切な義肢装具の選択ができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	装具総論			障害と装具、装具の制作と材料、チームアプローチと専門職の役割			講義	久保田、重松	
2	下肢装具 1			下肢装具の種類と名称、構成要素、股継手・膝継手・足継手の基礎、調整や種類			講義	久保田、重松	
3	下肢装具 2			長・短下肢装具各論、膝装具・免荷装具			講義	久保田、重松	
4	上肢装具			手の構造、アライメントと機能・肩・肘装具、手・指装具			講義	久保田、重松	
5	装具の実際			生活場面における装具の活用、疾患別装具とその適応			講義	久保田、重松	
6	靴・靴底の補正			足の構造と機能、足底装具、靴の補正			講義	久保田、重松	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	久保田、重松	
8	体幹装具			頸椎装具、胸腰仙椎装具、側弯症装具			講義	久保田、重松	
9	義肢総論			義肢・義足の処方、切断者の動向、切断手技と断端管理、合併症			講義	重松	
10	義足 1			下腿義足ソケットの種類、機能、荷重・牽引方法			講義	重松	
11	義足 2			下腿義足のアライメント・異常歩行、大腿義足ソケットの種類、機能			講義	重松	
12	義足 3			大腿義足ソケットの荷重・牽引方法、ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント、異常歩行			講義	重松	
13	義足装着練習の実際			股関節離断・片側骨盤切断・大腿切断・膝関節離断・下腿切断・両側下肢切断とその演習			講義	重松	
14	小児切断、義手、その他の装具			小児切断と理学療法、能動・筋電義手の種類・適応、その他の足部変形の装具と適応			講義	重松	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ			講義	重松	
評価方法									
評価指標		定期試験	小テスト	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		80	20	-	-	-	-	100	
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 義肢装具学, メジカルビュー社, 廣滋恵一								

教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	火・水・木曜日 13:30-16:00 講義前後。その他は講義時に確認すること。
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。 ・毎時間ごとに 30 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。

科目名	理学療法実践論Ⅰ					理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	重松 直人			科 目 担当者	重松 直人、田中 和範、荒木 康浩				
科目 概要	理学療法はまず対象者の様々な状態を把握することから始まる。このことを理学療法評価といい、情報収集・記録・統合と解釈の3つの要素から成り立つ。 本科目では、このうち情報収集法にあたる各検査法の知識および技術を修得するとともに、中枢神経障害と骨関節系の障害について、疾患別に評価の概要を学ぶ。								
到達 目標	1. 各検査法の目的・意義を理解する。 2. 各検査法の内容を理解する。 3. 各検査法を正常人に対し実施できる。 4. 疾患別に基本的な評価及び検査法について理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	筋力検査 1		筋力について、基本原理、筋力低下による諸徴候				講義	重松	
2	筋力検査 2		筋力について、基本原理、筋力低下による諸徴候				演習	重松、田中	
3	感覚検査 1		感覚の意義目的、種類、留意点				講義	田中	
4	感覚検査 2		感覚の検査器具、検査法				講義	田中	
5	感覚検査 3		表在感覚と検査結果の表記法				演習	重松、田中	
6	感覚検査 4		深部感覚・複合感覚と検査結果の表記法				演習	重松、田中	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				演習	重松、田中	
8	反射 1		生理学的機序、深部反射				講義	重松	
9	反射 2		表在反射、病的反射、記録法				講義	重松	
10	反射 3		深部反射				演習	重松、田中	
11	反射 4		表在反射、病的反射				演習	重松、田中	
12	反射 5		まとめ				演習	重松、田中	
13	筋緊張検査 1		筋緊張とは、筋緊張の異常				講義	重松	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	重松	
15	筋緊張検査 2		筋緊張の検査方法				演習	重松、荒木	
16	協調性検査		協調性運動とは、協調性検査の実際				講義	重松	
17	高次脳機能検査		高次脳機能障害の定義と概要				講義	重松	
18	協調性検査、高次脳機能検査		評価の実際、精神機能の概要と評価				演習	重松、荒木	
19	意識障害		意識とは、程度分類				講義	重松	
20	片麻痺機能検査 1		運動障害の特徴				講義	重松	
21	片麻痺機能検査 2		Brunnstrome test				講義	重松	
22	まとめ 3		15～21 回の中間まとめ				講義	重松	
23	バイタルサイン測定 1		血圧測定				演習	重松、田中	
24	バイタルサイン測定 2		脈拍測定、血中酸素飽和度測定				演習	重松、田中	
25	バイタルサイン測定 3		まとめ				演習	重松、田中	
26	電気検査		誘発筋電図、強さ一時間曲線				講義	重松	
27	痛み		痛みについて、痛み検査の一般的手順				講義	荒木	

28	骨関節系の障害	骨・関節疾患、腰痛症				演習	重松、荒木
29	中枢神経障害	脳血管障害				演習	重松、荒木
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ				講義	重松
評価方法							
評価指標		定期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	100
教科書	理学療法テキストⅡ 理学療法評価法，神陵文庫，千住秀明 ベッドサイドの神経の診かた，南山堂，田崎 義昭						
教材・参考図書		適宜紹介する。					
オフィスアワー		火・水・木曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。					
履修上の 注意点	・ 講義は教科書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。 ・ 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。						

科目名	生活環境論						理学療法科			
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	仲濱 毅				科 目 担当者	仲濱 毅				
科目 概要	生活環境論では、理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、またどのように考えるのかを学ぶ。 理学療法では対象者に合わせた生活環境を設定するため、福祉用具・住環境整備に精通していることが求められる。本科目では、事例を通して理学療法士として求められる提案までの思考プロセスの一部を学習することも目的とする。									
到達 目標	1. 生活環境の概念と障害児・者や高齢者に関連する法制度に関して理解する。 2. 代表的な自助具や福祉機器について理解し、住環境整備に関する基礎知識が説明できる。 3. 地域環境も含めた生活環境整備における理学療法士の役割を学び、対象者の特徴に応じた福祉機器選定・環境整備を提案し、自己の意見を述べられるようになる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	総論 生活環境整備の留意点 1			生活環境論とは、肢体不自由、内部障害				講義	仲濱	
2	生活環境整備の留意点 2			感覚機能障害、高次脳機能障害、進行性疾患、認知症				講義	仲濱	
3	ROM と日常生活活動 1			ROM 障害と ADL 評価における考え方、上肢の ROM と ADL				講義	仲濱	
4	ROM と日常生活活動 2			下肢の ROM と ADL、普段の活動性と ROM				講義	仲濱	
5	バリアフリー関連諸制度			障害者施策の展開とバリアフリー対策とハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリーデザインとユニバーサルデザイン				講義	仲濱	
6	住環境についての考え方			住環境整備の意義、住環境整備の流れと注意点、住環境整備対策				講義	仲濱	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ				講義	仲濱	
8	住環境についての諸制度			住まいに関する制度、建築基準法とは、住まいづくりの融資				講義	仲濱	
9	福祉用具について 1			福祉用具の種類と機能				講義	仲濱	
10	福祉用具について 2			福祉用具に関する法律				講義	仲濱	
11	福祉用具について 3			福祉用具に関する制度				講義	仲濱	
12	障害別住宅改造例 1			脳卒中、脊髄損傷、慢性関節リウマチ、進行性疾患、認知症				講義	仲濱	
13	関連領域との連携 1			介護保険下における理学療法士の役割と問題点				講義	仲濱	
14	関連領域との連携 2			住宅改修における関連領域との連携				講義	仲濱	
15	まとめ 2			8～14 回の中間まとめ				講義	仲濱	
評価方法										
評価指標		定期試験		-	-	-	-	合計		
評価割合 (%)		100		-	-	-	-	100		
教科書	理学療法テキスト X 生活環境論, 神陵文庫, 千住秀明, 橋元隆									
教材・参考図書		適宜紹介する。								
オフィスアワー		火曜日 14：00－15：00								

	講義前後。その他は講義時に確認する。
履修上の 注意点	・ 講義中のスマートフォンの使用を禁止する。 ・ 毎時間ごとに 45 分程度の予習・45 分程度の復習を行い、次回の講義に備える。

科目名	見学実習Ⅱ（ADL）						理学療法科		
学年	2	分野	専門	単位数	1 単位 (全 22 単 位)	時間数	40 時間 (全 880 時 間)	期間	後期
科 目 責任者	中村 正恵				科 目 担当者	中村 正恵 丹下 亜友美			
科目 概要	見学実習Ⅱは、3 年時から始まる臨床実習への導入部と位置づけ、医療・福祉・介護等の施設および在宅リハビリテーション等の現場において、日常生活を支援する理学療法士の業務、加えて多職種連携等の関わりについて見学・体験を通して理解を深める。急性期・回復期・生活期の関係および機能障害と活動制限の関係について考える足掛かりとする。 また、臨床現場における理学療法士としての基本的態度（ソーシャルスキル）を学ぶことも、重要な目的としている。								
到達 目標	1. 身体障害者の介護支援を通して、活動制限の実態を把握する。 2. 同一疾患でも、機能障害の違いにより活動制限が異なることを学ぶ。 3. 介助が必要な応用的動作に必要な基本的動作について考える。 4. 介助が必要な基本的動作の原因（機能障害）について考える。 5. 生活期の理学療法について概要を学ぶ。 6. 実習生としての基本的態度について学ぶ。								
講義計画・講義内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において 5 日間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、対象者との交流を通して基本動作の理解を深める。その際は、対象者の抱える苦悩に傾聴し、共感するような姿勢を学ぶ必要がある。 3. 学内においては実習終了後に実習報告会（発表）を行う。									
評価方法									
評価指標	学内評価	-	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	-	-	100
教科書	配布した全ての教科書・参考書								
教材・参考図書	配布した全ての教科書・参考書								
オフィスアワー	各指導教員に適宜確認すること。								
履修上の 注意点	1. 各実習施設に応じて準備すること。 2. 実習においては、施設の環境整備など積極的に参加すること。 3. 毎回の授業内容については、十分な復習をすること。								

令和7年度3年生 履修科目

No.	科目名	単位数	時間
1	精神医学Ⅰ	1 単位	30 時間
2	一般臨床医学Ⅱ	1 単位	30 時間
3	保健医療福祉概論Ⅰ	1 単位	30 時間
4	理学療法管理学Ⅰ	1 単位	30 時間
5	理学療法実践論Ⅱ	2 単位	60 時間
6	総合臨床実習Ⅰ	4 単位	160 時間
7	総合臨床実習Ⅱ	8 単位	320 時間
8	総合臨床実習Ⅲ	8 単位	320 時間

科目名	精神医学Ⅰ						理学療法科			
学年	3	分野	専門基礎	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	仲濱 毅				科 目 担当者	仲濱 毅、長 彰純				
科目 概要	1. 精神の病気が時と状況によっては誰にでも生じるもので、決して特殊なものではないことを学ぶ。 2. 精神医学の特色と身体医学との比較で学び、精神障害に関する概念について学ぶ。 3. 臨床における精神科領域の疾患の症状と治療を学ぶ。									
到達 目標	1. 精神医療の現状、精神障害の症状、精神科診断について理解する。 2. 精神障害を呈する各疾患について特徴を述べることができる。 3. 精神科医療における理学療法士の役割について理解する。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	精神医学とは			導入・国家試験説明				講義	仲濱	
2	脳器質性・症状性精神障害 1			定義・概論・各疾患概要				講義	仲濱・長	
3	脳器質性・症状性精神障害 2			代謝及び栄養障害・内分泌障害・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
4	精神作用物質による精神および行動の障害 1			概論・各代表的な疾患				講義	仲濱・長	
5	精神作用物質による精神および行動の障害 2			薬物依存・家族の問題・治療と回復・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
6	てんかん 1			概論、代表的なてんかん・各てんかん・臨床場面における特徴				講義	仲濱・長	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ				講義	仲濱・長	
8	統合失調症 1			概要・代表的分類と予後				講義	仲濱	
9	統合失調症 2			病型と基本症状・病態・治療・臨床場面における特徴				講義	仲濱	
10	気分感情障害 1			概論				講義	仲濱	
11	気分感情障害 2			治療と援助・リハビリテーション・臨床場面における特徴				講義	仲濱	
12	神経症性障害 1			概論・各疾患概要				講義	仲濱	
13	神経症性障害 2			身体表現性障害・類似疾患・治療・臨床場面における特徴				講義	仲濱	
14	パーソナリティの障害、広汎性発達障害			定義・概論・人格・行動の障害、特異的発達障害 臨床				講義	仲濱	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ				講義	仲濱	
評価方法										
評価指標			定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)			100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学・作業療法学 精神医学, 医学書院, 奈良勲									
教材・参考図書			適宜紹介する。							
オフィスアワー			講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点	・ 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。									

科目名	一般臨床医学Ⅱ					理学療法科			
学年	3	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	宇田津明彦			科 目 担当者	宇田津明彦・坂口文宏				
科目 概要	近年、リハビリテーション領域において心疾患のリハビリテーションの需要は高まっている。現場で心疾患患者に対する理学療法を行ううえで、心電図を読み取る力は病態を把握するだけでなく、リスク管理を行ううえでも非常に重要となる。 本科目では、対象者の状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践できることを目的に正常心電図の復習から始め、各心疾患の異常心電図を読み取る力を養う。								
到達 目標	1. 正常心電図について理解できる。 2. 各心疾患の病態と異常心電図を結び付けて理解できる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	心電図の目的		リズム異常、虚血の有無				講義	宇田津・坂口	
2	心臓の解剖学・生理学①		心臓の構造と機能（右心系と左心系）				講義	宇田津・坂口	
3	心臓の解剖学・生理学②		心臓の構造と機能と刺激伝導系				講義	宇田津・坂口	
4	心電図の構成要素		電気の向き、量、速さ、基本波形と意義				講義	宇田津・坂口	
5	心電図のルール		基本事項、誘導				講義	宇田津・坂口	
6	波形の形・間隔の異常		P 波、QRS 波、T 波、U 波の異常、PR 間隔、QT 間隔、ST 部の異常				講義	宇田津・坂口	
7	まとめ 1		1～6 回の中間まとめ				講義	宇田津・坂口	
8	不整脈の波形異常①		チェック項目、期外収縮				講義	宇田津・坂口	
9	不整脈の波形異常②		伝導障害				講義	宇田津・坂口	
10	心臓とヒス束が原因の不整脈①		洞不全症候群				講義	宇田津・坂口	
11	心臓とヒス束が原因の不整脈②		心房細動・心房粗動				講義	宇田津・坂口	
12	心臓とヒス束が原因の不整脈③		房室ブロック、心房性期外収縮				講義	宇田津・坂口	
13	心室が原因の不整脈①		心室性期外収縮、Lown 分類、RonT				講義	宇田津・坂口	
14	まとめ 2		8～13 回の期末まとめ				講義	宇田津・坂口	
15	心室が原因の不整脈②		脚ブロック				講義	宇田津・坂口	
16	心室が原因の不整脈②		心室頻拍、心室細動等				講義	宇田津・坂口	
17	心電図演習①		練習問題（国家試験）				講義	宇田津・坂口	
18	心電図演習②		練習問題（国家試験）				講義	宇田津・坂口	
19	虚血性心疾患の心電図①		狭心症の病態（分類）と心電図				講義	宇田津・坂口	
20	虚血性心疾患の心電図②		狭心症の病態（分類）と心電図				講義	宇田津・坂口	
21	虚血性心疾患の心電図③		心筋梗塞の病態と心電図				講義	宇田津・坂口	
22	まとめ 3		15～21 回の中間まとめ				講義	宇田津・坂口	
23	虚血性心疾患の心電図④		心筋梗塞の病態と心電図				講義	宇田津・坂口	
24	電解質異常①		高カリウム血症、低カリウム血症				講義	宇田津・坂口	
25	電解質異常②		高カルシウム血症、低カルシウム血症				講義	宇田津・坂口	
26	急変対応		心停止、PEA、心室細動、脈なし心室頻拍				講義	宇田津・坂口	
27	心電図演習①		練習問題（国家試験）				講義	宇田津・坂口	

28	心電図演習②	練習問題（国家試験）	講義	宇田津・坂口
29	心電図演習③	練習問題（国家試験）	講義	宇田津・坂口
30	まとめ 4	23～29 回の期末まとめ	講義	宇田津・坂口
評価方法				
評価指標	定期試験	－	－	合計
評価割合 (%)	100	－	－	100
教科書	まるごと図解 心電図の見かた、照林社、山内豊明			
教材・参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	月・火・金曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。			
履修上の 注意点	・疾患を理解するうえで、心電図は重要な項目となる。ただ暗記するのではなく考え方を理解する必要がある。 ・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。			

科目名	保健医療福祉概論Ⅰ						理学療法科		
学年	3	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	田中 和範			科 目 担当者	田中 和範				
科目 概要	理学療法は、元来治療法であり医学的リハビリテーションの中に位置づけられ、活躍現場は病院（医療現場）が主であった。しかし、今日に至っては、急性期・回復期のみならず、生活期（福祉領域）に領域は拡大され、さらに、予防の観点から保健領域にまで職域は広がりがつつある。 本講義では、社会と医療・保健・福祉との関係について学び、また、それらの領域の各専門職の役割を把握し、多職種連携のしくみと重要性を学ぶ。								
到達 目標	1. 社会福祉とその分野が理解できる。 2. 社会福祉サービスの提供主体と社会福祉の援助方法が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	社会福祉とその分野 1			社会福祉とは			講義	田中和	
2	社会福祉とその分野 2			社会福祉の歴史、制度、組織			講義	田中和	
3	社会福祉とその分野 3			子ども・障害者・高齢者福祉			講義	田中和	
4	社会福祉とその分野 4			介護保険制度と専門職の役割			講義	田中和	
5	社会福祉とその分野 5			低所得者福祉、地域福祉とその推進方法			講義	田中和	
6	社会福祉とその分野 6			医療福祉、精神保健福祉			講義	田中和	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ			講義	田中和	
8	社会福祉の援助方法 1			社会福祉施設の役割			講義	田中和	
9	社会福祉の援助方法 2			社会福祉を担う人々			講義	田中和	
10	社会福祉の援助方法 3			相談援助の目的と方法			講義	田中和	
11	社会福祉の援助方法 4			医療 SW と多職種連携			講義	田中和	
12	社会福祉の援助方法 5			今後の課題とコメディカルに期待される役割			講義	田中和	
13	理学療法領域の研究 1			研究とは何か			講義	田中和	
14	まとめ 2			8～13 回の期末まとめ			講義	田中和	
15	理学療法領域の研究 2			研究方法論			講義	田中和	
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	15 レクチャーシリーズ，理学療法テキスト，理学療法管理学								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点	・課題の提出期日に遅れず提出すること。 ・毎時間ごとに 90 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。								

科目名	理学療法管理学Ⅰ						理学療法科			
学年	3	分野	専門	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	仲濱 毅				科 目 担当者	仲濱 毅				
科目 概要	これまででも理学療法管理に関する知識は「理学療法概論」のなかで取り扱われていた。しかし、今回の指定規則の改正で新たな科目として加わってきたことを鑑み、本科目では狭義の管理にとどまらず、その概念と方法論とを広義に理解・認識することで、将来的に理学療法士として従事する際に役立つよう制度の理解、組織の運営、倫理等について理解を深めていくこととする。									
到達 目標	1. 病院・施設・在宅などでの対象者に対する課題の把握とリスク管理やマネジメントについて理解できる。 2. 個々の対象者に対して必要なマネジメントを構築し、短・中期プランを構築できる。 3. 教育・研究・地域領域においてリスク管理ができる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	オリエンテーション			理学療法管理学を学ぶ意義・授業表について				講義	仲濱	
2	業務管理①			理学療法士の業務の流れ・他職種の連携・業務・労務管理・人事考課				講義	仲濱	
3	業務管理②			監査への対応・職場環境のデザイン・機器の点検、管理				講義	仲濱	
4	情報管理①			理学療法の業務に必要な情報と診療記録の分類・理学療法の業務に必要な記録とその管理				講義	仲濱	
5	情報管理②			理学療法の業務に必要な情報を得るためのコミュニケーション技術				講義	仲濱	
6	リスク管理			医療、介護におけるコンプライアンス・インシデントとアクシデント、事故の背景・安全への取り組みの方法				講義	仲濱	
7	まとめ 1			1～6 回の中間まとめ				講義	仲濱	
8	感染症管理①			感染と感染症・感染症の構成要素・感染症の予防				講義	仲濱	
9	感染症管理②			医療機関における感染対策・高齢者介護施設における感染対策・理学療法と感染症				講義	仲濱	
10	権利擁護と職業倫理①			インフォームドコンセント・個人情報保護・倫理				講義	仲濱	
11	権利擁護と職業倫理②			ハラスメント・コンフリクトマネジメント・「医療広告ガイドライン」				講義	仲濱	
12	教育管理①			臨床実習の管理・臨床実習の評価方法				講義	仲濱	
13	教育管理②			理学療法士国家試験の管理・臨床教育の管理・生涯学習の管理				講義	仲濱	
14	理学療法士の政治・政策への関与			理学療法士が政治に関与しなければならない理由・職能団体・個人としての政治への関与				講義	仲濱	
15	まとめ 2			8～14 回の期末まとめ				講義	仲濱	
評価方法										
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計	
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100	
教科書	理学療法管理学，中山書店，石川 朗									
教材・参考図書		適宜紹介する。								

オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。
履修上の 注意点	・3年次の履修のため臨床実習と並行して進めていくこととなる。臨床現場と重ねながら学修することで、よりリアルな学びとなることを期待する。講義の円滑な理解のため、予習・復習および臨床現場の実際を確認・意識しながら学修していくことを勧める。 ・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。
専任教員の 実務経験	・25年間の病院やクリニックでの臨床経験があり、脳血管障害や整形外科疾患などの急性期から回復期の専門知識に精通している。

科目名	理学療法実践論Ⅱ					理学療法科			
学年	3	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	荒巻 寛幸			科 目 担当者	荒巻 寛幸・田中 和範 荒木 康治・中村 正恵				
科目 概要	各疾患の病態・臨床像を整理し、理学療法評価や理学療法アプローチについて立案および展開できる力を養います。演習を通じて自らの臨床思考過程を発表することで、その思考過程をさらに吟味し深めていきます。								
到達 目標	1. 各疾患の特異的な病態に基づいた統合と解釈ができる。 2. 自らの臨床思考を整理し報告することができる。 3. 他者の意見を取り入れ、自らの思考を批判的に吟味し再構成することができる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
2	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
3	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
4	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
5	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
6	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
7	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
8	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
9	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
10	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
11	小児疾患と脳血管疾患			小児疾患と脳血管疾患の臨床推論			講義	中村正	
12	ADL			ADL と臨床思考過程			講義	荒木	
13	ADL			ADL と臨床思考過程			講義	荒木	
14	まとめ 1			1～13 回の中間まとめ			講義	荒木	
15	ADL			ADL と臨床思考過程			講義	荒木	
16	ADL			ADL と臨床思考過程			講義	荒木	
17	整形外科学			整形外科学と臨床思考過程			講義	荒巻	
18	整形外科学			整形外科学と臨床思考過程			講義	荒巻	
19	整形外科学			整形外科学と臨床思考過程			講義	荒巻	
20	整形外科学			整形外科学と臨床思考過程			講義	荒巻	
21	整形外科学			整形外科学と臨床思考過程			講義	荒巻	
22	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	田中	
23	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	田中	
24	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	田中	
25	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	田中	
26	運動器疾患			運動器疾患と臨床思考過程			講義	田中	

27	運動器疾患	運動器疾患と臨床思考過程	講義	田中
28	運動器疾患	運動器疾患と臨床思考過程	講義	田中
29	運動器疾患	運動器疾患と臨床思考過程	講義	田中
30	まとめ 2	15～29 回の期末まとめ	講義	田中
評価方法				
評価指標	定期試験	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	100
教科書				
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日・木曜日の 16：00～18：00			
履修上の 注意点	基礎的な知識・技術をもとに授業が展開されるため、授業前後に 90 分程度の予習、復習を行うこと。			

科目名	総合臨床実習Ⅰ						理学療法科		
学年	3	分野	専門	単位数	4 単位	時間数	160 時間	期間	前期
科 目 責任者	荒巻 寛幸			科 目 担当者	荒巻 寛幸・田中 和範				
科目 概要	総合臨床実習Ⅰ～Ⅲは、主に医療提供施設にて、見学および体験を通じて以下のことを学び、卒業後の臨床活動の礎を築くことを目的とする。 また、総合臨床実習Ⅰ～Ⅲのいずれかに1週間の地域包括ケア実習を含む。地域包括ケア実習は通所リハビリテーション、または訪問リハビリテーション施設にて見学および体験を通じて、以下のことを学ぶことを目的とする。								
到達 目標	総合臨床実習Ⅰ～Ⅲ 1. 臨床現場における理学療法士としての基本的態度（ソーシャルスキル）を身に付ける。 2. 各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。 3. チームの一員として連携の方法を学び、責任と自覚を培う。 地域包括ケア実習 1. 「地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション」での理学療法士の業務の概要・流れや理学療法の位置づけ・役割を学ぶ。 2. 「地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション」での多職種連携について学ぶ。								
実習計画・実習内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において6週間行われる。 2. 実習方法は、実習指導者の直接監視のもとに、診療業務の見学→診療業務への協同参加→診療業務の実施の手順で行う、診療参加型実習の方法で行う。 3. 診療参加型実習によって、臨床現場における理学療法業務遂行能力を身につける。 4. 学内においては実習前および実習後に実習前評価・実習後評価（客観的臨床能力試験および筆記試験）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	1. 各実習施設に応じて準備すること。 2. 実習後は総合臨床実習Ⅱに備えること。								

科目名	総合臨床実習Ⅱ						理学療法科		
学年	3	分野	専門	単位数	8 単位	時間数	320 時間	期間	後期
科 目 責任者	荒巻 寛幸				科 目 担当者	荒巻 寛幸・田中 和範			
科目 概要	総合臨床実習Ⅰ～Ⅲは、主に医療提供施設にて、見学および体験を通じて以下のことを学び、卒業後の臨床活動の礎を築くことを目的とする。 また、総合臨床実習Ⅰ～Ⅲのいずれかに1週間の地域包括ケア実習を含む。地域包括ケア実習は通所リハビリテーション、または訪問リハビリテーション施設にて見学および体験を通じて、以下のことを学ぶことを目的とする。								
到達 目標	総合臨床実習Ⅰ～Ⅲ 1. 臨床現場における理学療法士としての基本的態度（ソーシャルスキル）を身に付ける。 2. 各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。 3. チームの一員として連携の方法を学び、責任と自覚を培う。 地域包括ケア実習 1. 「地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション」での理学療法士の業務の概要・流れや理学療法の位置づけ・役割を学ぶ。 2. 「地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション」での多職種連携について学ぶ。								
実習計画・実習内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において8週間行われる。 2. 実習方法は、実習指導者の直接監視のもとに、診療業務の見学→診療業務への協同参加→診療業務の実施の手順で行う、診療参加型実習の方法で行う。 3. 診療参加型実習によって、臨床現場における理学療法業務遂行能力を身につける。 4. 学内においては実習前および実習後に実習前評価・実習後評価（客観的臨床能力試験および筆記試験）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法評価法，神陵文庫 ベッドサイドの神経の診かた，南山堂								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	1. 各実習施設に応じて準備すること。 2. 実習後は総合臨床実習Ⅲに備えること。								

科目名	総合臨床実習Ⅲ						理学療法科		
学年	3	分野	専門	単位数	8 単位	時間数	360 時間	期間	後期
科 目 責任者	荒巻 寛幸			科 目 担当者	荒巻 寛幸・田中 和範				
科目 概要	総合臨床実習Ⅰ～Ⅲは、主に医療提供施設にて、見学および体験を通じて以下のことを学び、卒業後の臨床活動の礎を築くことを目的とする。 また、総合臨床実習Ⅰ～Ⅲのいずれかに1週間の地域包括ケア実習を含む。地域包括ケア実習は通所リハビリテーション、または訪問リハビリテーション施設にて見学および体験を通じて、以下のことを学ぶことを目的とする。								
到達 目標	総合臨床実習Ⅰ～Ⅲ 1. 臨床現場における理学療法士としての基本的態度（ソーシャルスキル）を身に付ける。 2. 各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。 3. チームの一員として連携の方法を学び、責任と自覚を培う。 地域包括ケア実習 1. 「地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション」での理学療法士の業務の概要・流れや理学療法の位置づけ・役割を学ぶ。 2. 「地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション」での多職種連携について学ぶ。								
実習計画・実習内容									
1. 実習は同一の臨床実習施設において6週間行われる。 2. 実習方法は、実習指導者の直接監視のもとに、診療業務の見学→診療業務への協同参加→診療業務の実施の手順で行う、診療参加型実習の方法で行う。 3. 診療参加型実習によって、臨床現場における理学療法業務遂行能力を身につける。 4. 学内においては実習前および実習後に実習前評価・実習後評価（客観的臨床能力試験および筆記試験）を行う。									
評価方法									
評価指標		学内評価	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合(%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	理学療法評価法 神陵文庫 ベッドサイドの神経の診かた 南山堂								
教材・参考図書		配布した全ての教科書・参考書							
オフィスアワー		各指導教員に適宜確認すること。							
履修上の 注意点	臨床実習施設に応じて準備すること。								

令和7年度4年生 履修科目

No.	科目名	単位数	時間
1	解剖学Ⅲ	2 単位	60 時間
2	解剖学Ⅳ	1 単位	30 時間
3	生理学Ⅲ	2 単位	60 時間
4	精神医学Ⅱ	1 単位	30 時間
5	病理学Ⅱ	1 単位	30 時間
6	一般臨床医学Ⅲ	1 単位	30 時間
7	保健医療福祉概論Ⅱ	1 単位	30 時間
8	臨床運動学Ⅱ	2 単位	60 時間
9	臨床運動学Ⅲ	1 単位	30 時間
10	理学療法管理学Ⅱ	1 単位	30 時間
11	理学療法評価学Ⅴ	2 単位	60 時間
12	運動療法学Ⅲ	2 単位	60 時間
13	理学療法実践論Ⅲ	2 単位	60 時間
14	理学療法実践論Ⅳ	2 単位	60 時間
15	複合的理学療法学	2 単位	60 時間
16	総合領域	2 単位	60 時間
17	地域理学療法学	2 単位	60 時間

科目名	解剖学Ⅲ					理学療法科			
学年	4 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	長門 俊一			科 目 担当者	長門 俊一				
科目 概要	ここでは、これまでの集大成としての「解剖学」と言った位置づけで、授業を進めていきたい。わけても、1 年次に履修した内臓系、内分泌系、神経系、感覚器系と言った一連の領域を微細に再確認していく予定である。 対象者の心身能力を正確に評価する客観性を担保するには、この一連の領域をしっかりと身につけておく必要がある。この講義を遺漏なく理解すれば、臨床的な思考過程の育成に役立つとともに、ハイレベルの知識も習得できる。								
到達 目標	1. 内臓系の位置と構造を三次元的にイメージし、その基本的な働きを理解する。 2. 神経系と内分泌系の構造を理解し、他の組織とのつながりを説明できる。 3. 感覚器系の構造と働きを理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	細胞および組織・発生 (1)			細胞の形態と内部構造			講義	長門	
2	細胞および組織・発生 (2)			組織分類と特性			講義	長門	
3	細胞および組織・発生 (3)			人体の発生			講義	長門	
4	消化器 (1)			口、口腔腺、咽頭、食道			講義	長門	
5	消化器 (2)			胃、十二指腸、空腸			講義	長門	
6	消化器 (3)			回腸、大腸、肝臓			講義	長門	
7	消化器 (4)			肝臓、胆道			講義	長門	
8	消化器 (5)			膵臓、腹膜			講義	長門	
9	呼吸器 (1)			外鼻、副鼻腔			講義	長門	
10	呼吸器 (2)			咽頭、喉頭			講義	長門	
11	呼吸器 (3)			気管、気管支			講義	長門	
12	呼吸器 (4)			肺、胸膜、縦隔			講義	長門	
13	泌尿器 (1)			腎臓			講義	長門	
14	泌尿器 (2)			尿管、膀胱、尿道			講義	長門	
15	生殖器 (1)			精巣、精管、精囊			講義	長門	
16	生殖器 (2)			付属生殖器、陰茎と陰囊			講義	長門	
17	生殖器 (3)			卵巣、卵管、子宮、膣			講義	長門	
18	生殖器 (4)			外陰部、会陰、周期的変化、胎盤			講義	長門	
19	神経系 (1)			神経組織、中枢神経の区分、脳室系、髄膜			講義	長門	
20	神経系 (2)			終脳、間脳、中脳、橋、延髄			講義	長門	
21	神経系 (3)			小脳、脊髄、伝導路			講義	長門	
22	神経系 (4)			脳神経 (Ⅰ～Ⅵ)			講義	長門	
23	神経系 (5)			脳神経 (Ⅶ～Ⅻ)			講義	長門	
24	神経系 (6)			脊髄神経後枝、頸神経叢、腕神経叢、胸神経			講義	長門	
25	神経系 (7)			腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢、尾骨神経			講義	長門	

26	神経系 (7)	デルマトーム、自律神経	講義	長門
27	感覚器 (1)	皮膚、深部感覚	講義	長門
28	感覚器 (2)	視覚器	講義	長門
29	感覚器 (3)	聴覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器	講義	長門
30	感覚器 (4)	味覚器、嗅覚器	講義	長門
評価方法				
評価指標	定期試験	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	100
教科書	解剖学 (第 2 版), 医歯薬出版株式会社, 全国柔道整復学校協会			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。			
履修上の 注意点	・ 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。などを文中に加える。			

科目名	解剖学Ⅳ					理学療法科			
学年	4	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	重松 直人			科 目 担当者	重松 直人				
科目 概要	これまでの集大成としての「解剖学」と言った位置づけで、授業を進めていく。特に、1 年次に履修した運動器系の領域を微細に再確認していく予定である。 理学療法の目的は対象者の基本的動作能力の回復である。対象者の動作能力を正確に評価する客観性を担保するには、人体運動学が必要であるが、そのベースとなる運動器系の解剖学は必修となる。また、様々な運動器系の疾患の理解にも必修となる。その臨床的な思考過程の育成に役立つよう講義を進める。								
到達 目標	1. 全身の骨・関節の構造を理解する。 2. 全身の筋の走行を理解する。 3. 運動に関わる神経の構造及び支配を理解する。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	骨格系 総論 (1)			骨の機能、形状分類、構造			講義	重松	
2	骨格系 総論 (2)			骨の発生と成長、骨の部位の用語、骨の連結			講義	重松	
3	骨格系 各論 (1)			脊柱			講義	重松	
4	骨格系 各論 (2)			胸廓			講義	重松	
5	骨格系 各論 (3)			上肢骨			講義	重松	
6	骨格系 各論 (4)			上肢の関節			講義	重松	
7	骨格系 各論 (5)			下肢骨			講義	重松	
8	骨格系 各論 (6)			下肢の関節			講義	重松	
9	骨格系 各論 (7)			頭蓋			講義	重松	
10	筋系 骨格筋 (1)			筋の形態、起始と停止、筋の作用			講義	重松	
11	筋系 骨格筋 (2)			筋の補助装置、筋の神経			講義	重松	
12	筋系 頭部の筋 (1)			顔面筋（表情筋）			講義	重松	
13	筋系 頭部の筋 (2)			咀嚼筋			講義	重松	
14	筋系 頸部の筋			頸部の筋			講義	重松	
15	筋系 胸部の筋 (1)			胸部の筋（呼吸筋以外）			講義	重松	
16	筋系 胸部の筋 (2)			呼吸筋			講義	重松	
17	筋系 腹部の筋			腹部の筋			講義	重松	
18	筋系 背部の筋			背部の筋			講義	重松	
19	筋系 上肢の筋 (1)			上肢帯の筋、上腕の筋			講義	重松	
20	筋系 上肢の筋 (2)			前腕の筋、手の筋			講義	重松	
21	筋系 下肢の筋 (1)			下肢帯の筋、大腿の筋			講義	重松	
22	筋系 下肢の筋 (2)			下腿の筋、足の筋			講義	重松	
23	脊髄神経 (1)			腕神経叢			講義	重松	
24	脊髄神経 (2)			上肢の筋の神経支配			講義	重松	
25	脊髄神経 (3)			腰神経叢、仙骨神経叢、下肢の筋の神経支配			講義	重松	
26	脊髄神経 (4)			デルマトーム、皮膚の末梢神経支配域			講義	重松	
27	体表解剖学 (1)			頭・頸部・体幹			講義	重松	
28	体表解剖学 (2)			上肢・下肢			講義	重松	
29	体表解剖学 (3)			拍動の触れる動脈			講義	重松	

30	骨格系 総論 (1)	骨の機能、形状分類、構造				講義	重松
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	全国柔道整復学校協会 解剖学，医歯薬出版，岸清 基礎運動学，医歯薬出版，中村隆一						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	火・水・木曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	・ 講義は教科書を主体とする。板書を多用し、図を描くことも多いので、色ペンを準備し、しっかりとノートをとって復習すること。 ・ 毎時間ごとに 30 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。						

科目名	生理学Ⅲ					理学療法科				
学年	4	分野	基礎医学	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	加藤 健一			科 目 担当者	加藤 健一					
科目 概要	生理学は人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。現在の生理学は、解剖学的知識や実験などにより得られた科学的証拠に基づき構築されている。その成果は臨床医学の領域で病気の治療に不可欠な知識を提供している。									
到達 目標	各臓器や組織の役割と働きを理解し、人体の恒常性とその維持機能について説明することができる。基本的事項から外傷・障害の治療への応用に至るまでを理解し、説明することができる。卒業後の臨床活動へ向けて基本事項から応用に至るまでの理解を深めていく中で、生理学と関連性の大きい種々の疾患を理解し、説明することができるようになる。									
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員		
1	生理学の基礎		人体を構成する要素～輸送				講義	加藤		
2	体液の生理学		体液の区分、イオン組成、恒常性維持のしくみ				講義	加藤		
3	神経系の基本的機能(1)		静止膜電位と活動電位、閾刺激、不応期				講義	加藤		
4	神経系の基本的機能(2)		興奮の伝導と伝達				講義	加藤		
5	神経系の機能(1)		神経系の成り立ち				講義	加藤		
6	神経系の機能(2)		内臓機能調節、視床下部による調節				講義	加藤		
7	神経系の機能(3)		姿勢と運動の調節				講義	加藤		
8	神経系の機能(4)		高次機能				講義	加藤		
9	感覚の生理学(1)		感覚の種類、一般的性質、体性感覚と内臓感覚				講義	加藤		
10	感覚の生理学(2)		特殊感覚				講義	加藤		
11	内分泌系の機能(1)		内分泌とは、ホルモンの性質・種類・作用				講義	加藤		
12	内分泌系の機能(2)		視床下部、下垂体、甲状腺、副腎皮質のホルモン				講義	加藤		
13	内分泌系の機能(3)		副腎髄質、膵臓、性腺のホルモン				講義	加藤		
14	骨の生理学		構造、形成と成長、再吸収と再形成、ビタミンD				講義	加藤		
15	生殖		性分化、生殖器、月経周期、妊娠分娩、乳汁分泌				講義	加藤		
16	筋肉の機能(1)		種類とその特徴、骨格筋の構造、収縮、興奮				講義	加藤		
17	筋肉の機能(2)		筋長と張力、収縮エネルギー、平滑筋、心筋				講義	加藤		
18	血液の生理学(1)		血液の役割と組成				講義	加藤		
19	血液の生理学(2)		免疫機能、血液型、血液凝固				講義	加藤		
20	循環の生理学(1)		心臓の機能、血管系、リンパ管系				講義	加藤		
21	循環の生理学(2)		循環の調節、局所循環、脳脊髄液循環				講義	加藤		
22	呼吸の生理学(1)		換気、ガス交換、ヘモグロビンの役割				講義	加藤		
23	呼吸の生理学(2)		二酸化炭素の運搬、呼吸の調節、呼吸の異常				講義	加藤		
24	消化と吸収(1)		消化器系の働き、運動とその調節、消化液				講義	加藤		
25	消化と吸収(2)		消化、吸収、消化管ホルモン、肝臓と胆道系				講義	加藤		
26	栄養と代謝①		代謝、中間代謝				講義	加藤		

27	栄養と代謝②	エネルギー代謝	講義	加藤
28	体温とその調節	体温、熱産生と熱放散、体温調節、うつ熱と発熱	講義	加藤
29	尿の生成と排泄(1)	腎の構造と機能、糸球体ろ過	講義	加藤
30	尿の生成と排泄(2)	尿細管の再吸収と分泌、尿の成分、排尿	講義	加藤
評価方法				
評価指標	定期試験	-	-	合計
評価割合(%)	100	-	-	100
教科書	生理学テキスト 文光堂			
教材・参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。			
オフィスアワー	各講義の前後。			
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体に進める。1 年次に履修した内容を発展させたものであるため、事前に教科書の予習・復習し参加すること。板書を多用し、図を描くことも多いので、色ペン、色鉛筆を準備しておくことが望ましい。 ・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。			

科目名	精神医学Ⅱ					理学療法科			
学年	4	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	荒木 康浩			科 目 担当者	荒木 康浩				
科目 概要	1. 精神医学Ⅰでの履修内容を再確認し理解を深める。 2. 代表的な精神疾患に対し治療の基本的な流れを理解することを目指す。 3. 理学療法を安全に実施するために、精神疾患の対象者の健康状態を理解する。								
到達 目標	1. 代表的な精神疾患の特徴と、それに対する様々な治療法を理解す。 2. 近年の医療技術者の医療水準を踏まえ、理学療法士の職域として必要な精神医学分野を理解習得する。 3. 医療連携を前提とした理学療法士の関わりを理解する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	精神医学とは		精神障害にかかわる概念				講義	田中和	
2	脳器質性精神障害 1		脳器質性精神障害の概念・認知症・各原因疾患				講義	田中和	
3	脳器質性精神障害 2		各論（変性疾患・血管性・感染症・外傷・中毒・腫瘍・代謝障害）				講義	田中和	
4	症状性精神障害 1		症状性精神障害の概念・基本症状				講義	田中和	
5	症状性精神障害 2		各論（代謝及び栄養障害・高原病・内分泌障害）				講義	田中和	
6	精神作用物質による精神および行動の障害 1		定義・概念・各論（アルコール）				講義	田中和	
7	精神作用物質による精神および行動の障害 2		各論（薬物依存）				講義	田中和	
8	精神作用物質による精神および行動の障害 3		家族の問題・治療				講義	田中和	
9	てんかん 1		定義・発作症状・精神症状				講義	田中和	
10	てんかん 2		国際分類・代表的なてんかん				講義	田中和	
11	てんかん 3		特徴的な経過と予後・薬物治療				講義	田中和	
12	統合失調症 1		定義・概要・疫学・特徴				講義	田中和	
13	統合失調症 2		病型と基本症状・社会生活場面				講義	田中和	
14	統合失調症 3		特徴的な経過と予後・薬物治療				講義	田中和	
15	統合失調症 4		治療とリハビリテーション				講義	田中和	
16	気分感情障害 1		定義・概念・主な病型				講義	田中和	
17	気分感情障害 2		各論（うつ病・躁うつ病・持続性気分障害） 治療と援助・リハビリテーション				講義	田中和	
18	神経症性障害 1		定義・概念・各論（神経症・強迫・ストレス）				講義	田中和	
19	神経症性障害 2		各論（身体表現性障害・解離・その他の神経症性障害）・治療と援助				講義	田中和	
20	生理的障害および身体的要因に関連した障害		生理的レベルと身体的レベルの障害・性関連				講義	田中和	
21	パーソナリティの障害 1		人格・行動・性の障害				講義	田中和	
22	パーソナリティの障害 2		代表的な分類				講義	田中和	
23	精神遅滞		概要・定義・分類・代表的疾患				講義	田中和	
24	心理発達の障害 1		概要・広汎性発達障害 1				講義	田中和	

25	心理発達の障害 2	広汎性発達障害 2	講義	田中和			
26	ライフサイクルにおける精神医学 1	概要・小児期・青年期の精神医学	講義	田中和			
27	ライフサイクルにおける精神医学 2	成人期・老年期の精神医学	講義	田中和			
28	コンサルテーション・リエゾン精神医学	相談連携精神医学について	講義	田中和			
29	精神障害の治療とリハビリテーション 1	精神障害とリハビリテーション・インフォームドコンセントの原則 1	講義	田中和			
30	精神障害の治療とリハビリテーション 2	精神障害とリハビリテーション・インフォームドコンセントの原則 2	講義	田中和			
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	(書籍名, 出版社, 著編者)						
教材・参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 ¥4,400						
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	・精神医学を身近な問題としてとらえ、主体的に学習すること。 ・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。						

科目名	病理学Ⅱ					理学療法科				
学年	1	分野	基礎医学	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	谷口 邦久				科 目 担当者	谷口 邦久				
科目 概要	病理学は基礎医学と臨床医学の架け橋であるため、病態生理の正しい理解が必要となります。病理学Ⅱでは、病理学Ⅰで学んだ病因論・病原論・病態論の理解度を確認し、それが生活にどのように影響を与えているかを学ぶ。									
到達 目標	1. 医学書を読んで書いてあることが理解できること。 2. 医学用語の概念を理解し、適宜使えるようになること。									
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員		
1	病理学とは			形態学における観察方法			講義	谷口		
2	疾病の一般			疾病の経過・予後・転帰			講義	谷口		
3	病因論			内因・外因			講義	谷口		
4	退行性病変			変性・萎縮・壊死			講義	谷口		
5	代謝異常 1			蛋白質・アミノ酸代謝異常・脂質代謝異常			講義	谷口		
6	代謝異常 2			糖代謝異常・無機質代謝異常			講義	谷口		
7	代謝異常 3			色素代謝異常			講義	谷口		
8	進行性病変 1			肥大・過形成			講義	谷口		
9	進行性病変 2			化生・異形成			講義	谷口		
10	進行性病変 3			再生と創傷治癒			講義	谷口		
11	循環障害 1			体液循環の異常・全身循環の異常			講義	谷口		
12	循環障害 2			局所循環の異常			講義	谷口		
13	免疫 1			免疫の仕組み・免疫不全・後天性免疫不全			講義	谷口		
14	免疫 2			自己免疫疾患・			講義	谷口		
15	免疫 3			アレルギー・移植			講義	谷口		
16	炎症・感染症 1			炎症の原因・種類			講義	谷口		
17	炎症・感染症 2			感染症の原因・成立			講義	谷口		
18	炎症・感染症 3			微生物の感染経路・日和見感染			講義	谷口		
19	腫瘍 1			腫瘍の定義・腫瘍の組織構造			講義	谷口		
20	腫瘍 2			発癌の原因・腫瘍の分類（良性腫瘍・悪性腫瘍）			講義	谷口		
21	腫瘍 3			悪性腫瘍（癌・肉腫）、			講義	谷口		
22	腫瘍 4			悪性腫瘍の進展（転移）			講義	谷口		
23	放射性障害 1			放射線の種類と単位・放射性障害の分子細胞生物学的機序			講義	谷口		
24	放射性障害 2			放射線による臓器障害・放射線と発癌・医療における放射線			講義	谷口		
25	老化 1			生理的老化と寿命			講義	谷口		
26	老化 2			加齢に伴って増加する各臓器の疾患 1			講義	谷口		
27	老化 3			加齢に伴って増加する各臓器の疾患 2			講義	谷口		
28	先天性異常・奇形 1			先天異常・遺伝性疾患			講義	谷口		
29	先天性異常・奇形 2			染色体異常・奇形			講義	谷口		

30	病理総合	総合まとめ				講義	谷口
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学，医学書院，奈良 勲						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。 病理学Ⅰで履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低1時間ずつは行うこと。 記憶ではなく、理解することに努めること。						

科目名	一般臨床医学Ⅲ					理学療法科					
学年	4	分野	基礎医学	単位数	1 単位		時間数	30 時間		期間	通年
科 目 責任者	重松 直人				科 目 担当者	重松 直人					
科目 概要	2 年次に履修した一般内科学及び神経疾患を中心に、代表疾患の概要を学び、様々な内部障害の所見と考えられる疾患を理解し、臨床で活かせるようその知識を再度整理することに重点を置く。										
到達 目標	1. 内科及び神経疾患の基礎的な知識（概念、原因、症状）、特異的な病態を説明できる。 2. 理学療法士の業務上必要な単元を念頭に置くべきところの臨床症状をつかみ、鑑別できるようになる。										
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員		
1	主要な疾患			総論				講義	重松		
2	主要な疾患			脳卒中				講義	重松		
3	主要な疾患			運動麻痺				講義	重松		
4	主要な疾患			意識障害 認知症				講義	重松		
5	主要な疾患			パーキンソン病				講義	重松		
6	主要な疾患			運動ニューロン疾患①				講義	重松		
7	主要な疾患			運動ニューロン疾患②				講義	重松		
8	主要な疾患			脊髄損傷				講義	重松		
9	主要な疾患			末梢神経障害				講義	重松		
10	主要な疾患			炎症性神経疾患				講義	重松		
11	主要な疾患			神経外傷 てんかん				講義	重松		
12	主要な疾患			めまい 頭痛				講義	重松		
13	主要な疾患			運動失調 不随意運動①				講義	重松		
14	主要な疾患			運動失調 不随意運動②				講義	重松		
15	主要な疾患			感染性神経疾患				講義	重松		
16	診察概論			診察の意義				講義	重松		
17	視診			視診の意義と方法				講義	重松		
18	視診			身体各部の視診				講義	重松		
19	打診・触診・生命徴候			打診と触診の意義と方法				講義	重松		
20	打診・触診・生命徴候			生命徴候				講義	重松		
21	感覚検査 反射検査			感覚検査の意義と方法				講義	重松		
22	感覚検査 反射検査			反射検査の意義と種類①				講義	重松		
23	感覚検査 反射検査			反射検査の意義と種類②				講義	重松		
24	代表的な臨床症状			発熱 出血傾向				講義	重松		
25	代表的な臨床症状			リンパ節腫脹 意識障害				講義	重松		
26	代表的な臨床症状			チアノーゼ 関節痛				講義	重松		
27	代表的な臨床症状			浮腫 肥満 やせ				講義	重松		
28	検査法			生命徴候の測定 生理機能検査 運動機能検査①				講義	重松		
29	検査法			生命徴候の測定 生理機能検査 運動機能検査②				講義	重松		
30	総合			総合まとめ				講義	重松		
評価方法											

評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	1. わかりやすい内科学，文光堂 2. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学，医学書院						
教材・参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。						
履修上の 注意点	講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。2・3年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低1時間ずつは行うこと。						

科目名	保健医療福祉概論Ⅱ						理学療法科		
学年	4	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	前期
科 目 責任者	田中 和範			科 目 担当者	田中 和範				
科目 概要	この講義では、保健、医療、福祉とは何かについて学習する。また、それに関連した関係法規と制度の基礎知識や基礎理論について学ぶとともに、理学療法士として住民の健康な生活を支えるための制度とその活用方法を学ぶ。								
到達 目標	1. 保健医療福祉行政の基本、理念と目標について理解し、説明できる。 2. 保健医療福祉における各分野の制度の仕組みと機能、対策、保健活動の実際や動向について理解できる。 3. 行政における理学療法士の保健活動と期待される役割が理解できる。 4. 住民の健康な生活を支え、健康な地域づくりをすすめるための制度と活用方法が理解できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	リハビリテーション概論 1			ICF（概要）			講義	田中和	
2	リハビリテーション概論 2			ICF			講義	田中和	
3	リハビリテーション概論 3			理学療法士及び作業療法士法			講義	田中和	
4	リハビリテーション概論 4			個人情報保護法			講義	田中和	
5	リハビリテーション概論 5			クリニカルパス			講義	田中和	
6	リハビリテーション概論 6			インフォームド・コンセント			講義	田中和	
7	リハビリテーション概論 7			ユニバーサルデザイン、バリアフリー新法			講義	田中和	
8	リハビリテーション概論 8			ノーマライゼーション			講義	田中和	
9	リハビリテーション概論 9			身体障害者福祉法、身体障害者程度等級			講義	田中和	
10	リハビリテーション概論 10			障害者総合支援法			講義	田中和	
11	リハビリテーション概論 11			対人コミュニケーション能力			講義	田中和	
12	リハビリテーション概論 12			産業リハビリテーション			講義	田中和	
13	リハビリテーション概論 13			介護保険（概要、特定疾病）			講義	田中和	
14	リハビリテーション概論 14			介護保険（介護認定の流れ、介護保険サービス）			講義	田中和	
15	リハビリテーション概論 15			地域包括支援センター、地域包括ケアシステム			講義	田中和	
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	-	-	100
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論（第3版），診断と治療社，椿原彰夫								
教材・参考図書		適宜紹介する。							
オフィスアワー		講義前後。その他は講義時に確認すること。							
履修上の 注意点	・課題の提出期日に遅れず提出すること。 ・毎時間ごとに 90 分程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。								

科目名	臨床運動学Ⅱ					理学療法科			
学年	4	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	藤井 和彦			科 目 担当者	藤井 和彦				
科目 概要	理学療法の目的は基本的動作能力の回復である。対象者の健康状態に応じて、科学的根拠に基づいた理学療法を安全かつ確実に実践するためには、運動学を身に付けることは必須となる。卒業し臨床に出るにあたり、理学療法を行ううえでまず必要な運動学を、1～3 年次に学んだ順に再度知識を整理して習得する。基本的知識である運動学を、理学療法の専門的知識に結び付け、臨床での実践的技能に活かせることを目的とする。また、同時に国家試験対策も行っていく。								
到達 目標	1. 力学の基礎を理解し説明できる。 2. 人体の運動について理解し説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	力学の基礎①			単位①			講義	藤井	
2	力学の基礎②			単位②			講義	藤井	
3	力学の基礎③			仕事・仕事率・力学的エネルギー			講義	藤井	
4	力学の基礎④			ベクトル（合成・分解）			講義	藤井	
5	力学の基礎⑤			てこ①			講義	藤井	
6	力学の基礎⑥			てこ②			講義	藤井	
7	力学の基礎⑦			モーメント①			講義	藤井	
8	力学の基礎⑧			モーメント②			講義	藤井	
9	関節学総論			関節の形状分類			講義	藤井	
10	筋学総論			筋収縮のメカニズム・筋収縮の様態			講義	藤井	
11	神経学総論			伸長反射・運動単位			講義	藤井	
12	四肢・体幹の運動①			上肢の運動①			講義	藤井	
13	四肢・体幹の運動②			上肢の運動②			講義	藤井	
14	四肢・体幹の運動③			上肢の運動③			講義	藤井	
15	四肢・体幹の運動④			下肢の運動①			講義	藤井	
16	四肢・体幹の運動⑤			下肢の運動②			講義	藤井	
17	四肢・体幹の運動⑥			下肢の運動③			講義	藤井	
18	四肢・体幹の運動⑦			頭部（顔面）頸部の運動			講義	藤井	
19	四肢・体幹の運動⑧			体幹の運動			講義	藤井	
20	四肢・体幹の運動⑨			呼吸運動			講義	藤井	
21	姿勢①			重心・重心線			講義	藤井	
22	姿勢②			立位姿勢の安定性			講義	藤井	
23	姿勢③			重心動揺			講義	藤井	
24	歩行と走行①			歩行と運動学・歩行周期、			講義	藤井	
25	歩行と走行②			運動学的分析			講義	藤井	
26	歩行と走行③			運動力学的分析			講義	藤井	
27	歩行と走行④			運動力学的分析			講義	藤井	
28	歩行と走行⑤			小児・高齢者の歩行・異常歩行、走行			講義	藤井	
29	運動学習①			学習と記憶・運動技能学習の諸理論・運動学習の諸理論			講義	藤井	

30	運動学習②	学習の諸理論・運動学習の諸理論、練習と訓練				講義	藤井
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	基礎運動学，医歯薬出版，中村隆一						
教材・参考図書	適宜紹介する						
オフィスアワー	講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	・教科書上だけでなく身体イメージをつけ、模倣など行い他者に説明できるように復習すること。 ・毎時間ごとに 1.5 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。などを文中に加える。						

科目名	臨床運動学Ⅲ					理学療法科			
学年	4	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	通年
科 目 責任者	坂口文宏			科 目 担当者	坂口文宏				
科目 概要	人間発達学や小児の理学療法といった基礎を発展させ、病態に応じた理学療法アプローチが実践できるようになる。また、臨床で応用できるようにその知識を再度整理することに重点を置く。								
到達 目標	1. 発達に関する原則を理解し、発達過程を順序立てて考えることができるようになる。 2. 小児における疾患毎の特徴や病態を理解し、基礎的な理学療法アプローチを立案することができる。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	発達 1		導入・進化に見る脳の発達				講義	坂口	
2	発達 2		発達区分と原則				講義	坂口	
3	運動発達 1		胎児の行動				講義	坂口	
4	運動発達 2		背臥位の発達				講義	坂口	
5	運動発達 3		腹臥位の発達				講義	坂口	
6	運動発達 4		座位姿勢の発達				講義	坂口	
7	運動発達 5		立位と歩行の発達				講義	坂口	
8	運動発達 6		移動の発達				講義	坂口	
9	運動発達 7		上肢機能の発達				講義	坂口	
10	反射と反応 1		脊髄レベルの反射				講義	坂口	
11	反射と反応 2		脳幹レベルの反射				講義	坂口	
12	反射と反応 3		大脳皮質レベルの反射				講義	坂口	
13	反射と反応 4		反射と統合時期				講義	坂口	
14	発達障害 1		脳性麻痺（痙直型両麻痺）の運動障害				講義	坂口	
15	発達障害 2		脳性麻痺（痙直型両麻痺）の評価と治療計画				講義	坂口	
16	発達障害 3		脳性麻痺（アテトーゼ型）の運動障害				講義	坂口	
17	発達障害 4		脳性麻痺（アテトーゼ型）の評価と治療計画				講義	坂口	
18	発達障害 5		脳性麻痺（痙直型片麻痺）の運動障害				講義	坂口	
19	発達障害 6		脳性麻痺（痙直型片麻痺）の評価と治療計画				講義	坂口	
20	発達障害 7		筋ジストロフィーの運動障害				講義	坂口	
21	発達障害 8		筋ジストロフィーの評価と治療計画				講義	坂口	
22	発達障害 9		二分脊椎の特徴と理学療法				講義	坂口	
23	発達障害 10		重症心身障害児の特徴と理学療法				講義	坂口	
24	発達障害 11		ダウン症候群の特徴と理学療法				講義	坂口	
25	発達障害 12		低出生体重児の特徴と理学療法				講義	坂口	
26	評価 1		運動発達検査の概要				講義	坂口	
27	評価 2		改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査				講義	坂口	
28	評価 3		遠城寺式乳幼児分析的発達検査				講義	坂口	
29	評価 4		粗大運動能力分類システム（GMFCS）				講義	坂口	
30	社会的療育		障害のある子供の療育に関する法律				講義	坂口	
評価方法									
評価指標		定期試験	-	-	-	-	-	-	合計

評価割合 (%)		100	-	-	-	-	100
教科書	基礎運動学，医歯薬出版，中村 隆一他 こどもの理学療法，神陵文庫，田原 弘幸他						
教材・参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。						
オフィスアワー	月・火・金曜日 13：30－16：00 講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。 ・予習・復習を1時間は行い、次回の講義に備えること。学習内容の定着化を図ること。						

科目名	理学療法管理学Ⅱ						理学療法科			
学年	4	分野	専門	単位数	1 単位		時間数	30 時間	期間	後期
科 目 責任者	田中 和範				科 目 担当者	田中 和範				
科目 概要	理学療法士の職場は、病院や施設、在宅、教育施設や研究施設など多岐にわたる。様々な職場に対応できるよう、それぞれの場面における管理やマネジメントを学ぶことは重要である。本講義では、3 年次に学んだ理学療法管理学Ⅰを踏まえて、特に医療現場ではどのような点に気を付けながら理学療法を行うかというリスク管理について理解をする。また、近年、予防医療が注目されており、どの時期にどのような関わり方をするかということを理学療法の知識・技術の更なる社会還元を目的とした関わり方を学ぶ。教育・研究のマネジメントについて学んでいく。 理学療法における科学性の重要性について理解し、研究の意義や目的、研究を行う上での具体的な方法について、研究を行う上で必要な基本的知識を含めて学ぶ。									
到達 目標	①安全な理学療法を提供するためには、どのようなリスク管理を行うかを学ぶ。 ②高齢化にみられる変化・老年症候群について学ぶ。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	組織運営とマネジメント 1			院内感染症対策				講義	田中和	
2	組織運営とマネジメント 2			標準予防策				講義	田中和	
3	組織運営とマネジメント 3			救急救命処置				講義	田中和	
4	組織運営とマネジメント 4			予防医学（一次・二次・三次）				講義	田中和	
5	理学療法の基盤			クリニカルパス				講義	田中和	
6	リハビリテーション医学 1			高齢化にみられる変化・老年症候群（フレイル、サルコペニア）				講義	田中和	
7	リハビリテーション医学 2			理学療法ガイドライン、推奨グレード分類				講義	田中和	
8	理学療法教育・研究総論			研究手法の種類、研究用語の説明				講義	田中和	
9	統計学基礎			帰無仮説と対立仮説、第 1 の過誤と第 2 の過誤、尺度の分類				講義	田中和	
10	検定法			代表的な検定法の種類と特徴（パラメトリックとノンパラメトリック）				講義	田中和	
11	研究手法 1			疫学調査の実情				講義	田中和	
12	研究手法 2			無作為化比較試験とコホート研究				講義	田中和	
13	研究手法 3			ケースコントロール研究と記述的研究				講義	田中和	
14	研究手法 4			シングルケーススタディとシングルケースデザイン				講義	田中和	
15	エビデンスに基づく医療とは			EBM の定義と目的、科学的根拠の意味、エビデンスグレードと EBM の手順				講義	田中和	
評価方法										
評価指標		定期試験		-	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100		-	-	-	-	-	-	100
教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 中山書店 理学療法管理学									
教材・参考図書		15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法管理学								
オフィスアワー		講義前後。その他は講義時に確認すること。								
履修上の 注意点	・毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。									

科目名	理学療法評価学Ⅴ					理学療法科			
学年	4	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	荒巻 寛幸			科 目 担当者	荒巻 寛幸				
科目 概要	評価学の集大成と言った位置づけで、本講義は進めていく。 再検討する内容は、国家試験対策として十分な知識を得ることができるため、各人が復習を丹念に実施 するよう心掛けていただきたい。								
到達 目標	各人が、各疾患別の臨床像を想定した評価の在り方を再考し体得する。								
回数	単元項目		授業内容				形態	担当教員	
1	徒手筋力テストの実際 その 1		上肢の MMT の実際				講義	荒巻	
2	徒手筋力テストの実際 その 2		下肢の MMT の実際				講義	荒巻	
3	徒手筋力テストの実際 その 3		体幹・頸部の実際				講義	荒巻	
4	徒手筋力テストの実際 その 4		代償運動を考える				講義	荒巻	
5	関節可動域測定法の実際 その 1		上肢の ROM の実際 1				講義	荒巻	
6	関節可動域測定法の実際 その 2		上肢の ROM の実際 2				講義	荒巻	
7	関節可動域測定法の実際 その 3		下肢の ROM の実際				講義	荒巻	
8	形態測定		四肢長・周径の実際				講義	荒巻	
9	感覚検査		感覚検査の実際				講義	荒巻	
10	反射・反応		腱反射及び病的反射と理学療法の相互関係				講義	荒巻	
11	Brunnstrom 法 1		理学療法の中の Brunnstrom 法 その 1				講義	荒巻	
12	Brunnstrom 法 2		理学療法の中の Brunnstrom 法 その 2				講義	荒巻	
13	協調性検査		運動失調をめぐる評価の在り方				講義	荒巻	
14	認知症検査		理学療法遂行上の認知症検査（HDS-R）の在り方				講義	荒巻	
15	粗大運動能力分類システム その 1		総論				講義	荒巻	
16	粗大運動能力分類システム その 1		年齢区分別の特徴 2 歳まで及び 2 歳～4 歳まで				講義	荒巻	
17	粗大運動能力分類システム その 1		年齢区分別の特徴 4 歳～6 歳まで及び 6 歳～12 歳まで				講義	荒巻	
18	粗大運動能力分類システム その 1		年齢区分別の特徴 12 歳～18 歳まで				講義	荒巻	
19	呼吸機能検査		肺音聴診、スパイロメータの実際				講義	荒巻	
20	神経筋疾患		運動神経伝導速度の測定の実際				講義	荒巻	
21	発達障害の評価 その 1		遠城寺式乳幼児分析的発達検査の実際				講義	荒巻	
22	発達障害の評価 その 2		日本版デンバー式発達クリーニング検査の実際				講義	荒巻	

23	バイタルチェック	リスク管理とバイタルチェック	講義	荒巻
24	整形外科検査法 その1	各検査法の特徴1	講義	荒巻
25	整形外科検査法 その2	各検査法の特徴2	講義	荒巻
26	整形外科検査法 その3	各検査法の特徴3	講義	荒巻
27	理学療法評価と研究法 その1	オッズ比を理解する。	講義	荒巻
28	理学療法評価と研究法 その2	前方研究及び広報研究を理解する。	講義	荒巻
29	理学療法評価と研究法 そ の3	感度と特異度を理解する。	講義	荒巻
30	理学療法評価と研究法 そ の4	コホート研究とケースコントロール研究を理 解する。	講義	荒巻
評価方法				
評価指標	定期試験	小テスト	-	合計
評価割合 (%)	90	10	-	100
教科書	PT/OT 国家試験必須ポイント(4冊) 専門基礎分野、医歯薬出版、白石 泰夫			
教材・参考図書	適宜資料を配布する。			
オフィスアワー	月曜から金曜日までの毎夕 (16時～18時)			
履修上の 注意点	・評価をめぐる理論と実際の齟齬を考えること。 ・毎回の授業内容については十分な復習をすること。			

科目名	運動療法学Ⅲ					理学療法科				
学年	4	分野	専門	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	山本 拓史			科 目 担当者	山本 拓史					
科目 概要	本講義では、整形外科領域における解剖学と言った位置づけで授業を進めていく。また本講義の意図は、基礎的思考を十分に身につけていただきたい点にある。 本科目では、整形外科疾患と脊髄損傷の運動療法について疾患と理解と運動療法の結び付けを深めることを目的とする。一般に多くの人が体験する怪我の多くは整形外科分野であり、卒業後の理学療法で多く関わることが考えられる。2 年時に履修した整形外科の知識と理学療法の実践を理解し、卒業後の理学療法実施に直結できるような講義を実施していく。									
到達 目標	1. 各運動器疾患の病態を理解し、特徴を説明できる。 2. 各運動器疾患の病態を理解したうえで、時期に応じて最適な理学療法を選択することが出来る。 3. 脊髄損傷の病態を理解したうえで、適切な理学療法を選択する力をつける。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	骨関節障害①			骨折の特徴				講義	山本	
2	骨関節障害②			肩関節				講義	山本	
3	骨関節障害③			肘関節				講義	山本	
4	骨関節障害④			手関節				講義	山本	
5	骨関節障害⑤			股関節				講義	山本	
6	骨関節障害⑥			膝関節				講義	山本	
7	骨関節障害⑦			足関節				講義	山本	
8	骨関節障害⑧			体幹①（頸椎・腰椎椎間板ヘルニア、椎体圧迫骨折、沁り症、分離症）				講義	山本	
9	骨関節障害⑨			体幹②（側弯症）				講義	山本	
10	骨関節障害⑨			体幹③（後縦靱帯骨化症、黄色靱帯骨化症）				講義	山本	
11	小児整形外科疾患			骨端症				講義	山本	
12	小児整形外科疾患			先天性骨関節疾患				講義	山本	
13	関節リウマチ①			特徴（脱臼、変形拘縮）				講義	山本	
14	関節リウマチ②			理学療法（評価、生活指導、装具療法、薬物療法）				講義	山本	
15	骨粗鬆症			特徴				講義	山本	
16	末梢神経損傷			分類、各疾患（上肢、下肢）				講義	山本	
17	外傷①			コンパートメント症候群、挫滅症候群				講義	山本	
18	外傷②			熱傷				講義	山本	
19	上肢の関節疾患			腱板損傷、脱臼				講義	山本	
20	下肢の関節疾患			検査、理学療法、術後理学療法				講義	山本	
21	脊髄の病態理解			脊髄の解剖、脊髄損傷の原因・死亡率と死因				講義	山本	
22	理学療法評価 1			障害評価と評価法				講義	山本	
23	理学療法評価 2			情報収集と評価項目				講義	山本	
24	理学療法評価 3			脊髄不全損傷の特殊型と脊髄完全損傷 1				講義	山本	
25	理学療法評価 4			脊髄不全損傷の特殊型と脊髄完全損傷 2				講義	山本	
26	脊髄損傷の実際 1			各受傷レベル別病態の理解				講義	山本	
27	脊髄損傷の実際 2			レベル別理学療法				講義	山本	

28	脊髄損傷の実際 3	脊髄不全損傷の特殊型と脊髄完全損傷の対する理学療法				講義	山本
29	脊髄損傷の実際 4	自律神経障害、痙性麻痺、褥瘡への対応				講義	山本
30	脊髄損傷総論	脊髄損傷と理学療法				講義	山本
評価方法							
評価指標		定期試験	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)		100	-	-	-	-	100
教科書	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論, 医学書院, 奈良 勲 PT マニュアル 脊髄損傷の理学療法, 医歯薬出版, 武田 功						
教材・参考図書		その他適宜紹介する。					
オフィスアワー		各講義の前後に質問を受ける。					
履修上の 注意点		1. 解剖学に基づいた疾患別の理学療法となるため、1 年時に履修した解剖額を十分に復習しておくこと。 2. 生理学の知識をもとに脊髄損傷について学習していくため、十分に予習をすること。 3. 毎時間ごとに 1 時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。					

科目名	理学療法実践論Ⅲ					理学療法科				
学年	4	分野	専門	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	中村 正恵			科 目 担当者	中村 正恵					
科目 概要	本講義では、卒業し臨床現場で各疾患に対して科学的根拠に基づいた理学療法が確実に実践できるよう、特に脳血管疾患、神経筋疾患を中心に学習する。より具体的な内容は、脳血管疾患領域では中枢神経系の神経組織、ニューロン、神経細胞の種類、支持組織や伝導路などについて、解剖学的発生機序も踏まえて検討していく。また、脳卒中などの脳神経外科疾患についてもその病態や症状について概説し、脳の構造と機能を十分に理解しながら、実際の臨床でのアプローチについて学んでいく。 また、神経筋疾患に対しても、各種疾患の病態や特徴を踏まえながら、具体的なアプローチの方法を概説する。									
到達 目標	1. 神経系の構造・形態およびその機能について理解し、説明できる。 2. 脳神経外科疾患の病態や症状、高次脳機能障害など典型的な障害像を説明できる。 3. 各種神経筋疾患の病態・特徴・障害を説明できる。									
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員		
1	中枢神経系の機能解剖 1			灰白質、白質と神経節、根、脳室系			講義	中村		
2	中枢神経系の機能解剖 2			脳の基本的構造、髄膜と脳脊髄液			講義	中村		
3	中枢神経系の機能解剖 3			脊髄内部構造、脊髄前根と後根			講義	中村		
4	中枢神経系の機能解剖 4			脳神経、脊髄神経、伝導路、反射路等			講義	中村		
5	脳血管疾患の障害 1			脳卒中の病態・特徴、中枢性麻痺の本態			講義	中村		
6	脳血管疾患の障害 2			共同運動パターンと連合反応、姿勢反射と平衡反応			講義	中村		
7	脳血管疾患の障害 3			痙性と筋緊張異常			講義	中村		
8	脳血管疾患の障害 4			頭部外傷・脳外傷の種類と特徴、高次脳機能障害			講義	中村		
9	高次脳機能障害 1			失行と失認			講義	中村		
10	高次脳機能障害 2			失語とその他種々の高次脳機能障害			講義	中村		
11	脳卒中の画像の診かた 1			各断面像での CT 画像			講義	中村		
12	脳卒中の画像の診かた 2			各断面像での MRI 画像（T1・T2）			講義	中村		
13	脳卒中の画像の診かた 3			各断面像での MRI 画像（FLAIR・DWI）			講義	中村		
14	脳血管疾患後の機能回復 1			Brunnstrom ステージと回復過程			講義	中村		
15	脳血管疾患後の機能回復 2			Brunnstrom ステージと機能訓練			講義	中村		
16	脳血管疾患後の機能回復 3			急性期の具体的アプローチ			講義	中村		
17	脳血管疾患後の機能回復 4			回復期の具体的アプローチ			講義	中村		
18	脳血管疾患後の機能回復 5			生活期の具体的アプローチ			講義	中村		
19	神経筋疾患 1			パーキンソン病の概念と病態			講義	中村		
20	神経筋疾患 2			パーキンソン病の治療の実際			講義	中村		
21	神経筋疾患 3			脊髄小脳変性症の概念と病態			講義	中村		
22	神経筋疾患 4			脊髄小脳変性症の治療の実際			講義	中村		
23	神経筋疾患 5			筋ジストロフィーの概念と病態			講義	中村		
24	神経筋疾患 6			筋ジストロフィーの治療の実際			講義	中村		
25	神経筋疾患 7			筋萎縮性側索硬化症の概念と病態			講義	中村		
26	神経筋疾患 8			筋萎縮性側索硬化症の治療の実際			講義	中村		

27	神経筋疾患 9	多発性硬化症の概念と病態	講義	中村
28	神経筋疾患 10	多発性硬化症の治療の実際	講義	中村
29	神経筋疾患 11	ギラン・バレー症候群の概念と病態、治療の実際	講義	中村
30	神経筋疾患 12	多発神経炎の概念と病態、治療の実際	講義	中村
評価方法				
評価指標	定期試験	－	－	合計
評価割合 (%)	100	－	－	100
教科書	解剖学，医歯薬出版，岸 清他）（運動療法Ⅰ，神陵文庫，千住 秀明			
教材・参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	各講義前後			
履修上の 注意点	1. 授業は授業以外の時間でも復習と予習をしておくこと。 2. 講義は教科書・参考書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。			

科目名	理学療法実践論Ⅳ					理学療法科				
学年	4	分野	専門	単位数	2 単位		時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	坂口 文宏			科 目 担当者	坂口 文宏					
科目 概要	本科目は1年生の時から培った内科疾患に対する理学療法、運動療法、物理療法の総括的な位置づけとなり、各分野において基本的に臨床現場において特に必要である内容をピックアップして深めていく。各分野において理学療法を行う際のリスク管理や、理学療法の根幹となる運動療法、物理療法を深化させ、臨床の現場で活用できるよう学習する。									
到達 目標	1. 内部障害の病態や症状など典型的な障害像、リハビリテーションについて説明できる。 2. 障害と運動療法との関係についての総合的理解を深めることができる。 3. 理学療法において物理療法の位置づけと意義を理解し、各物療機器と疾患と結びつけることができる。									
回数	単元項目			授業内容				形態	担当教員	
1	呼吸機能障害 1			呼吸器の構造、機能評価				講義	坂口	
2	呼吸機能障害 2			COPD の理学療法				講義	坂口	
3	呼吸機能障害 3			呼吸リハビリテーションの実際				講義	坂口	
4	循環機能障害 1			虚血性心疾患の理学療法				講義	坂口	
5	循環機能障害 2			心不全、大動脈疾患の理学療法				講義	坂口	
6	循環機能障害 3			心電図の視かた				講義	坂口	
7	循環機能障害 4			ASO、DVT の理学療法				講義	坂口	
8	代謝障害 1			糖尿病の治療と理学療法				講義	坂口	
9	代謝障害 2			腎疾患の理学療法				講義	坂口	
10	がんのリハビリテーション			がんのリハビリテーションの実際				講義	坂口	
11	運動療法の基礎 1			骨、関節、運動の基礎復習				講義	坂口	
12	運動療法の基礎 2			基本的運動、分類（力源、筋収縮状態）				講義	坂口	
13	運動療法機器			運動療法と機器の基本的結びつけ、目的、種類と判別				講義	坂口	
14	関節可動域運動 1			目的、種類、制限因子、関節の遊び、凹凸の法則、関節モビライゼーションの復習				講義	坂口	
15	関節可動域運動 2			関節可動域運動の実際				講義	坂口	
16	筋力総論			筋力増強の目的・適応、筋力に影響する因子、一般的原則の再確認				講義	坂口	
17	筋力・筋持久力運動 1			種類、筋持久力、全身持久力との違い				講義	坂口	
18	協調性回復運動			運動の協調性、障害、目的、原則、フレンケル体操、重り負荷の復習				講義	坂口	
19	神経生理学的アプローチ			基本概念、生理学的基礎、理論と遂行の実際				講義	坂口	
20	温熱療法総論			熱生理学 温熱療法の定義・分類・基礎及び生理学的作用				講義	坂口	
21	温熱療法各論			ホットパック、パラフィン、超音波の適応、各機器に対する疾患別選択				講義	坂口	
22	寒冷療法総論			熱生理学 寒冷療法の定義・分類・基礎及び生理学的作用 実際の物療機器				講義	坂口	
23	水治療法総論			水治療法の対象、交代浴、過流浴の適応・禁忌・生理学的作用				講義	坂口	
24	牽引療法総論			頸椎・腰椎牽引の基礎の適応・禁忌・説明、実技指導理学的作用				講義	坂口	

25	電機療法総論	電機療法の基礎の再復習、身体に及ぼす影響について	講義	坂口			
26	電機療法各論 1	FES、TES、TENS の違い、低周波、干渉波の適応・禁忌・生理学的作用	講義	坂口			
27	電機療法各論 2	電気診断および筋電図バイオフィードバックについて	講義	坂口			
28	光線療法総論	光線療法の基礎、身体に及ぼす影響について	講義	坂口			
29	光線療法各論 1	各種光線療法の対象、紫外線と赤外線、適応・禁忌・生理学的作用	講義	坂口			
30	光線療法各論 2	極超短波、レーザーの基礎、適応・禁忌・生理学的作用	講義	坂口			
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	ビジュアルレクチャー内部障害理学療法学, 医歯薬出版, 高橋哲也 理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ, 神陵文庫, 千住秀明 標準理学療法学 物理療法学, 医学書院, 奈良 勲						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	月・火・金曜日 13:30-16:00 講義前後。その他は講義時に確認すること。						
履修上の 注意点	・講義は教科書・参考書を主体とし、追加資料などで捕捉を行う。 ・毎時間ごとに1時間程度の予習・復習を行い、次回の講義に備えること。						

科目名	複合的理学療法学						理学療法科		
学年	4	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	仲濱 毅			科 目 担当者	仲濱 毅				
科目 概要	2008 年の診療報酬改定において、弾性着衣およびリンパ浮腫の発症防止および重症化等抑制のための指導に保険適応がなされて以降、リンパ浮腫の治療が急速に広く知られるようになり、リンパ浮腫指導技能者の育成に拍車がかかることとなった。今後、リンパ浮腫に関する知識と治療技術を修得した理学療法士が増えることにより、リンパ浮腫を発症する患者数、重症化する患者数が減少することが期待されている。 そこで、この科目では、リンパ浮腫の発生するメカニズムから複合的治療の技術の修得。さまざまな問題の解決方法と科学的根拠の紹介、保険の仕組みと適応について講義・実技・演習を交えて教授していく。								
到達 目標	1. リンパおよびリンパ系の名称・構造・機能を理解する。 2. リンパ浮腫の病態および評価について説明できる。 3. 複合的治療について説明かつ実践できる。 4. リンパ浮腫患者の日常生活の援助について説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	リンパ・リンパ系とは			リンパの機能・構造、走行・流れの特徴			講義	仲濱	
2	浮腫とは①			体液量の調整と循環のしくみ			講義	仲濱	
3	浮腫とは②			浮腫のメカニズム、原因・要因別浮腫			講義	仲濱	
4	リンパ浮腫の分類と診断①			リンパ浮腫の定義・分類、症状及び鑑別診断			講義	仲濱	
5	リンパ浮腫の分類と診断②			リンパ浮腫の検査、合併症			講義	仲濱	
6	リンパ浮腫の保存療法①			複合的治療について			講義	仲濱	
7	リンパ浮腫の保存療法②			基本包帯法、圧迫療法（多層包帯法）			講義	仲濱	
8	リンパ浮腫の保存療法③			圧迫療法（多層包帯法）下肢			講義	仲濱	
9	リンパ浮腫の保存療法④			圧迫療法（多層包帯法）下肢			講義	仲濱	
10	リンパ浮腫の保存療法⑤			圧迫療法（多層包帯法）下肢			講義	仲濱	
11	リンパ浮腫の保存療法⑥			圧迫療法（多層包帯法）上肢			講義	仲濱	
12	リンパ浮腫の保存療法⑦			圧迫療法（多層包帯法）上肢			講義	仲濱	
13	リンパ浮腫の保存療法⑧			圧迫療法（多層包帯法）上肢			講義	仲濱	
14	リンパ浮腫の保存療法⑨			用手的リンパドレナージ（基本手技）			講義	仲濱	
15	リンパ浮腫の保存療法⑩			用手的リンパドレナージ（頸・腹部）			講義	仲濱	
16	リンパ浮腫の保存療法⑪			用手的リンパドレナージ上肢			講義	仲濱	
17	リンパ浮腫の保存療法⑫			用手的リンパドレナージ上肢			講義	仲濱	
18	リンパ浮腫の保存療法⑬			用手的リンパドレナージ上肢			講義	仲濱	
19	リンパ浮腫の保存療法⑭			用手的リンパドレナージ下肢			講義	仲濱	
20	リンパ浮腫の保存療法⑮			用手的リンパドレナージ下肢			講義	仲濱	
21	リンパ浮腫の保存療法⑯			用手的リンパドレナージ下肢			講義	仲濱	
22	リンパ浮腫の保存療法⑰			弾性着衣			講義	仲濱	
23	評価			四肢の計測			講義	仲濱	
24	リンパ浮腫患者の ADL 援助 ①			リンパ浮腫の予防、重症化の抑制			講義	仲濱	

25	リンパ浮腫患者の ADL 援助 ②	セルフケアの指導とサポート	講義	仲濱			
26	社会的資源の活用	リンパ浮腫治療の保険適応	講義	仲濱			
27	CACE STADY①	肥満のある患者、細さを重視する患者	講義	仲濱			
28	CACE STADY②	外傷性及び下腹部リンパ浮腫の患者	講義	仲濱			
29	CACE STADY③	セルフケアを十分に実践できない患者	講義	仲濱			
30	リンパ浮腫のクリニカルパス	保存的治療の基本パス	講義	仲濱			
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	看護師・理学療法士のためのリンパ浮腫と手技とケア 学研 廣田 影男						
教材・参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。90 分の事前・事後学修を行うこと。						
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体に進める。事前に教科書の予習し参加すること。板書を多用し、図を描くことも多いので、色ペン、色鉛筆を準備しておくことが望ましい。また、実技の場合にはTシャツ・短パン及び指定された実技道具の準備をしておくこと。						

科目名	総合領域					理学療法科			
学年	4	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	後期
科 目 責任者	重松 直人			科 目 担当者	理学療法科教員				
科目 概要	臨床で活かせるようその知識を再度整理することに重点を置く。								
到達 目標	1. 内科及び神経疾患の基礎的な知識（概念、原因、症状）を身に付ける。 2. 理学療法士の業務上必要な単元を念頭に置くべきところの臨床症状をつかみ、鑑別できるようにする。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	主要な疾患			総論			講義	PT 科教員	
2	主要な疾患			脳卒中			講義	PT 科教員	
3	主要な疾患			運動麻痺			講義	PT 科教員	
4	主要な疾患			意識障害 認知症			講義	PT 科教員	
5	主要な疾患			パーキンソン病			講義	PT 科教員	
6	主要な疾患			運動ニューロン疾患①			講義	PT 科教員	
7	主要な疾患			運動ニューロン疾患②			講義	PT 科教員	
8	主要な疾患			脊髄損傷			講義	PT 科教員	
9	主要な疾患			末梢神経障害			講義	PT 科教員	
10	主要な疾患			炎症性神経疾患			講義	PT 科教員	
11	主要な疾患			神経外傷 てんかん			講義	PT 科教員	
12	主要な疾患			めまい 頭痛			講義	PT 科教員	
13	主要な疾患			運動失調 不随意運動①			講義	PT 科教員	
14	主要な疾患			運動失調 不随意運動②			講義	PT 科教員	
15	主要な疾患			感染性神経疾患			講義	PT 科教員	
16	診察概論			診察の意義			講義	PT 科教員	
17	視診			視診の意義と方法			講義	PT 科教員	
18	視診			身体各部の視診			講義	PT 科教員	
19	打診・触診・生命徴候			打診と触診の意義と方法			講義	PT 科教員	
20	打診・触診・生命徴候			生命徴候			講義	PT 科教員	
21	感覚検査 反射検査			感覚検査の意義と方法			講義	PT 科教員	
22	感覚検査 反射検査			反射検査の意義と種類①			講義	PT 科教員	
23	感覚検査 反射検査			反射検査の意義と種類②			講義	PT 科教員	
24	代表的な臨床症状			発熱 出血傾向			講義	PT 科教員	
25	代表的な臨床症状			リンパ節腫脹 意識障害			講義	PT 科教員	
26	代表的な臨床症状			チアノーゼ 関節痛			講義	PT 科教員	
27	代表的な臨床症状			浮腫 肥満 やせ			講義	PT 科教員	
28	検査法			生命徴候の測定 生理機能検査 運動機能検査①			講義	PT 科教員	
29	検査法			生命徴候の測定 生理機能検査 運動機能検査②			講義	PT 科教員	
30	総合			総合まとめ			講義	PT 科教員	

評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	1. わかりやすい内科学 文光堂 ¥9,000 2. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院 ¥4,600 3. 神経内科学の講義がそのまま本になりました 医学教育出版社 ¥4,200						
教材・参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。						
オフィスアワー	各講義の前後。90 分は事前・事後学修を行うこと。						
履修上の 注意点	・講義は教科書を主体とし、追加資料やレジュメは基本的に学生に配布しない。2・3 年次に履修した内容であるため、事前の予習・復習を最低 1 時間ずつは行うこと。						

科目名	地域理学療法学								
学年	4	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年
科 目 責任者	山本 拓史			担当 教員	山本 拓史				
科目 概要	地域の実情を踏まえ、対象者の日常生活を推考することは、在宅を基本とした理学療法を進めるうえで必須とされる。本講義では、より実践的場面を想定し、対象者の状況把握をどのように進めるべきかについて紹介する。 また、卒業後臨床に出るにあたり、2 年次に履修した義肢装具学の基本的な知識を踏まえた上で、義肢装具の処方や地域での生活場面における適応について学ぶ。								
到達 目標	1. 日常生活場面における評価の方法とリハビリテーション支援について説明できる。 2. 疾患別の日常生活活動について理解し説明できる。 3. 義肢装具の処方や地域での生活場面における適応について説明できる。								
回数	単元項目			授業内容			形態	担当教員	
1	ADL の概念			基本的 ADL と IADL			講義	山本	
2	日常生活の評価 1			BI について			講義	山本	
3	日常生活の評価 2			FIM について（運動項目）			講義	山本	
4	日常生活の評価 3			FIM について（運動項目）			講義	山本	
5	日常生活の評価 4			FIM について（認知項目）			講義	山本	
6	日常生活の評価 5			その他の評価表			講義	山本	
7	リハビリテーション支援機器 1			杖のチェックアウト			講義	山本	
8	リハビリテーション支援機器 2			一本杖動作、松葉杖動作			講義	山本	
9	リハビリテーション支援機器 3			車椅子介助、車椅子採型			講義	山本	
10	疾患別 ADL1			片麻痺患者の ADL			講義	山本	
11	疾患別 ADL2			リウマチ患者の ADL、腰痛患者の ADL			講義	山本	
12	疾患別 ADL3			義足患者の ADL、視覚障害患者の ADL			講義	山本	
13	疾患別 ADL3			老年期、疾患別 ADL			講義	山本	
14	自助具			疾患と自助具			講義	山本	
15	生活環境論			環境整備について			講義	山本	
16	生活場面での装具の適応			装具が必要な疾患と病態、処方における理学療法士の役割、補装具の支給と生活場面での適応			講義	山本	
17	装具総論			装具に使用される材料、材料力学の基礎、基本知識			講義	山本	
18	下肢装具の種類と特徴			下肢装具の種類と名称・適応、構成要素、股継手・膝継手・足継手の基礎			講義	山本	
19	下肢装具の処方と適合			下肢装具処方時の留意点、適合チェックポイント			講義	山本	
20	上肢装具の種類と特徴			上肢装具の種類と名称・適応、構成要素			講義	山本	
21	上肢装具の処方と適合			上肢装具処方時の留意点、適合チェックポイント			講義	山本	
22	靴・靴底の補正と適応			足の構造と機能、足底装具、靴の補正と適応			講義	山本	
23	体幹装具の種類と適応			頸椎・胸腰仙椎・側弯症装具の種類と適応			講義	山本	

24	各種疾患と装具のチェックポイント	脳血管障害、脳性麻痺、脊髄損傷、脊椎疾患、骨関節疾患、関節リウマチ	講義	山本			
25	生活場面での義肢・義足の適応	義肢・義足が必要な疾患と病態、処方における理学療法士の役割、生活場面での適応	講義	山本			
26	下腿義足の種類と特徴	下腿義足ソケットの種類、機能、荷重・牽引方法	講義	山本			
27	下腿義足の処方と適応	下腿義足処方時の留意点、適合チェックポイント、アライメントと異常歩行	講義	山本			
28	大腿義足の種類と特徴	大腿義足ソケットの種類、機能、荷重・牽引方法	講義	山本			
29	大腿義足の処方と適応	大腿義足処方時の留意点、適合チェックポイント、アライメントと異常歩行	講義	山本			
30	義手の種類と適応	能動・筋電義手の種類・適応	講義	山本			
評価方法							
評価指標	定期試験	-	-	-	-	-	合計
評価割合 (%)	100	-	-	-	-	-	100
教科書	1. 理学療法テキストⅤ 日常生活活動（ADL）神陵文庫 ¥4,500 2. 義肢装具のチェックポイント 医学書院 ¥7,600						
教材・参考図書	適宜紹介する。						
オフィスアワー	各講義前後						
履修上の 注意点	1. 授業は授業以外の時間でも復習と予習をしておくこと。						